

補
荃
夜
之
香

P
54
1

逍遙文庫
文庫 6
2070



四季雅筵

梅花衣之香

東都柳隄

貞松齋一馬撰



文庫6
2070

卷之六

為主為賓

探芳

十月十日

河東

印

初

遠州插花衣香序

余居白山日宅後開小園管塢

結欄藝四時花而培奉援技迎

蝶送蜂終日風詠于此中不少

有意於世間之事况敢求聞達

於人乎乃每至花時一筇雙鞋

天香
七
一

尋芳於東西探香南北栖乎
如不及焉余嘗有詩云一春三
事閑求句三尺有節唯趁花紀
此二事之實也當時自期如斯
送生涯則萬戶侯之富不必易
何圖虛名為煩具惹人間推引

不棄而徙家於都之通衢
寸地當寸金不翅不能得一
隙地而成曩時花塢依人求文
問學旦夜應接不得偷閑而盥
桓乎郊禁若舊時豈弟之風味
然不忍坐負花神齋頭安瓶排

窠得花，輒插。日景月夕，燈下之
佳。固多綸玉影兒，固兩一。皆
宜。早晚時，以一杯之水，澆花洗
葉，得心神常清爽。始覺無抱甕
而灌畦之勞矣。比夫藝花者，雨
畏敗，有風畏落，之憂則大者。煩

惱而反似殊勝矣。貞松齋一馬子
好瓶華，究盡遠州流插花方，為
一家師圖。其社中諸子，插得尤
美觀，而得方法者，當書家法帖
畫流粉本。仕君子，從事瓶花者，
取方于斯，則譬如子華端章甫。

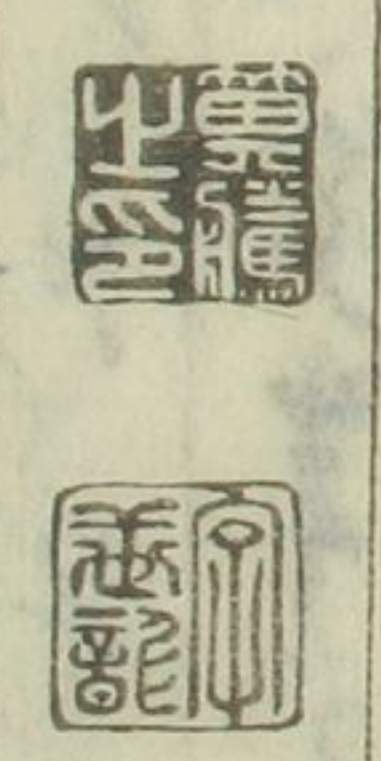
立于會同之廷，太真羽衣舞霓裳，笑至余，好瓶花，豈不似衡裸而奏參，搨西施，素足浣紗於苧蘿溪，乎哉不可謂非同臭味也。故不拒一馬子之求，序夫圖題遠州插花衣香者云。

寬政己未小春望後一日

孝經樓主人撰



牛山人書



本のまことば身と科のあはく
 成来る夢を一馬子のあはく
 急ぎお魚一に何と事
 わきいてそぬらばま一に瓶に
 うつて結ぶ事わ梅とこの
 ういんくく梅山吹藤と移る
 牡丹は流彩を流るる百とわめをく
 しき蓮あそこのまゆく露

花をたてとわぬくのうわら
 花ふ散るるあはれもあはれも月
 ひろこのこひぢう魚一芙蓉の白
 たえくそけい紅糸はうとく
 花の中へまきくは菊の教は
 けくしんうえぬねねとあはれ
 葉へおのふち把の急ぎあはれ
 つきくく菊はあはれとあはれ

昔頃もおもしろく帰花のあそび
 人ぢぢとすしむ情かゝるいふ
 花うのびあらしむくまうか
 老み酒半さる事の際に梅香け
 まじつ月情うりささるるれ
 絶つて秋心たのしく人々
 の一かゝり歌も実花よも
 必はきつと去るる半は歌
 録口



自叙

挿花のつゆをふかき
 とよむ心の中かまはれ
 事なりさす増とれ
 花の枝のまじり
 ありはるる
 花ははらわらひ

花の枝のまじり

ありはるる

此百有餘種の四季會席の如く一人為り
 插るるを其數種の中より其の如く
 二之種ありは一は一は一は一は一は
 よしと云ふも一種六の規則もせよと云ふ
 是れより其の如く其の如く其の如く
 様もよ花咲せむしと云ふは其の如く
 何れも其の如く其の如く其の如く

又せらるる如く其の如く其の如く
 おきくは其の如く其の如く其の如く
 神の如く其の如く其の如く其の如く
 其の如く其の如く其の如く其の如く
 插るる夜の色一歌一中人の如く其の如く
 みするの如く其の如く其の如く其の如く
 いゝと云ふ如く其の如く其の如く其の如く

貞松齋一馬後



後山先生書卷之二

題翠閣

總

深

足

在

垂

天... 卷之二

獨

命

王

采

香

漢法馬寬寫畫

泉齋

馬

同...

松竹梅

先師岸松齋一貞嘗買人
婿姻時種松竹梅今為弟謝
師恩卷首圖此一雅是予微意也



岸松齋
高森一貞



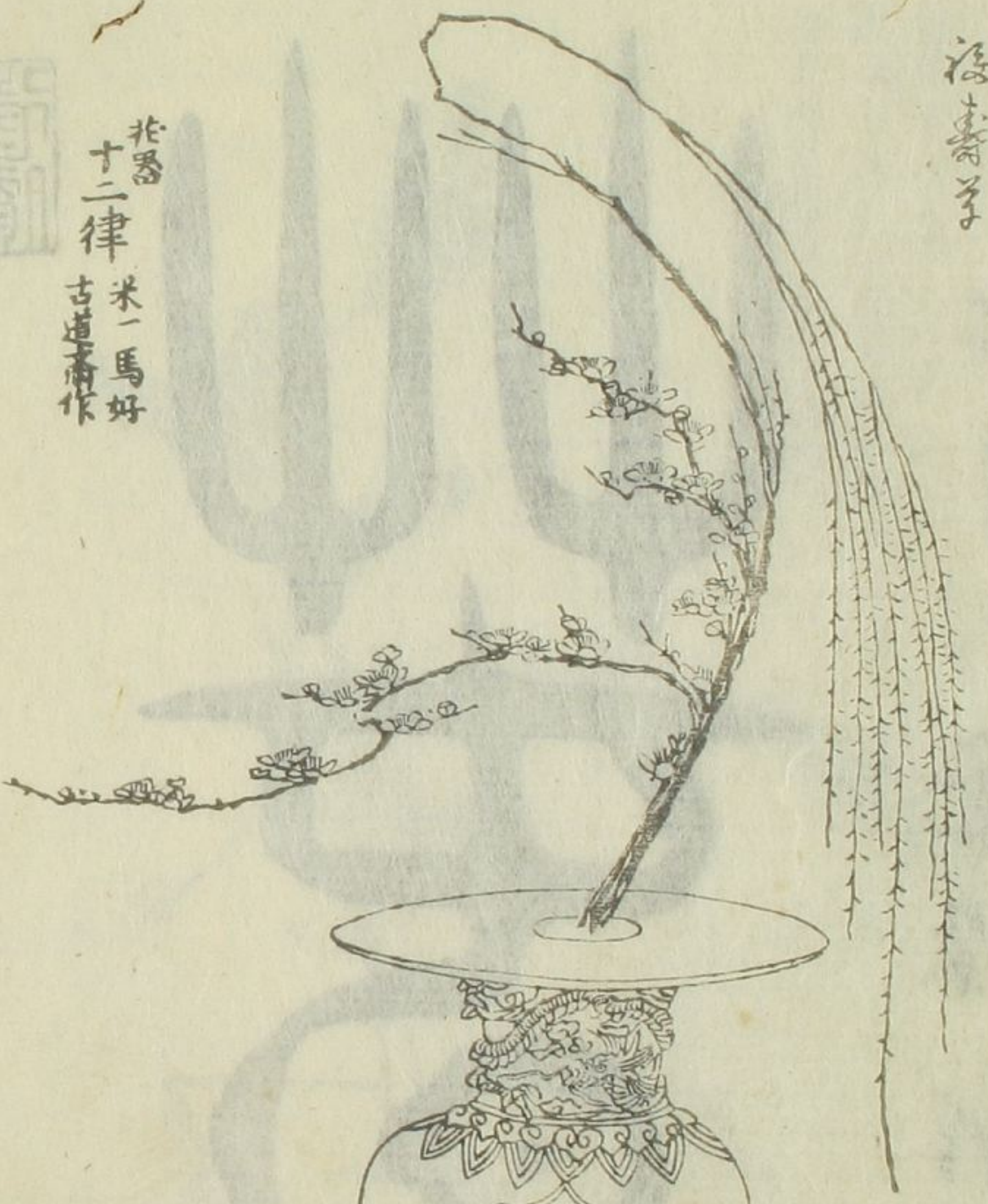
高

七十一六第深新書

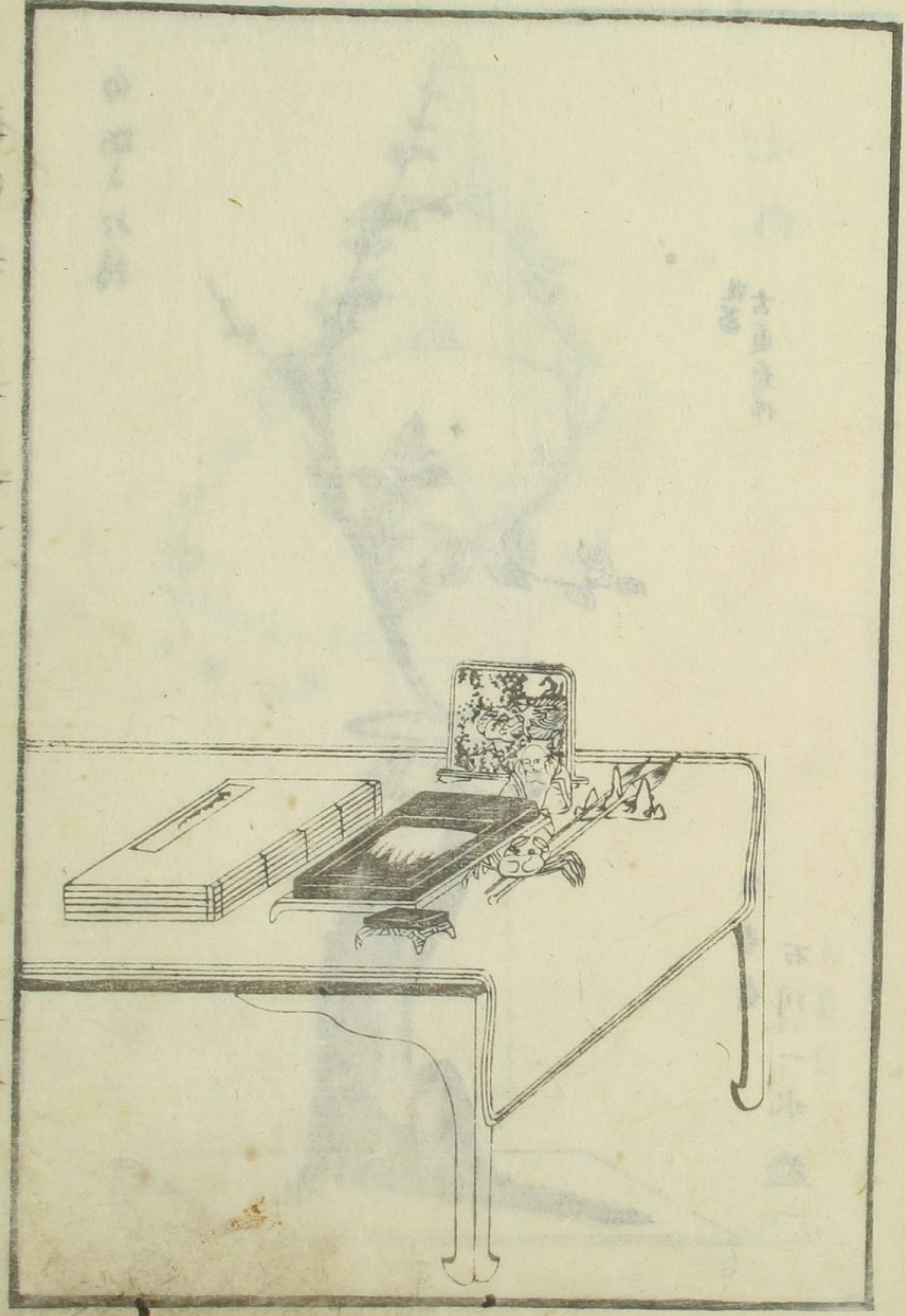
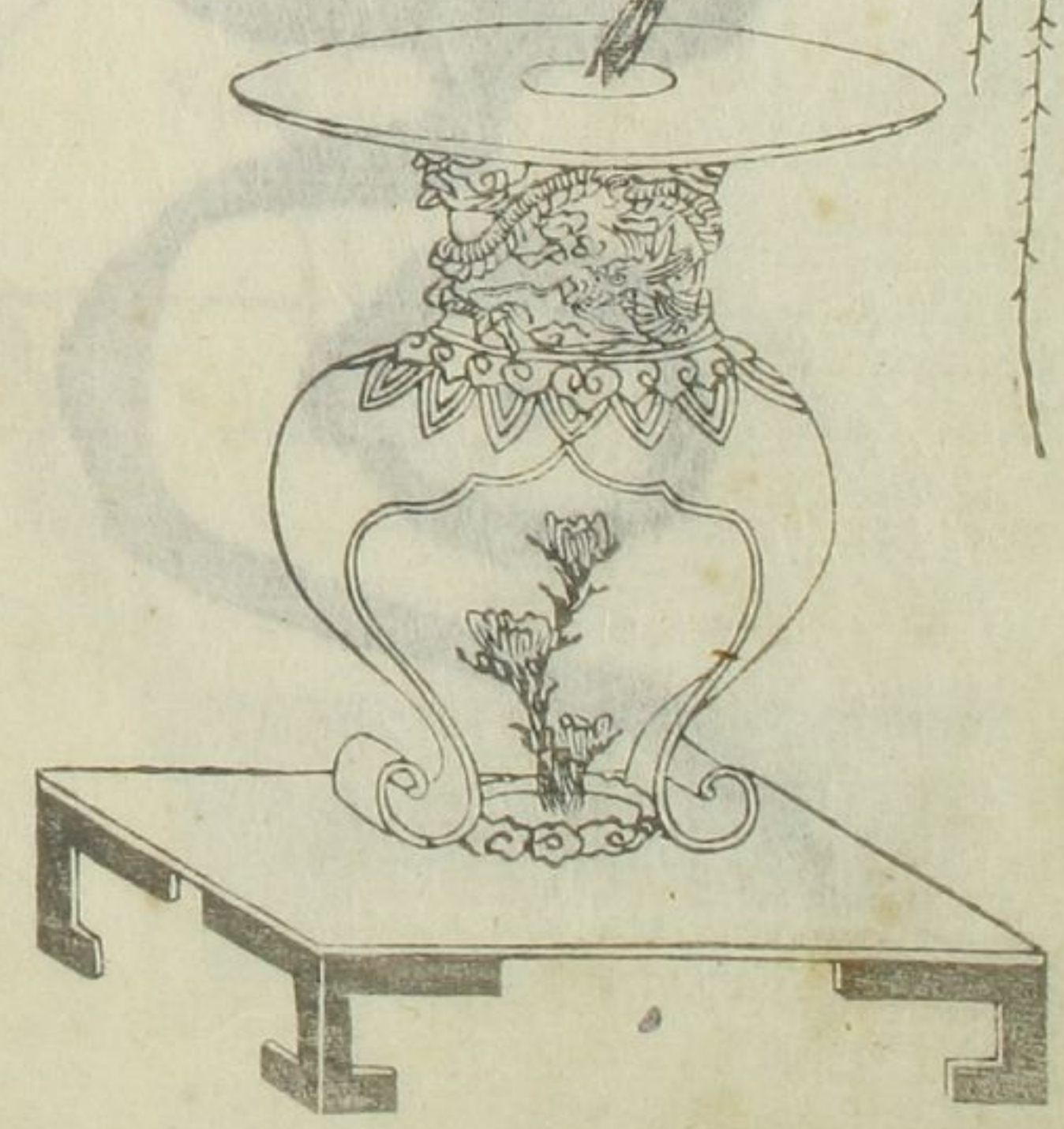


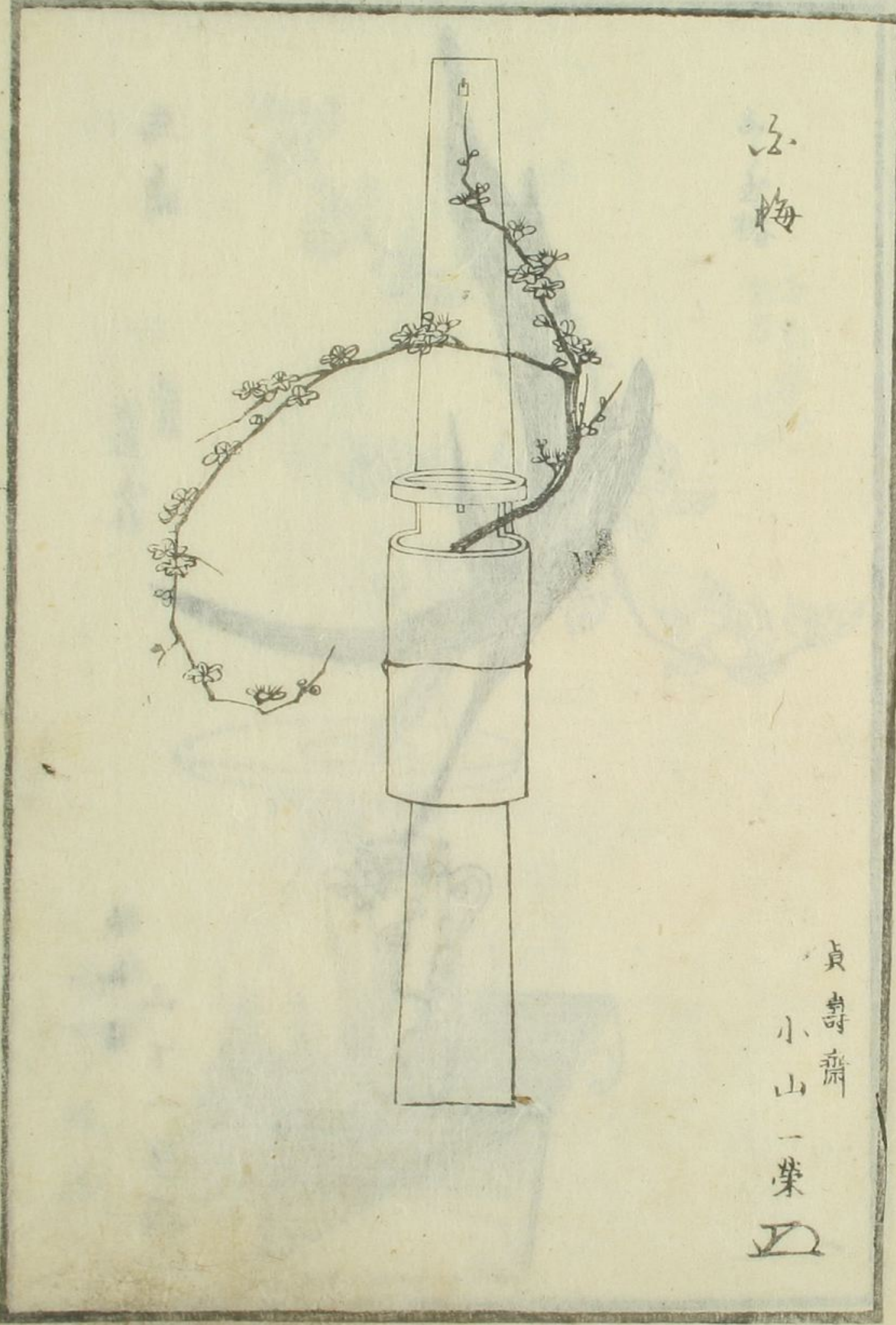
御之杯
福壽字

花器
十二律
米一馬好
古道南作



貞松齋
米一馬





ふ
梅

貞壽齋
小山一榮
五



白梅
水精

花器
古道斎作

貞春齋
石川一水
為

花の香 卷之一
春二

馬蘭



貞柳齋
山下一草五

貞柳齋

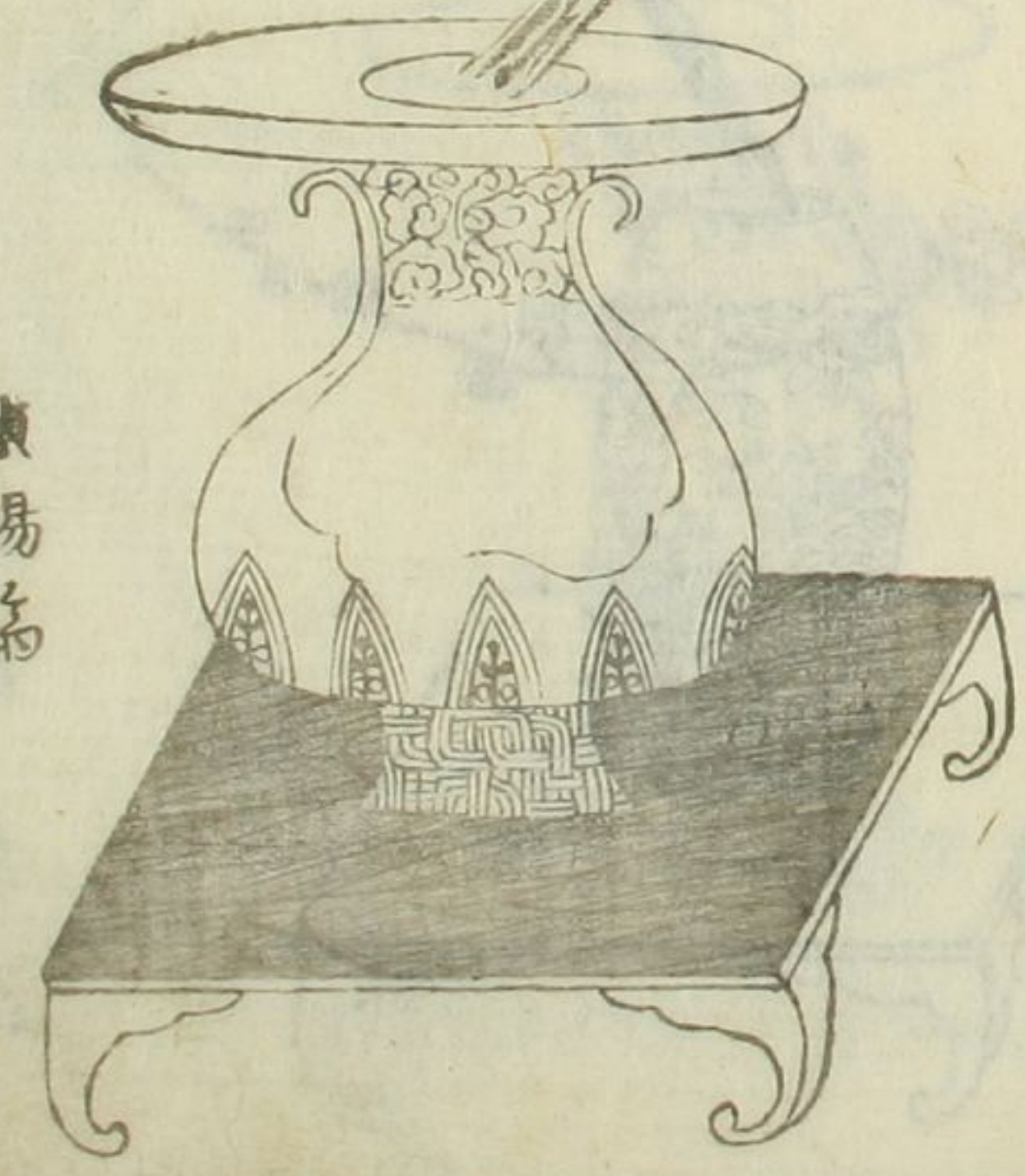
芍薬

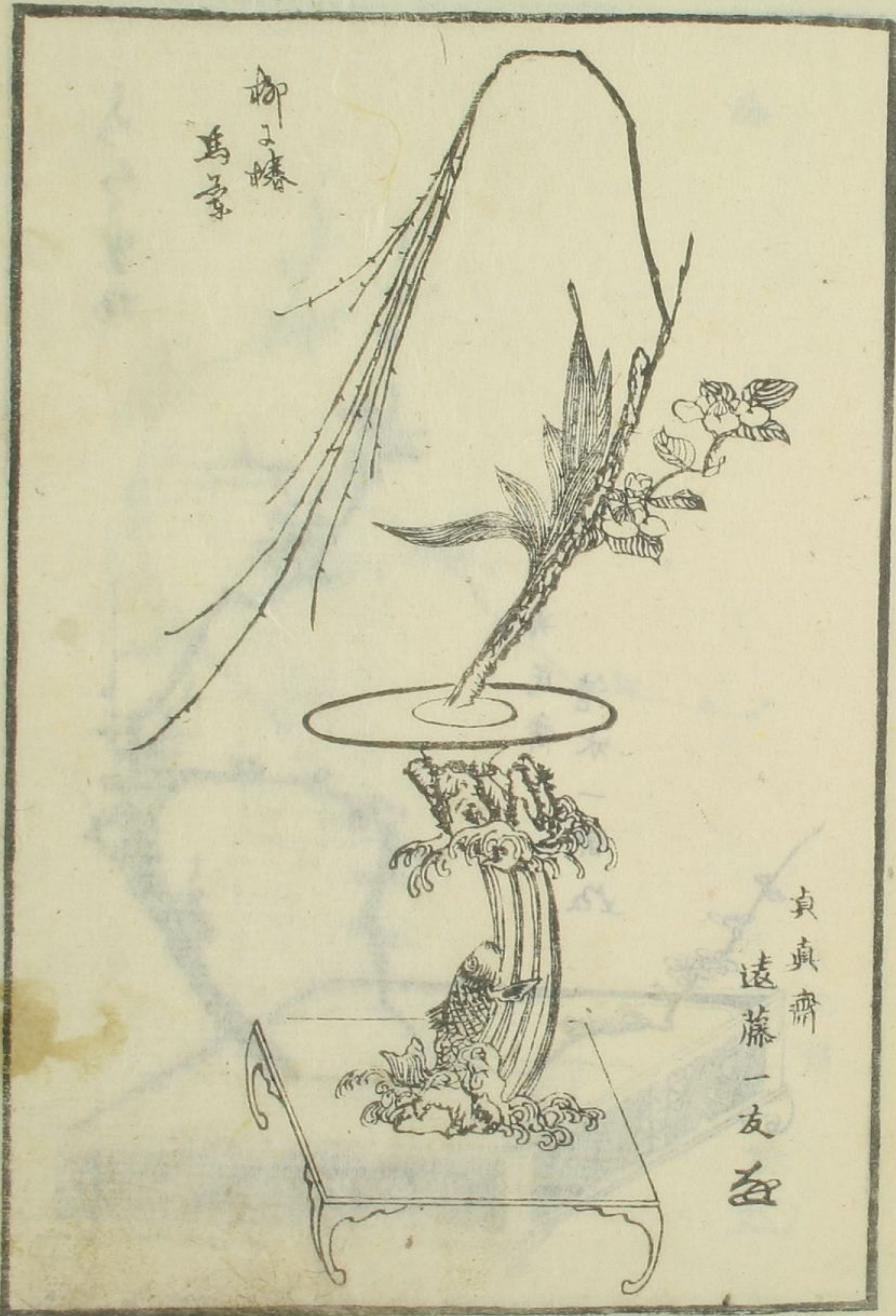
古直斎
張君



花器
古道名作

貞陽齋
中田一春画

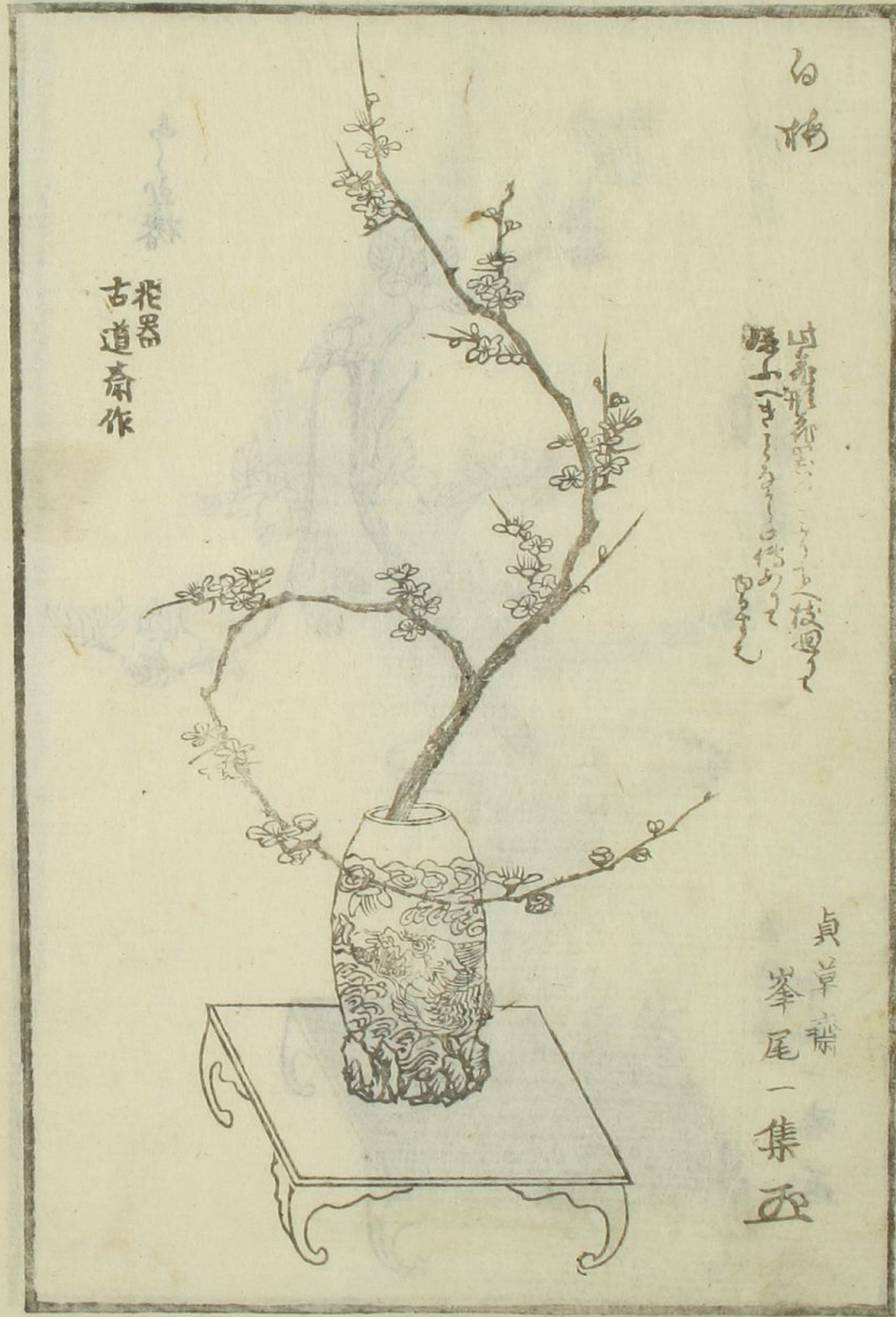




柳子
為

真真齋
遠藤一友

卷之十一



白梅

花器
古道奇作

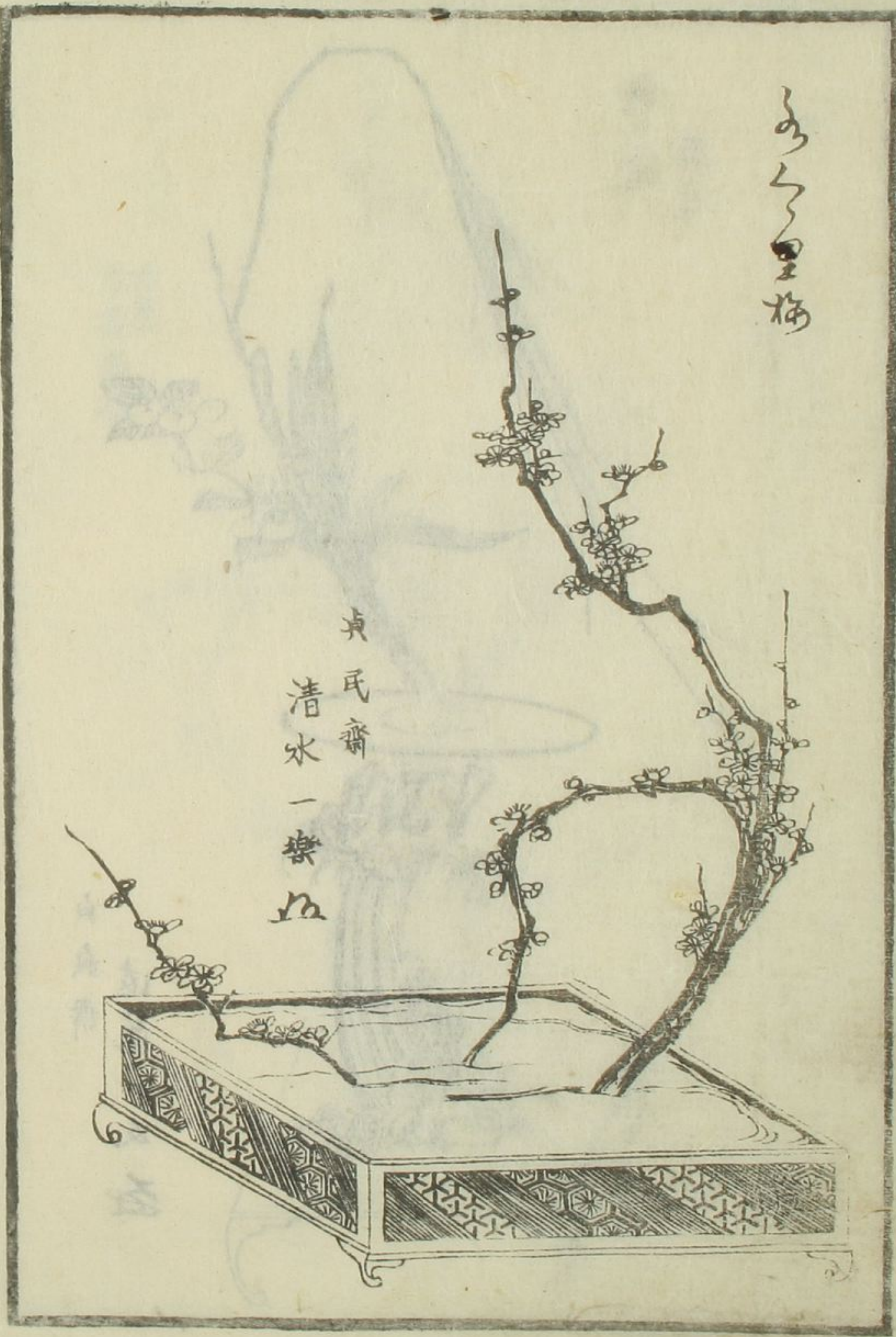
此花器...
...

真草齋
峯尾一集

卷之十一

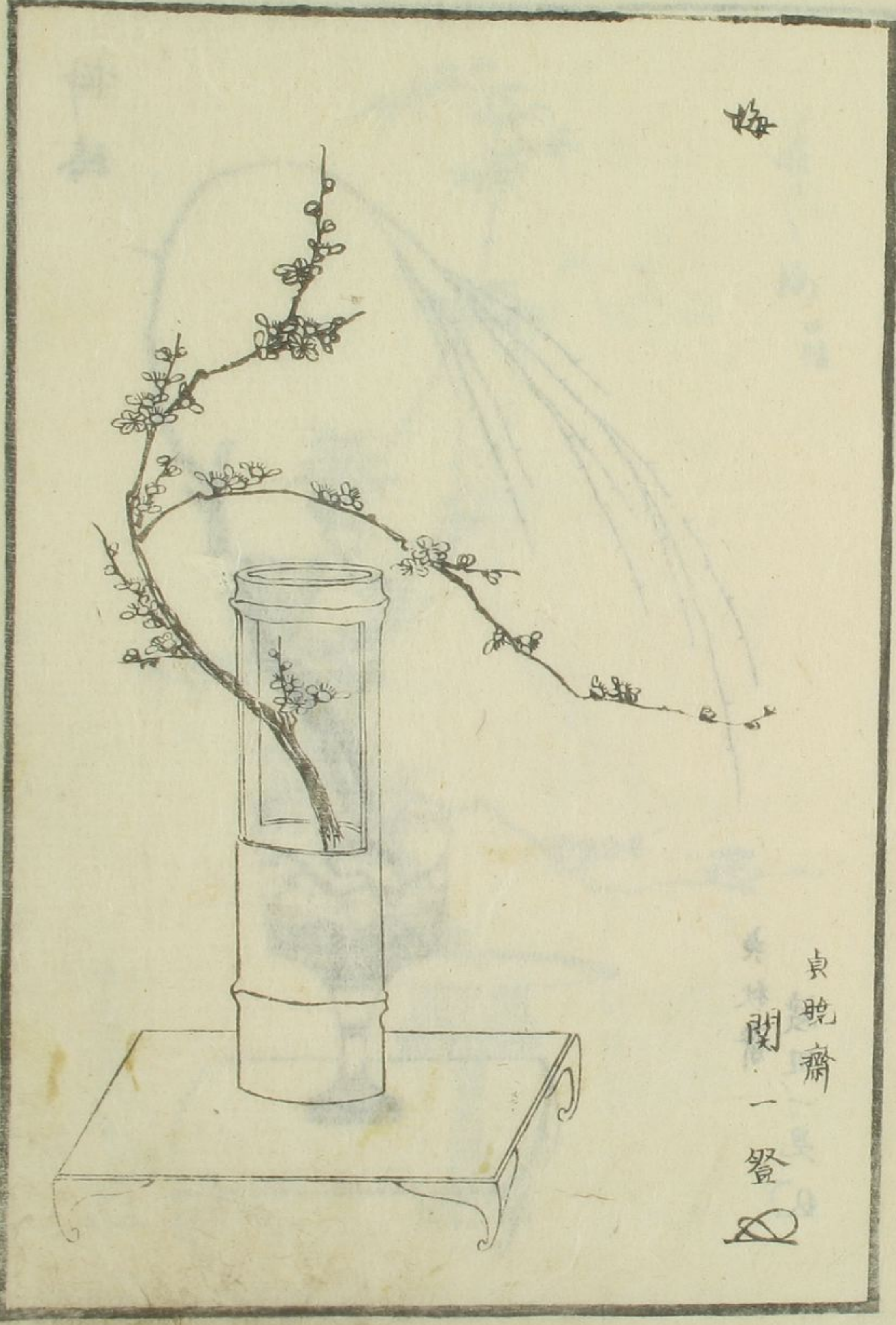
五

少々里梅

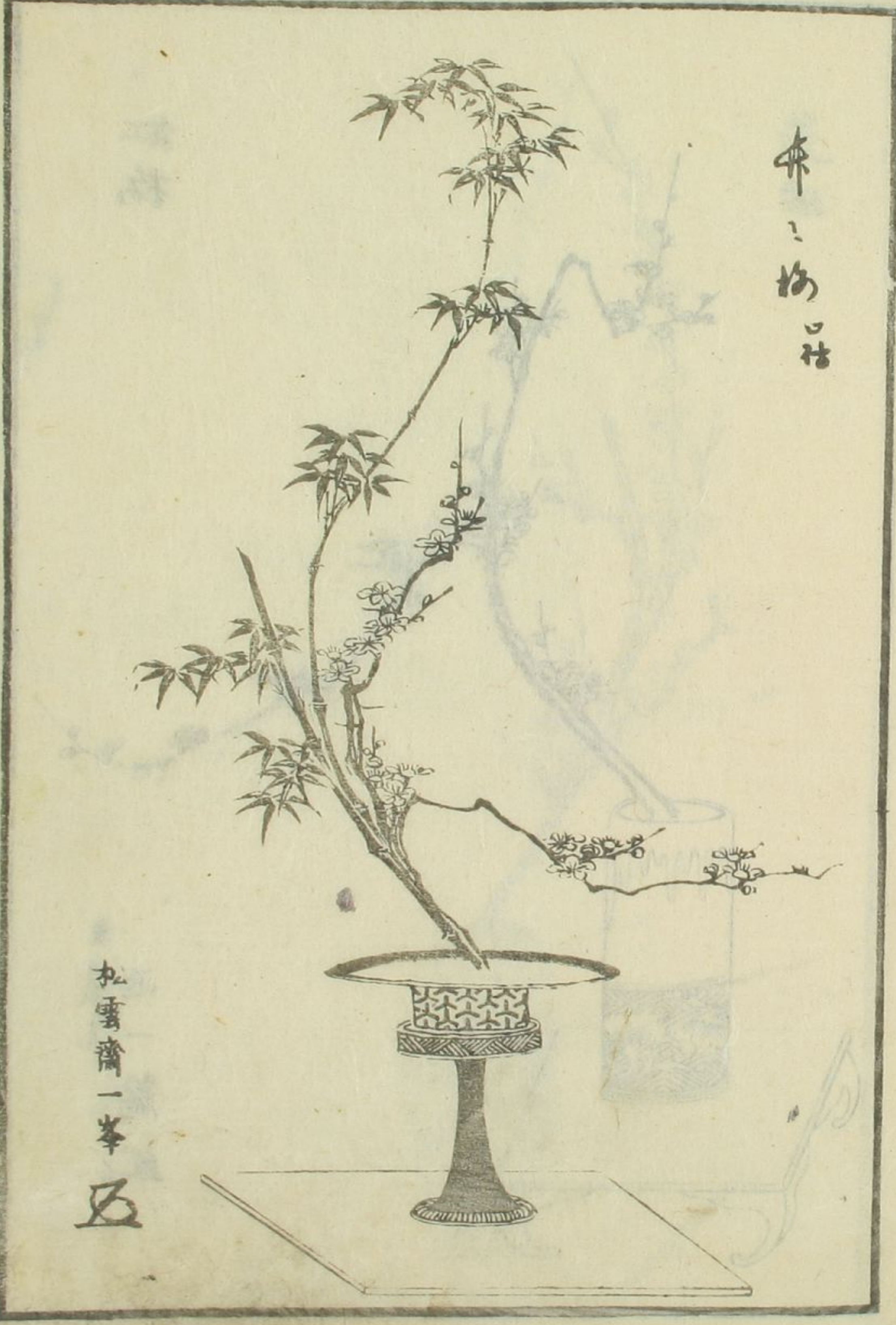


貞氏齋
清水一樂也

梅

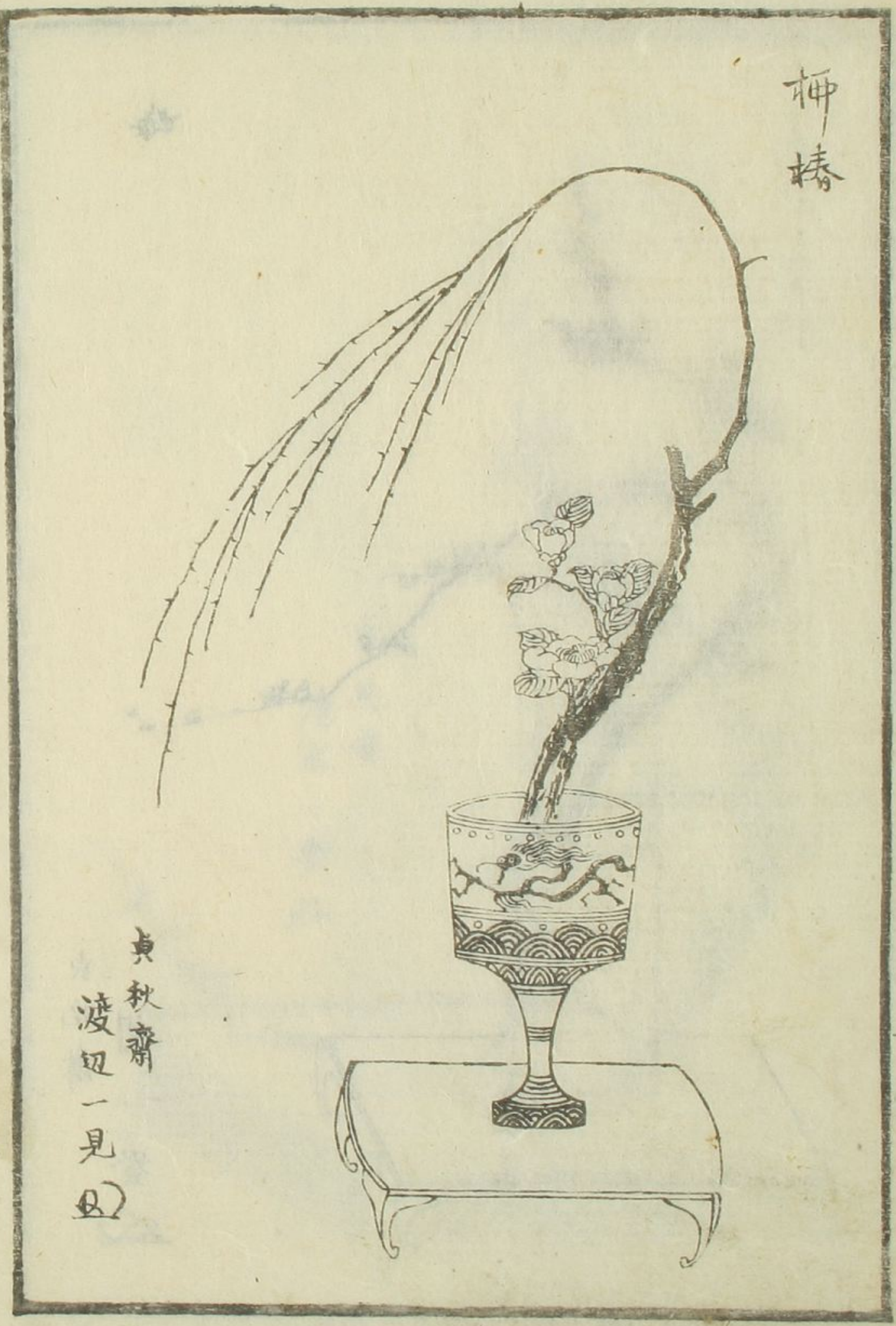


貞曉齋
閑一登



赤い梅

松雲齋一峯 五



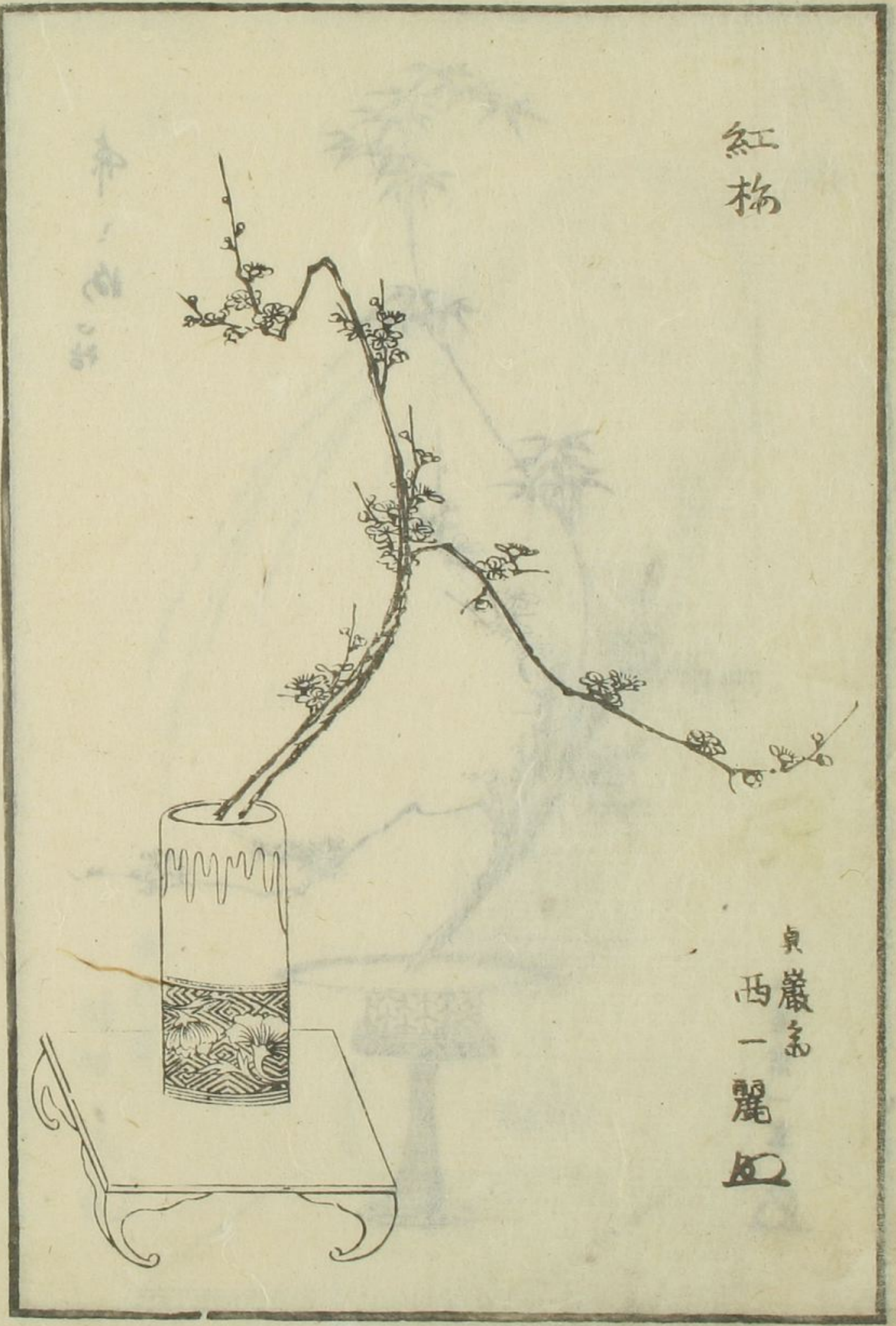
柳橋

貞秋齋
渡辺一見 四

松雲齋 卷之一

五

紅梅



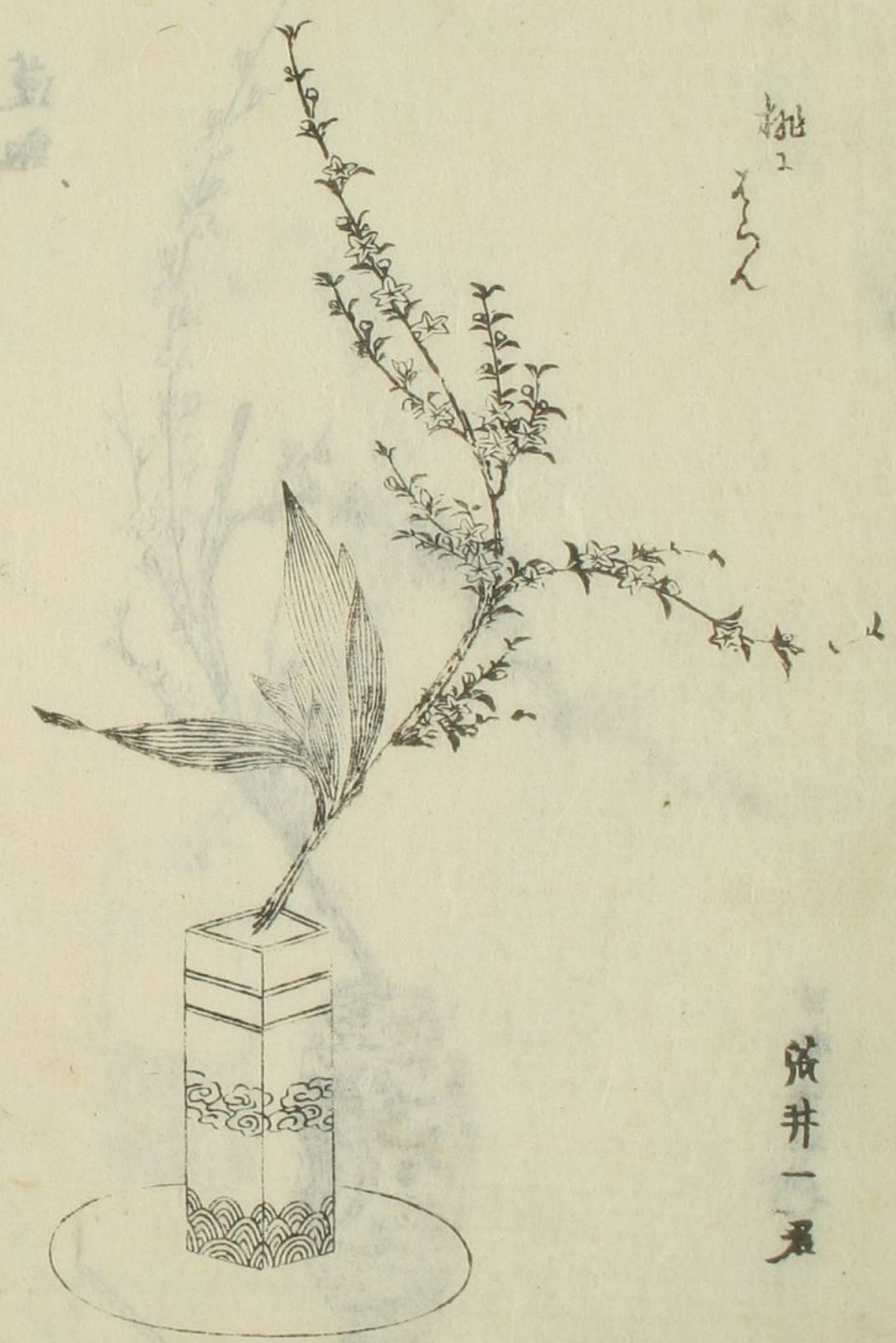
貞巖
西一麗

蓮翹



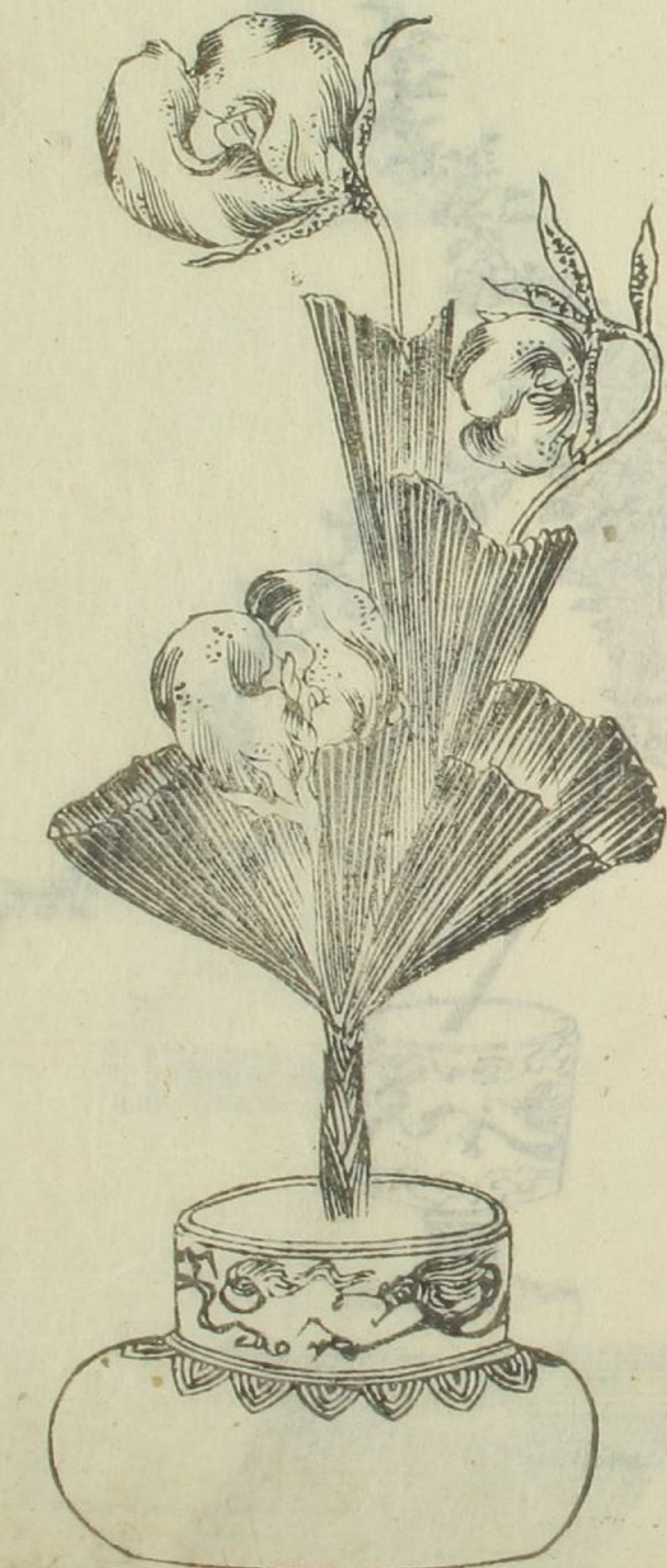
二林

桃
二
三



桃井一五

ほ
い
ま



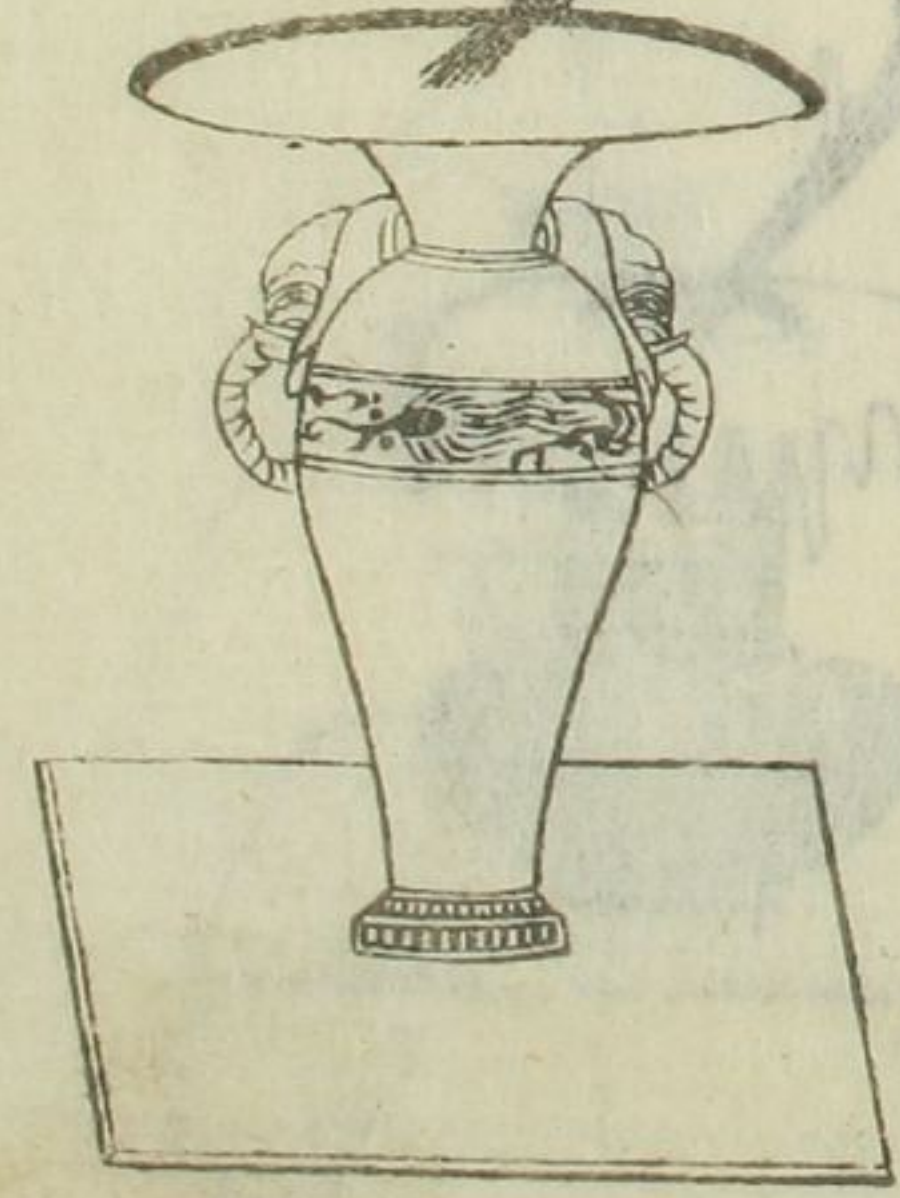
中山一仲

白牡丹



富岡氏
女一尾

红梅



貞女高一路

花器
古道高作

植
蓮
仙



呂川
蘭藤一賞

とびね



神保彦花

花の香白 卷之一

紅木蓮
志也



布施一虎

白玉梅



所馬集

石川一丸
卷之十一

石川



石川一丸

山
春
卷
長

石川



石川一丸



いんぎん

下野
咬雲齋
高嶋一東也



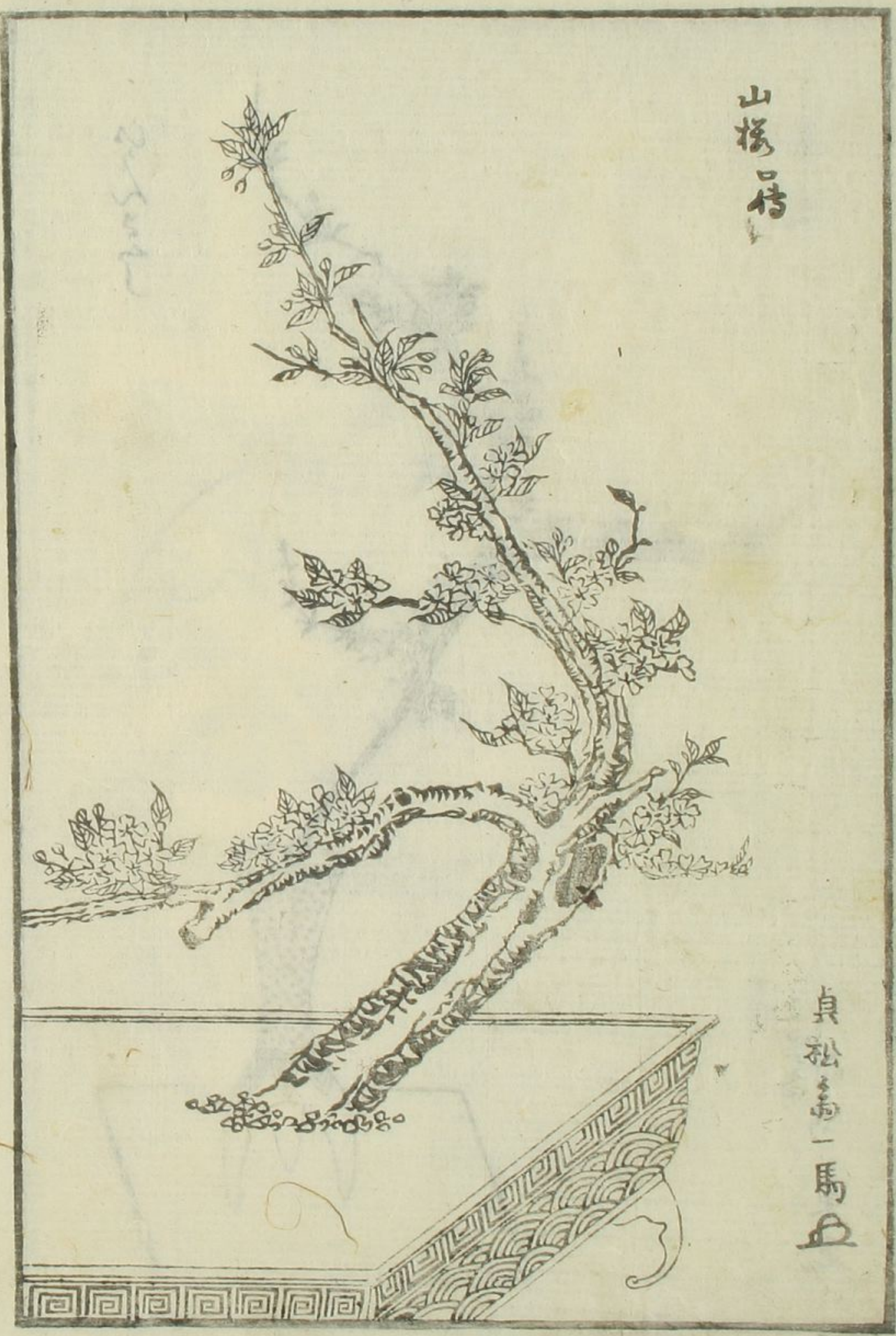
春菊

霍松奇
小林一川石

春の香

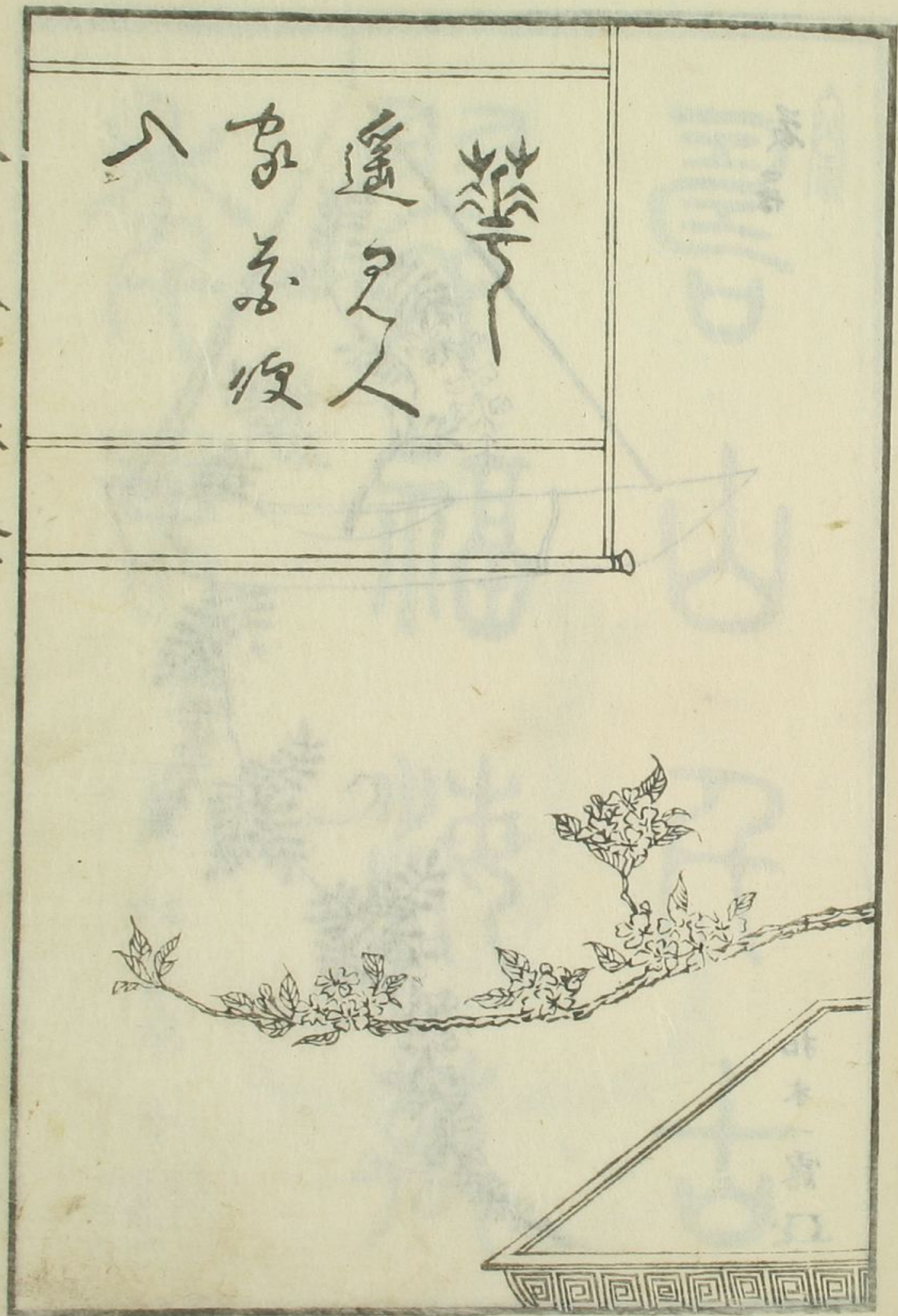
春

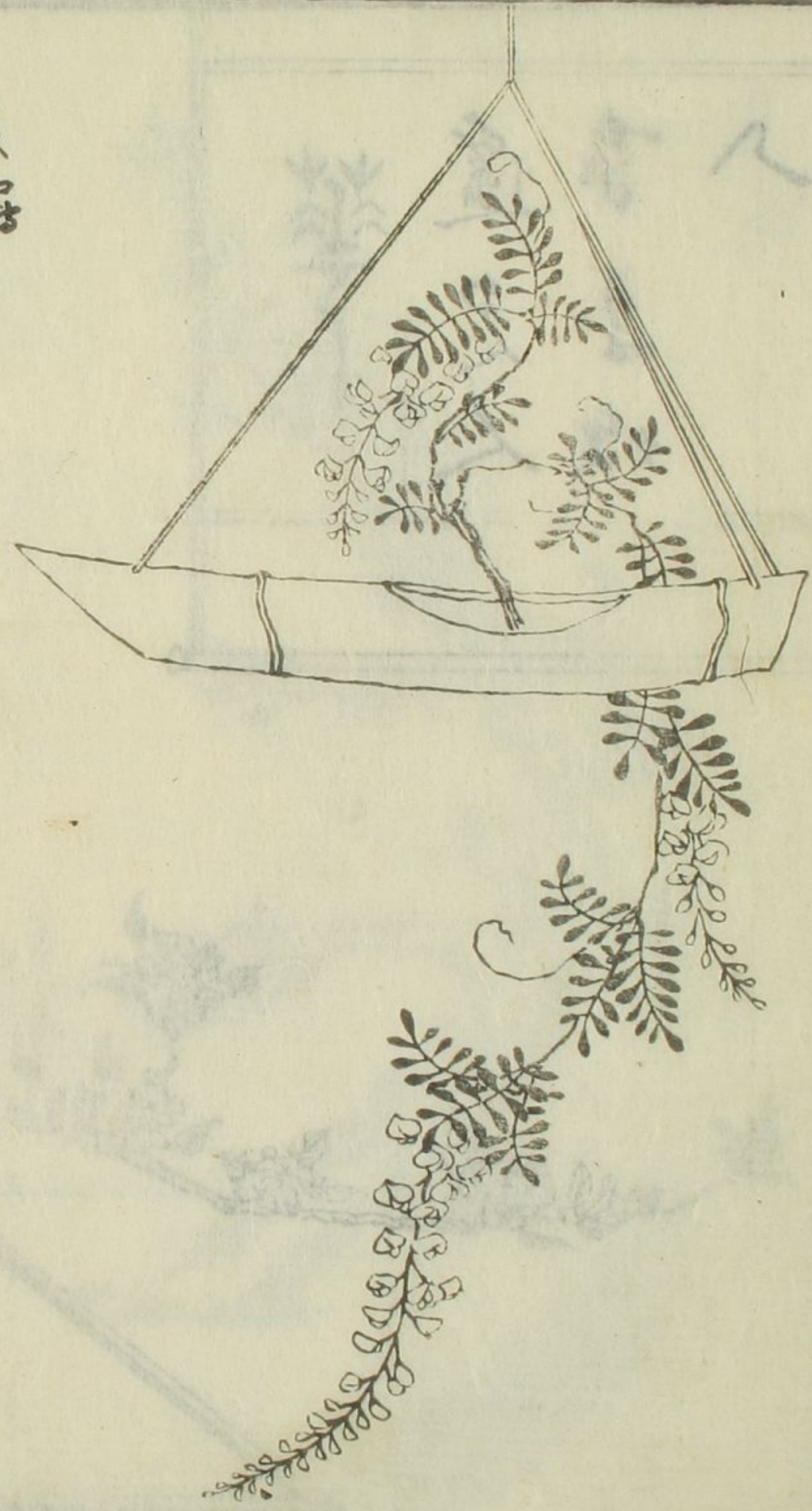
山松口付



貞松一馬

入
 家
 系
 後
 遙
 又
 人
 華






後口松

柏木一露

古
 及
 山
 福
 萬
 萬
 葉
 葉

負
 松
 系
 如


万通書
二十一之數



紫川津
貞雲為一雜也

紫

遙名入

家系後

八

江戶名物



梅花喜神譜

二

P

541

2

松川

酒及

松川深沙書

松川

深沙

松川深沙書

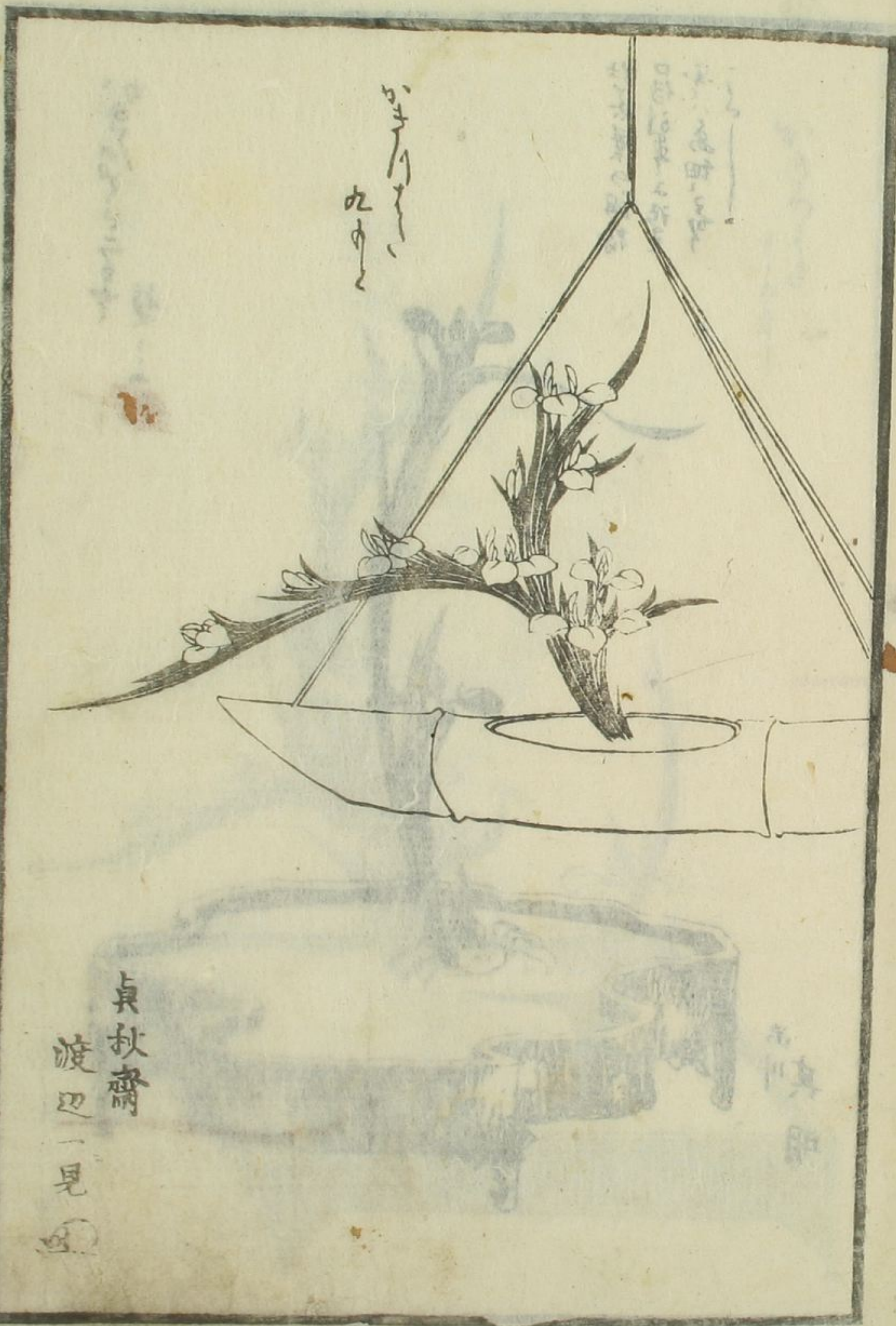
松川深沙書

松川深沙書

牡丹 口傳



橘一雲 〇



牡丹 〇

真秋齋 渡辺一見

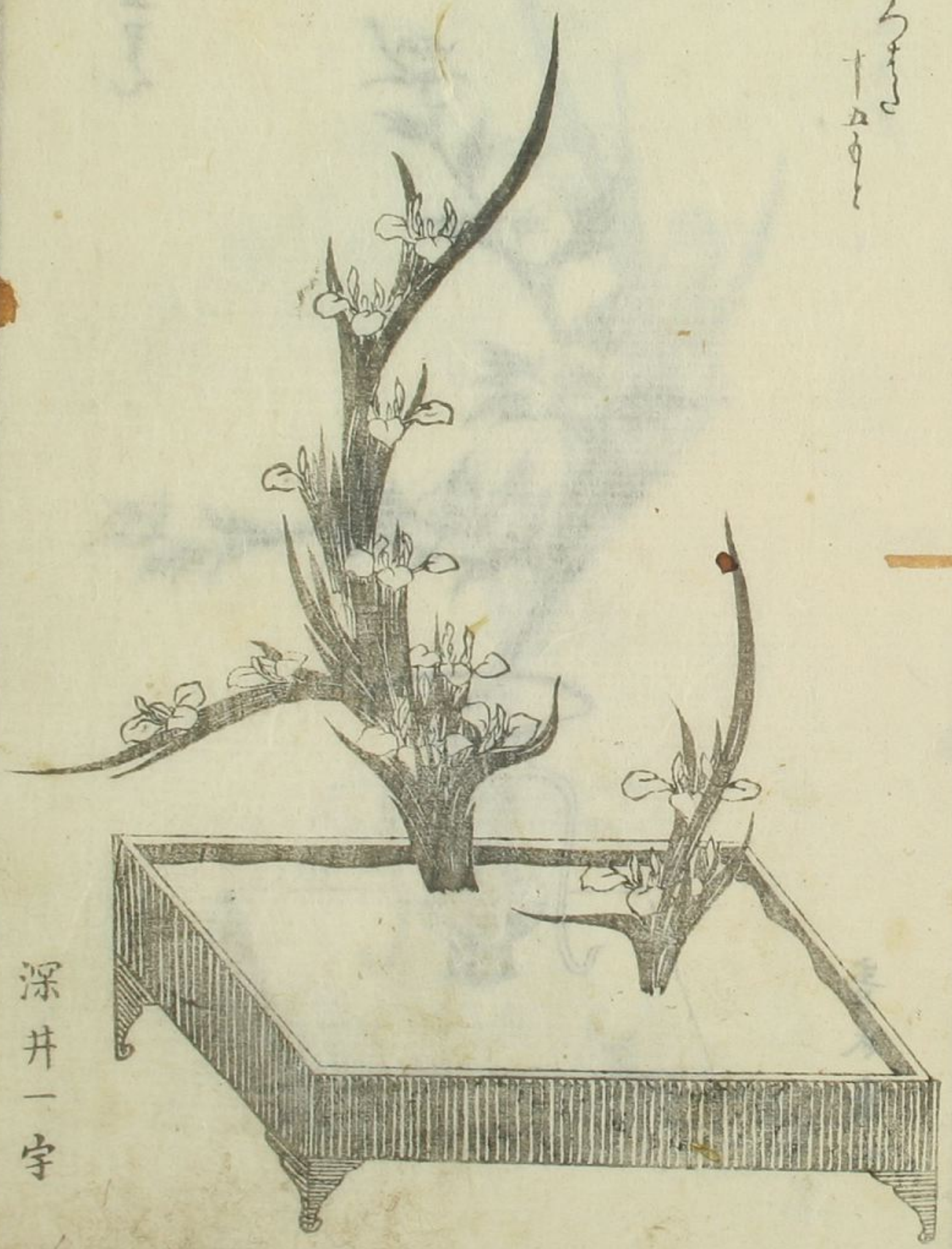
かきん

社本葉の細葉
口付別草に花を
あはれ細く



品川
其明

かきん



深井一字

牡丹五ノ中



上毛相生
石原馬柳

苔菜
五ノ中



吉水嘉好



古
道
斎
依

古
道
斎
依

貞
春
齋
石
川
一
水
知

大
の
南
卷
六
十
一

五



古
茶
十
一
月
人

木
下
川
村
越
其
友

大
の
南
卷
六
十
一

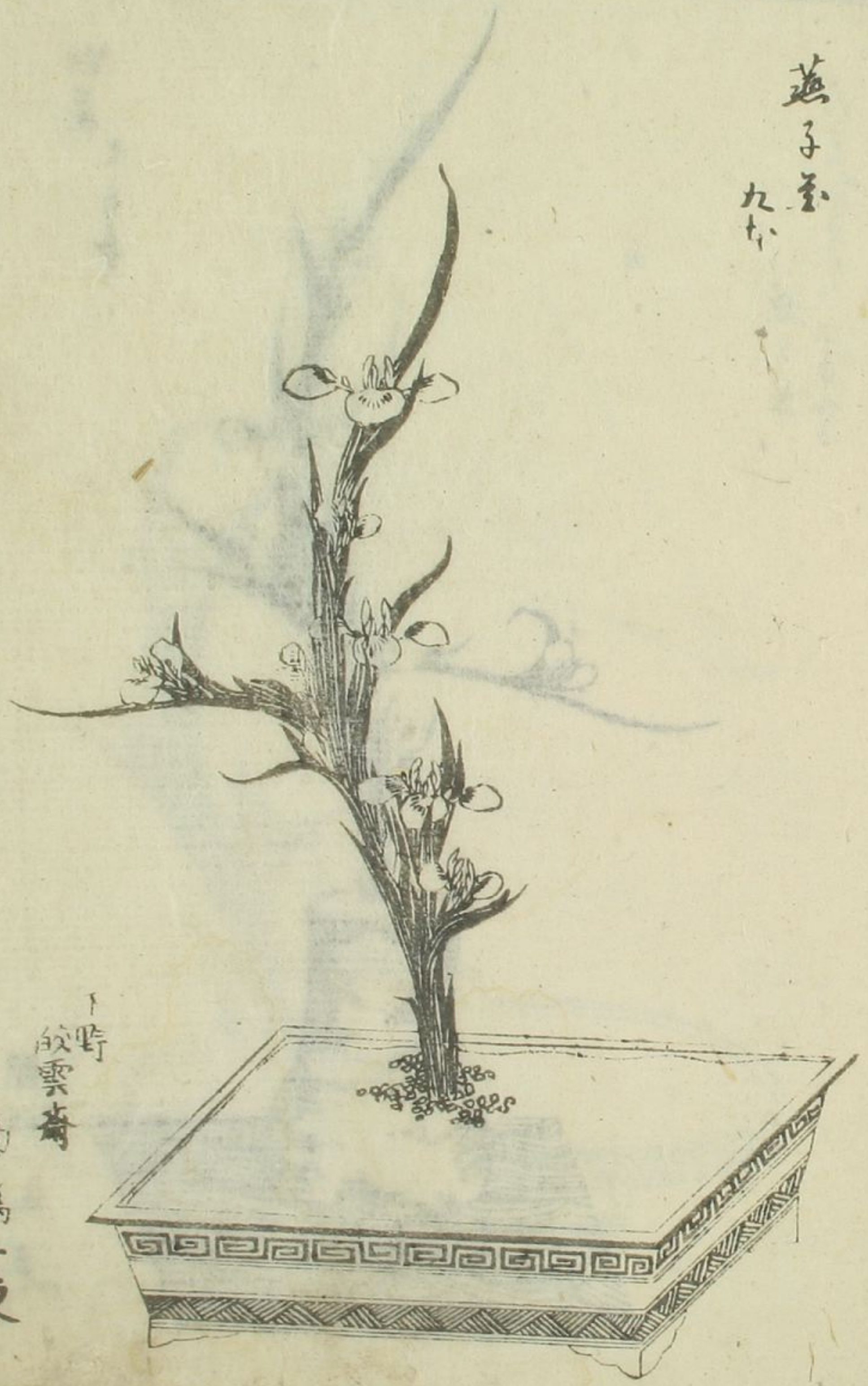
五

古くは
五三



西田馬造

燕子
九



時
雲
高鳥一東

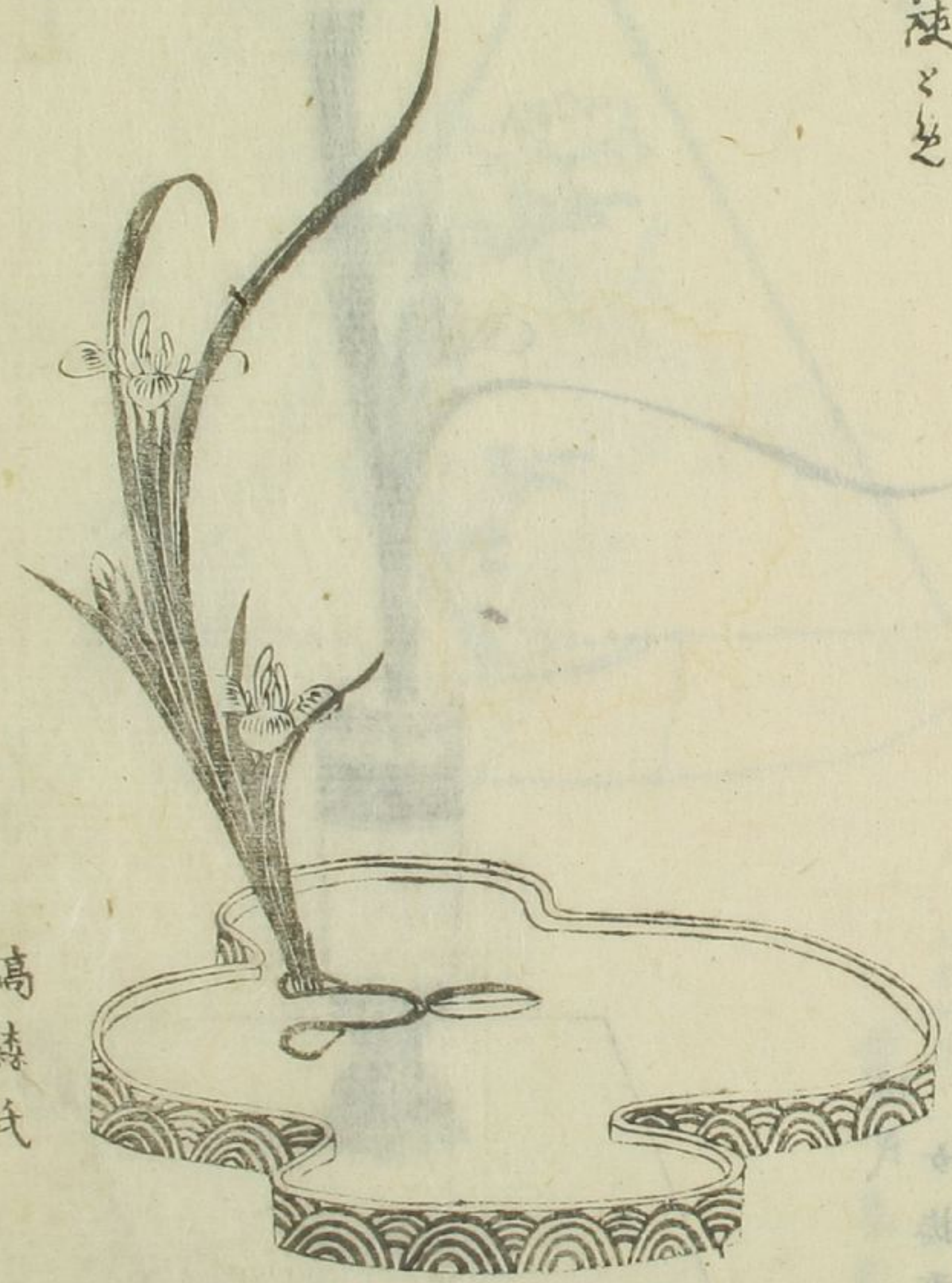
牡丹
七の草



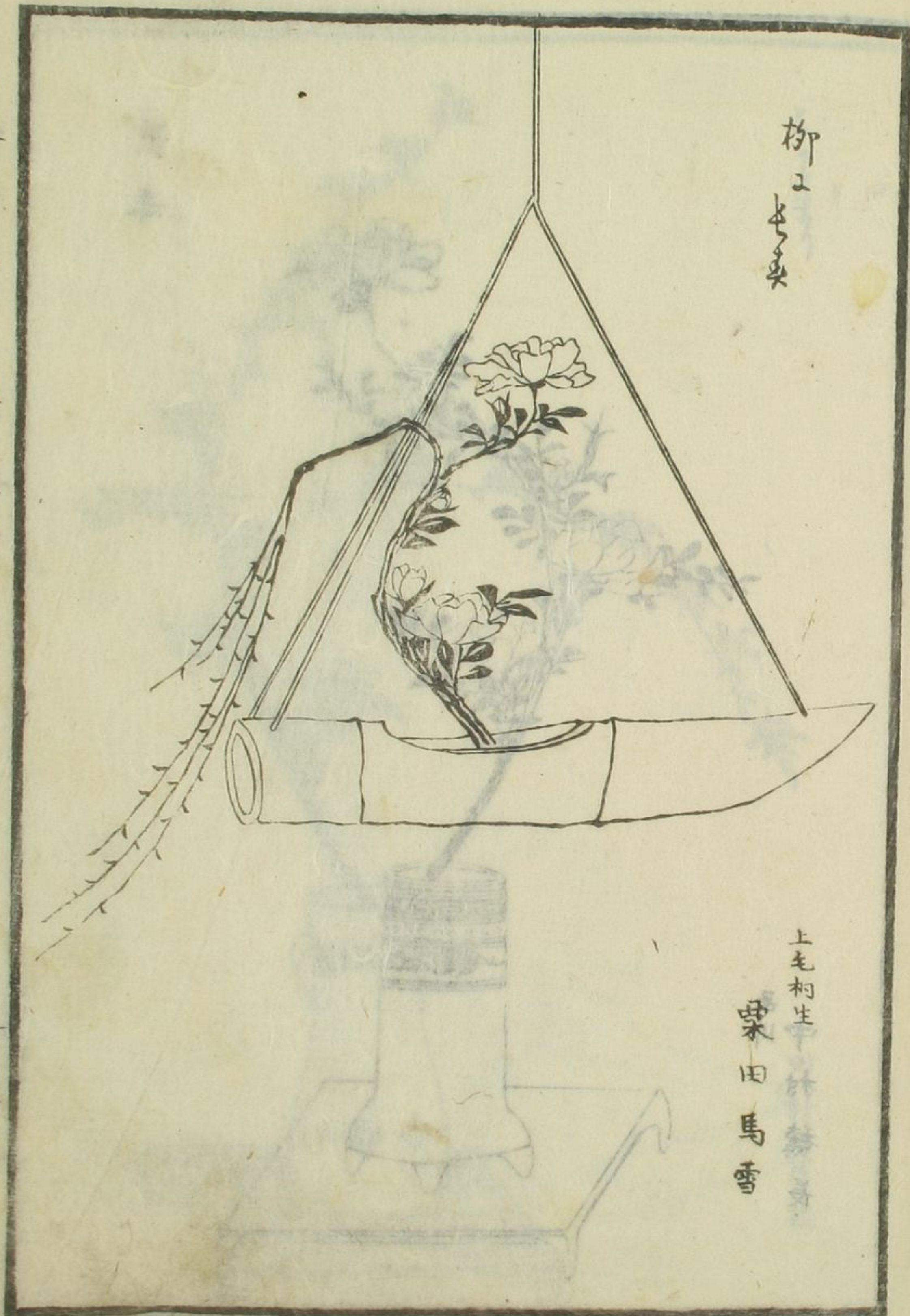
関根一松
馬

牡丹

Confession
花の草

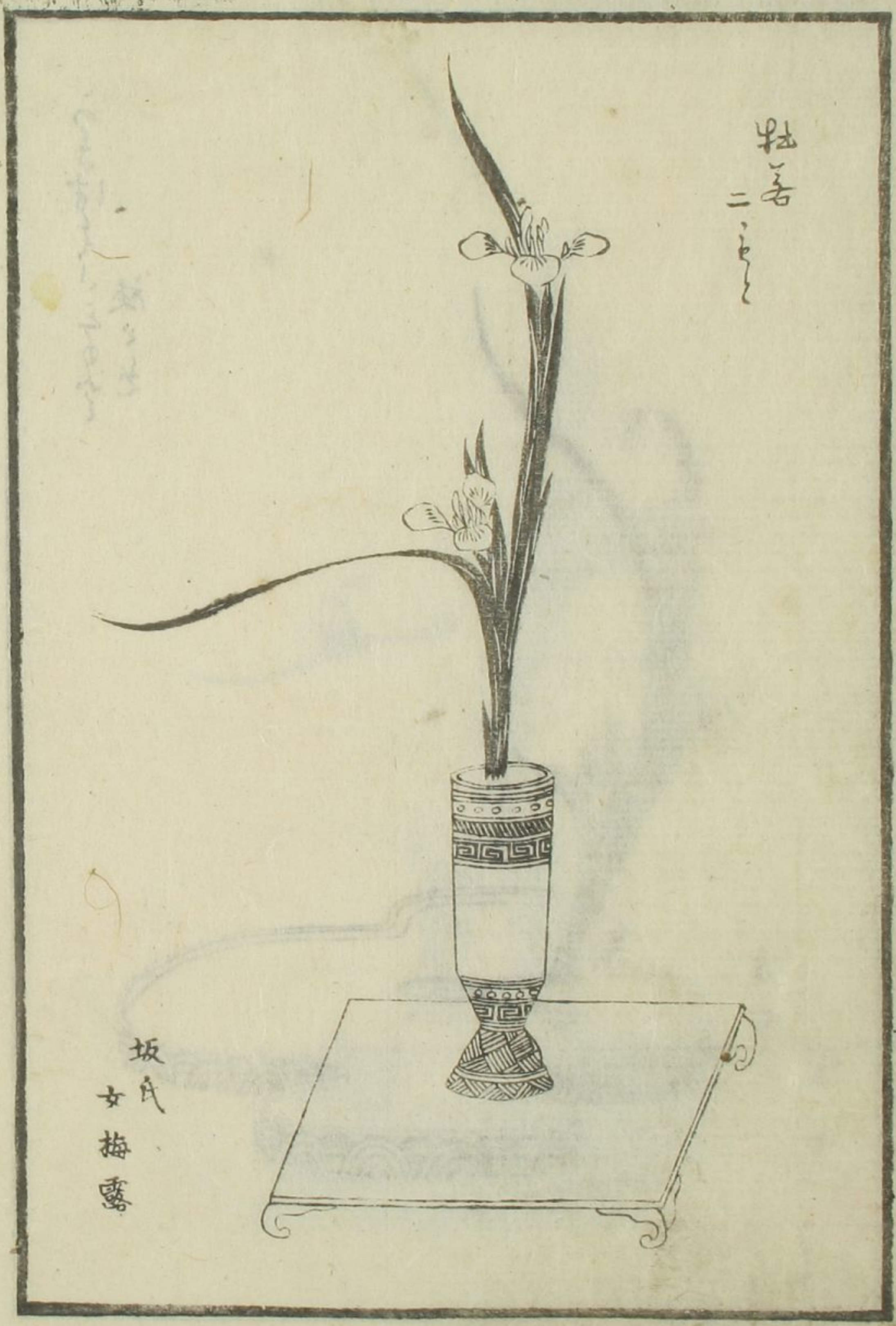


高森氏
霍女



柳
上

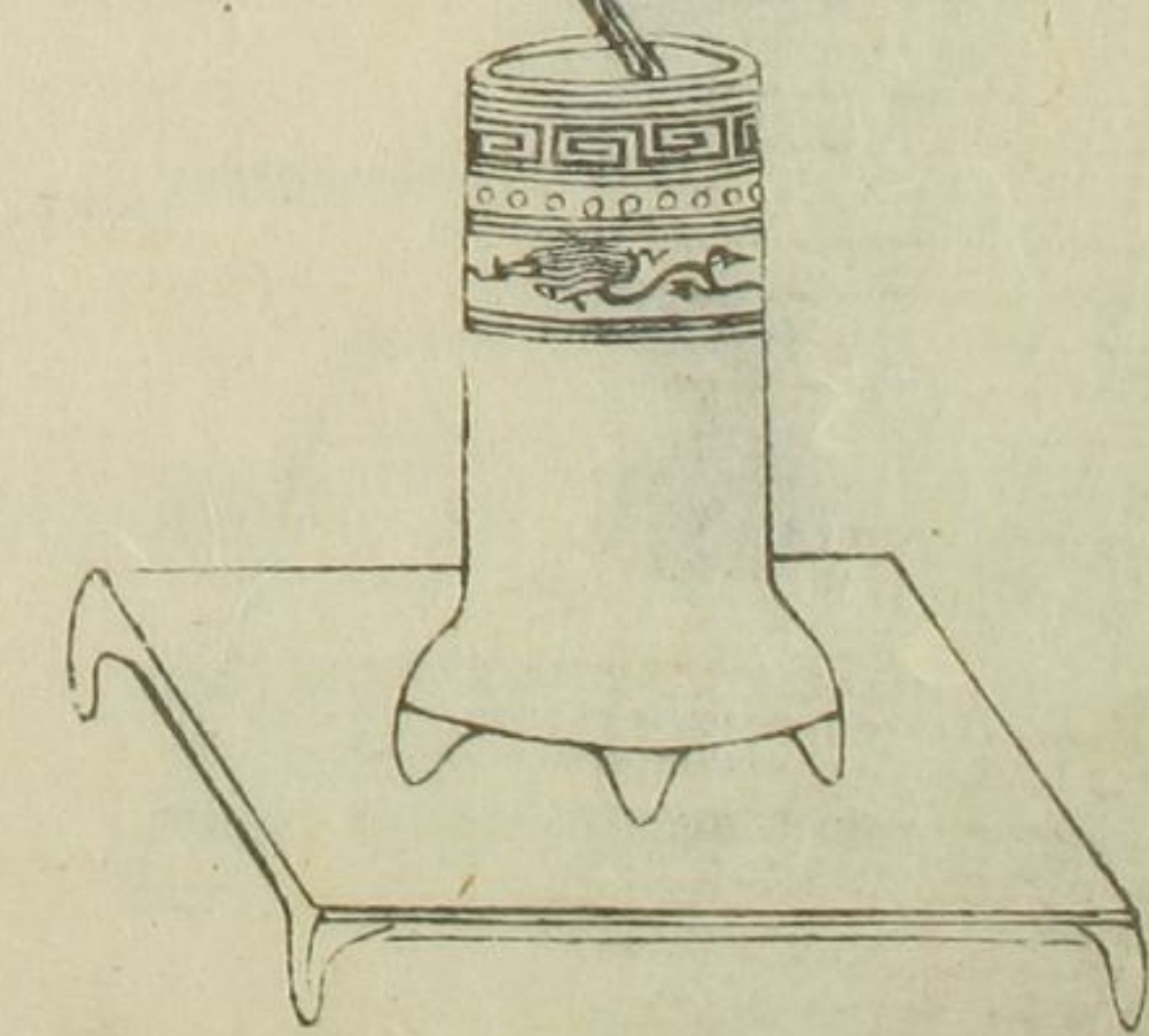
上毛桐生
栗田馬雪



牡丹
二

坂氏
女梅露

長春

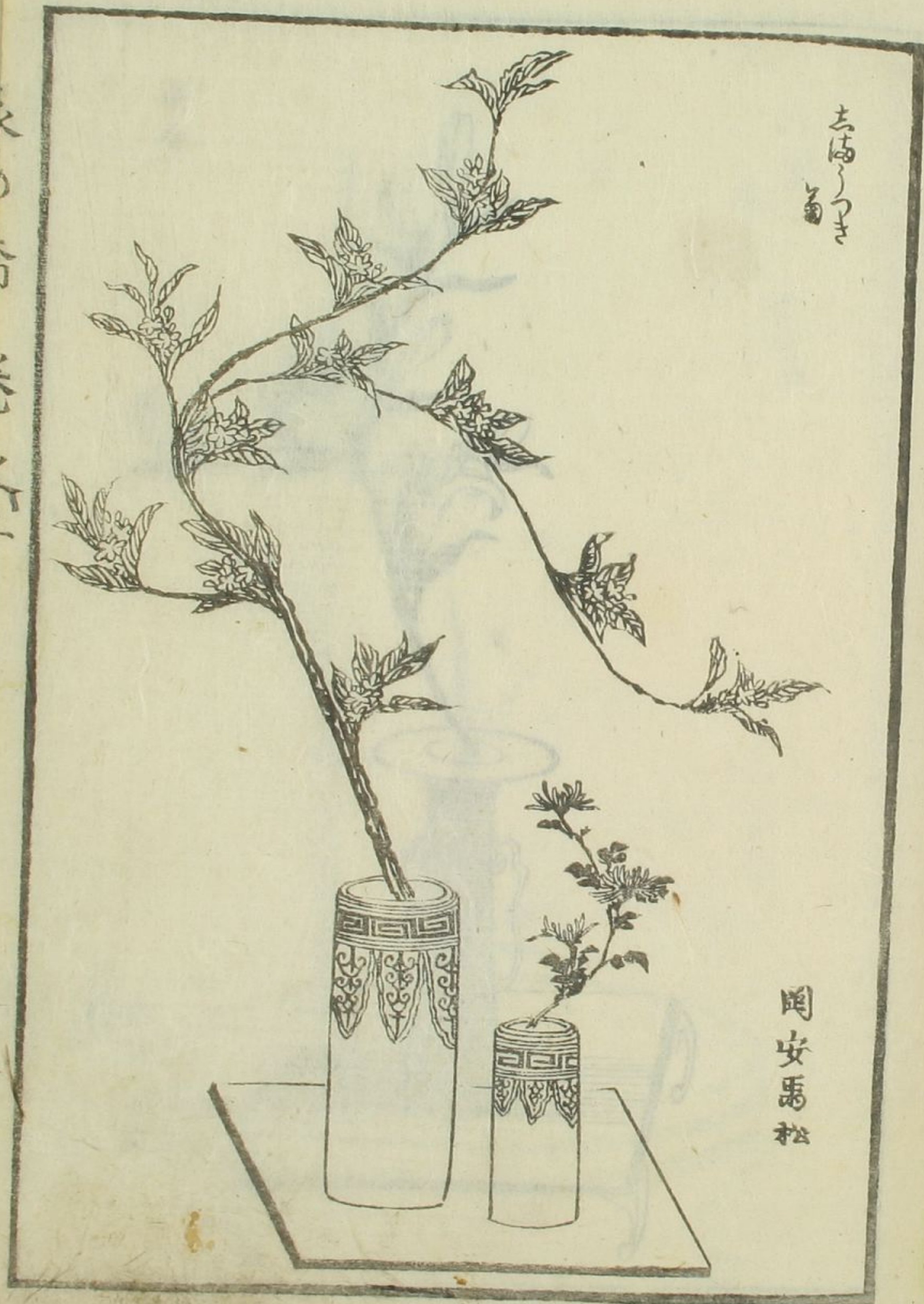


呂川
中村
穂長

こころ



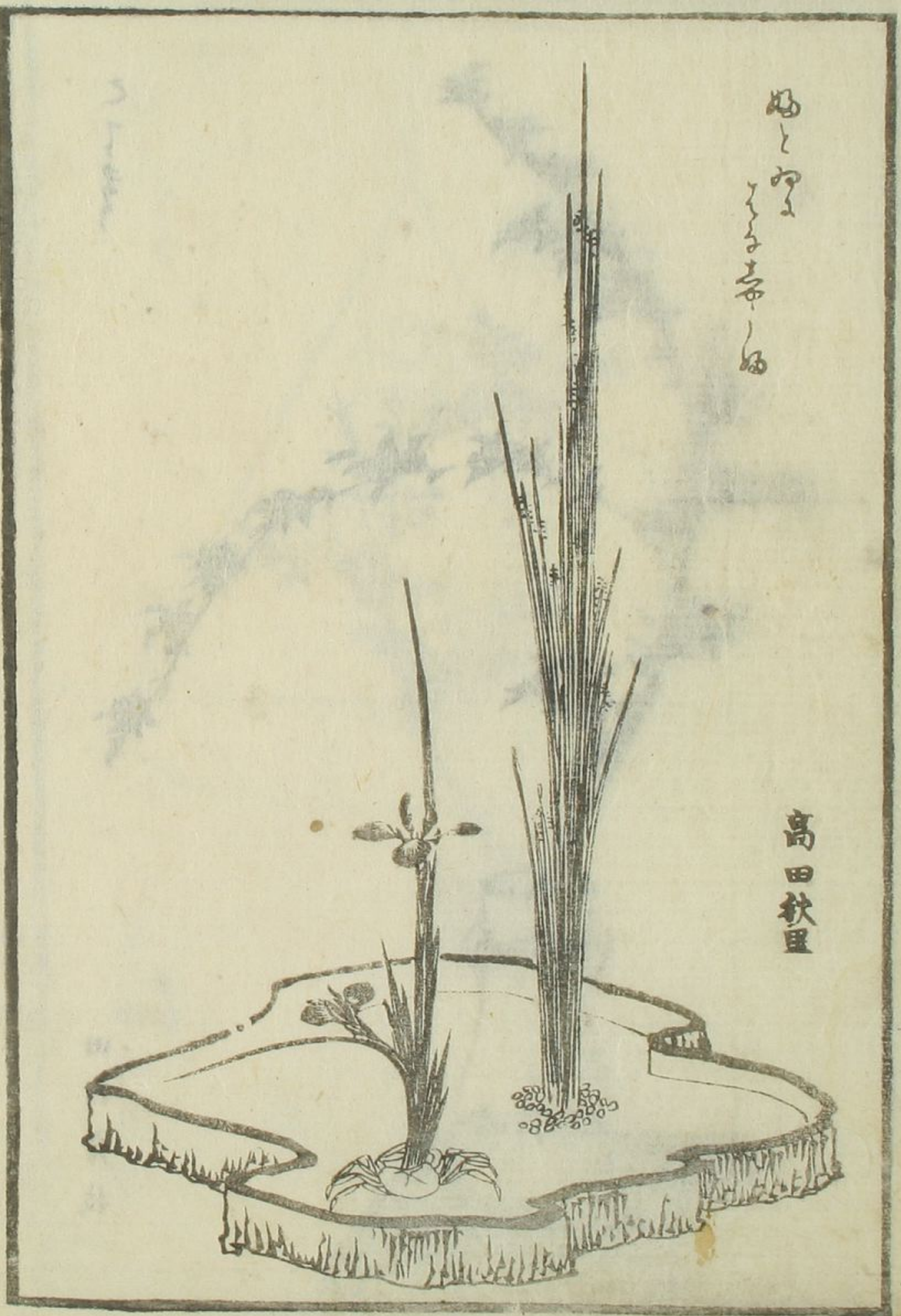
田村
彦枝



去ほつき
菊

関安馬松

夏



好くや
くさき

高田秋里

夏

百合

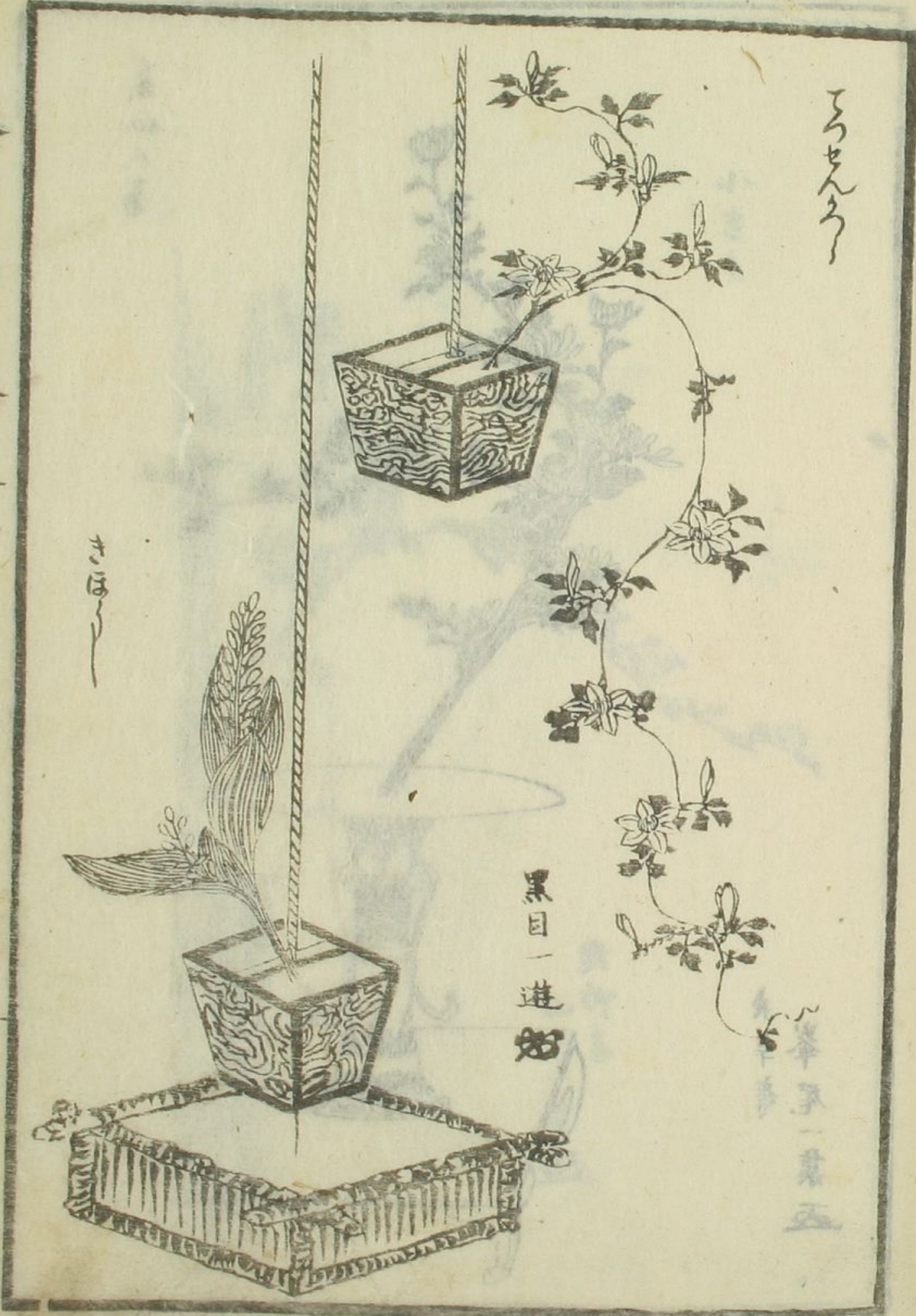


加賀住
勝林文里

太蘭
蓮子花
雪留口傳



土毛相正
粟田馬栄

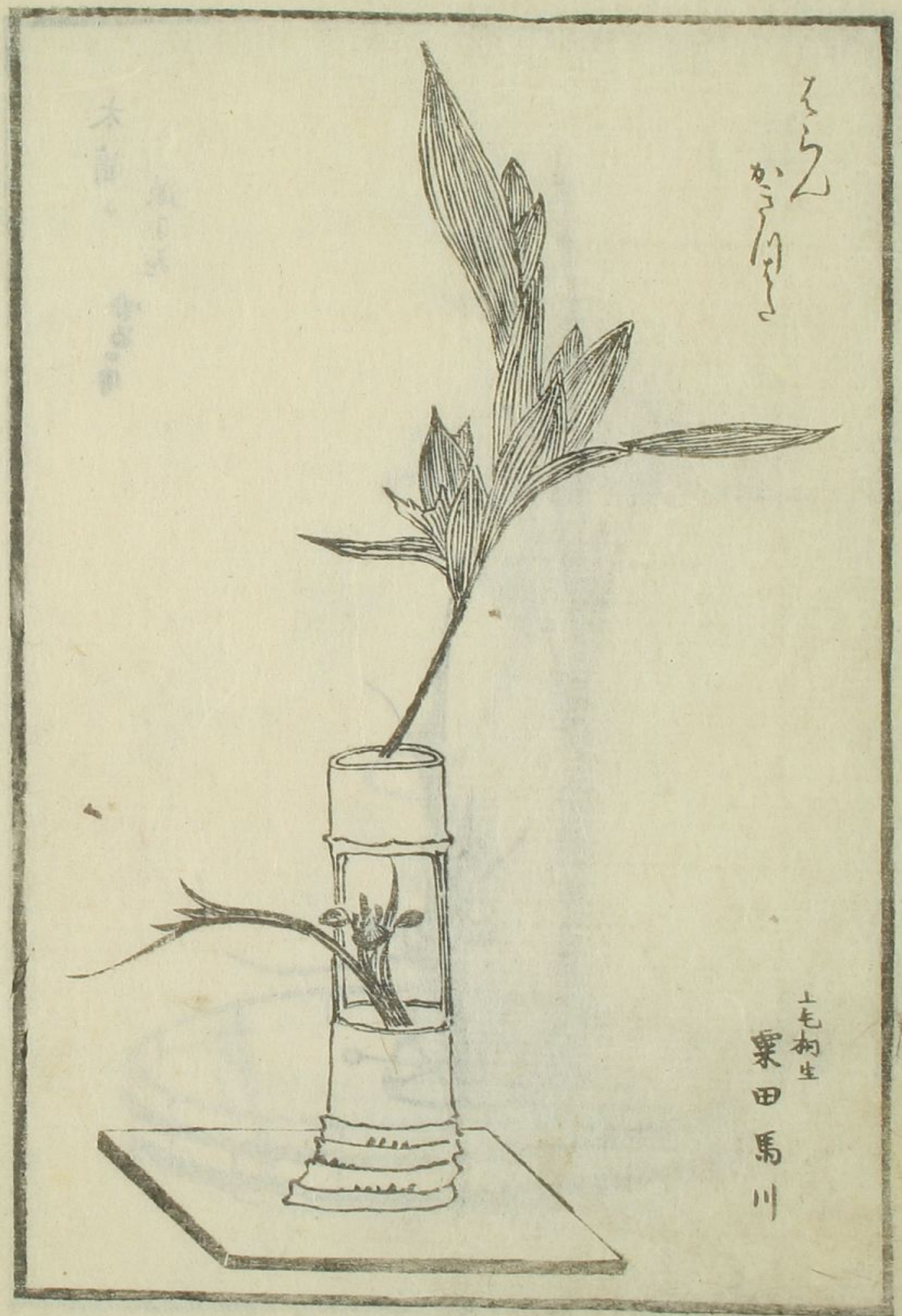


ろくろ

黒目一進

ろくろ

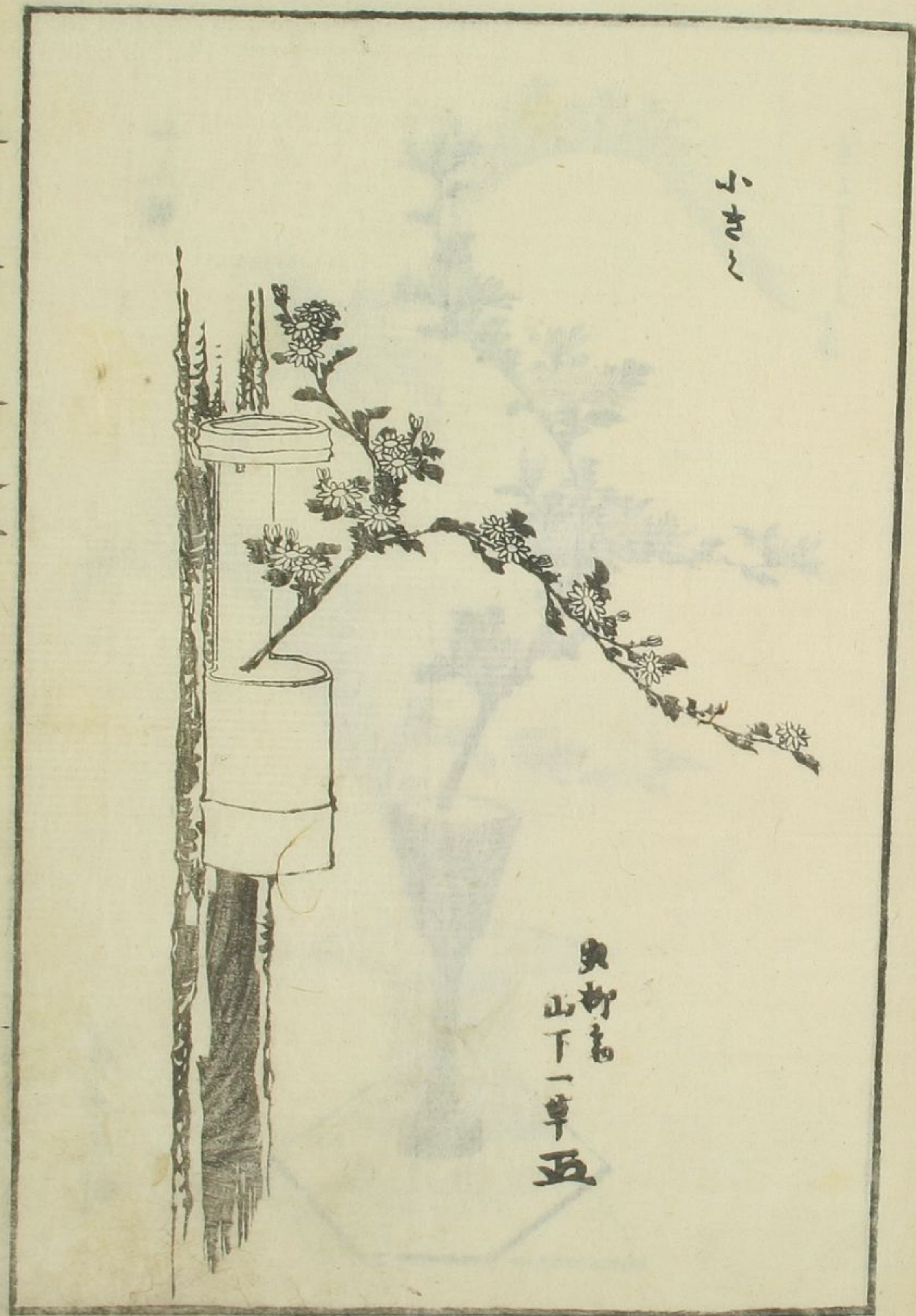
長門香桐六下
長門



ろくろ
かき

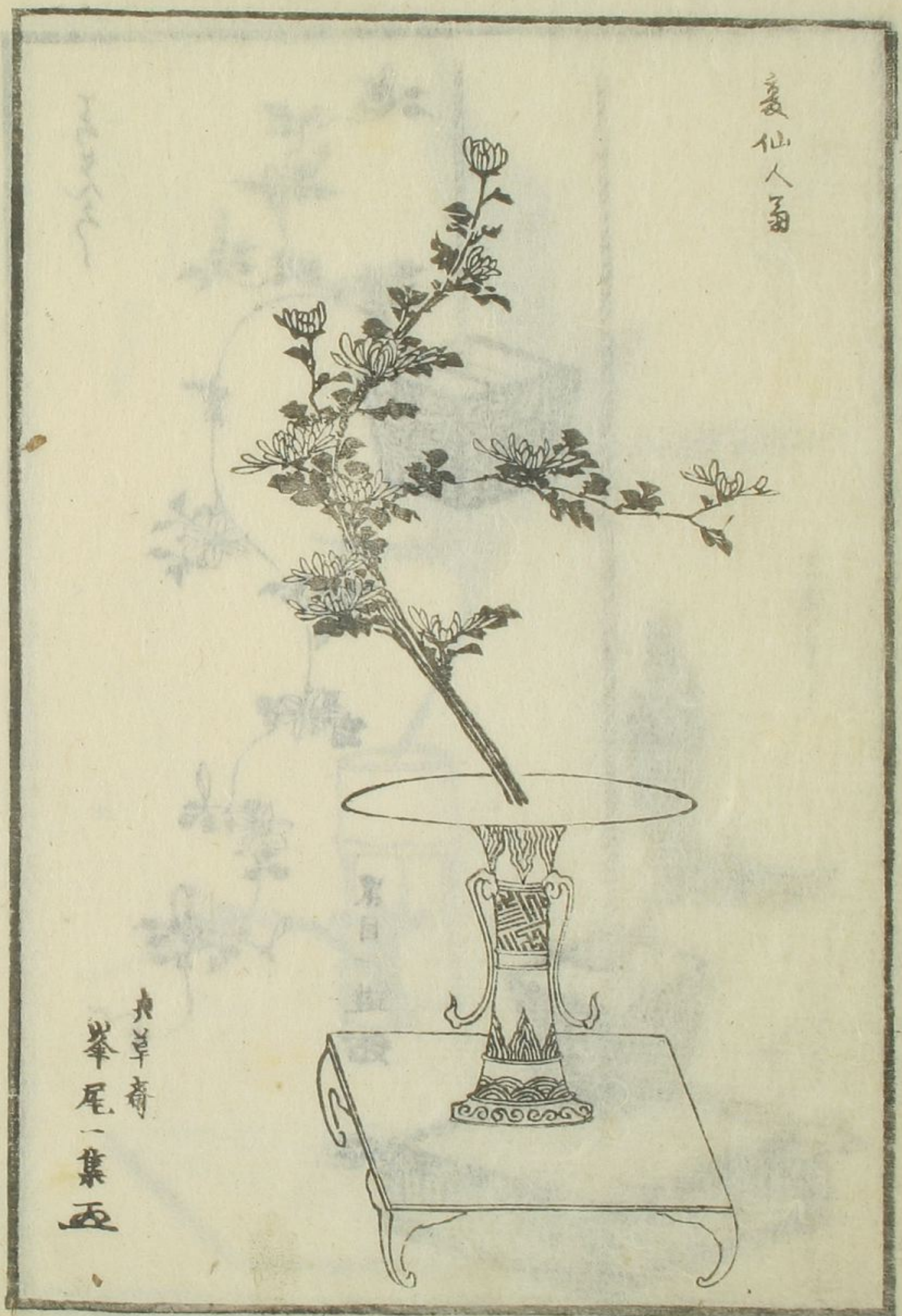
上毛栲生
栗田馬川

長門香桐六下
長門



小きく

奥町
山下一草五



長仙人菊

奥町
峯尾一集五



此は
花の
名

櫻井馬秋

花の
名
卷之二
夏
一
四



仙人
菊

谷口田端

花の
名
卷之二
夏
一
三



云あま

花玉下
秀太

花の書 卷之二

頁十五



玉替

石川桃美

花の書 卷之二

頁十四

表の香

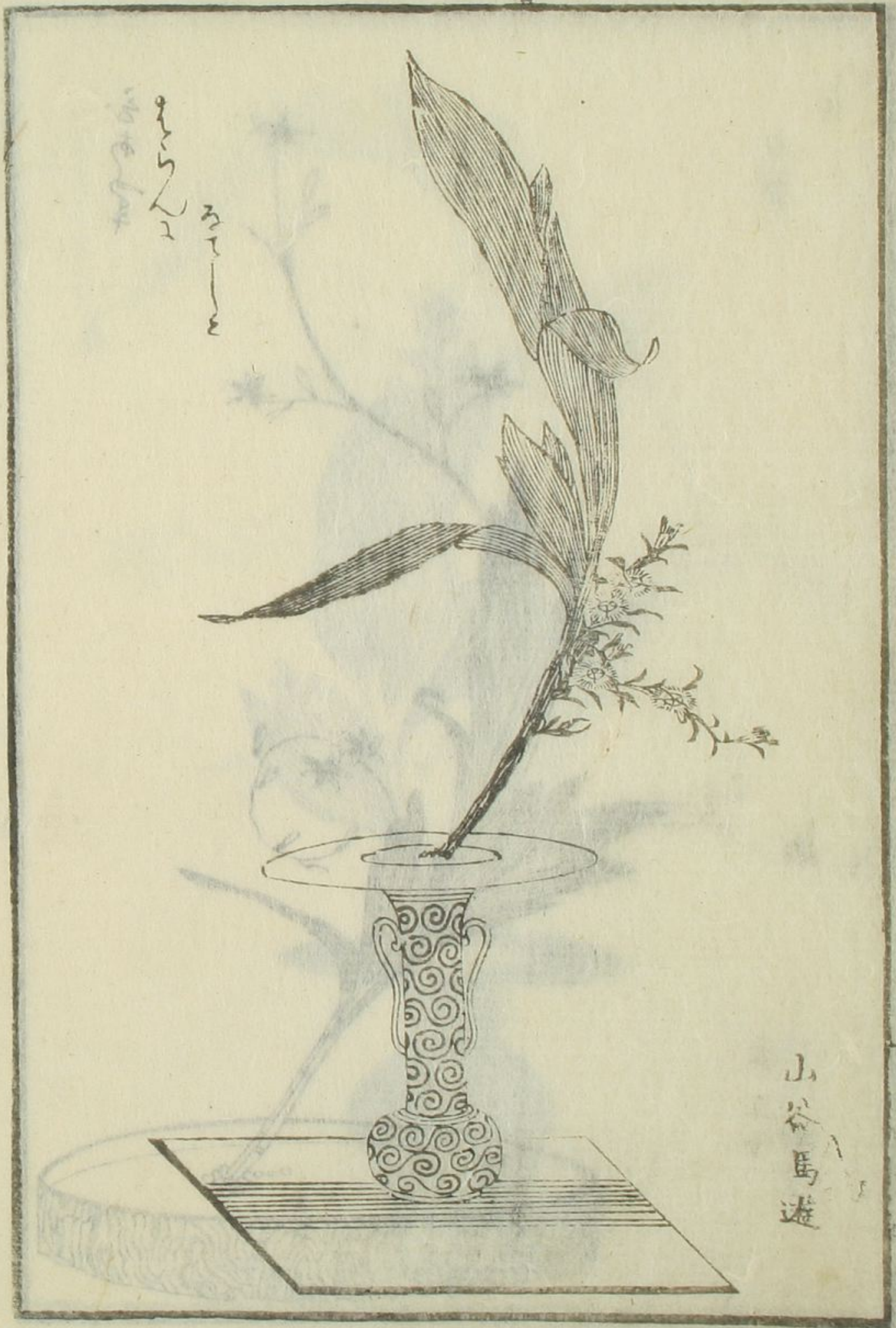


かしは

貞春齋
平川一水画

頁一六

表の香



かしは

山谷馬造

頁一五



馬蘭

石川柳芝 五



蓮 口佛

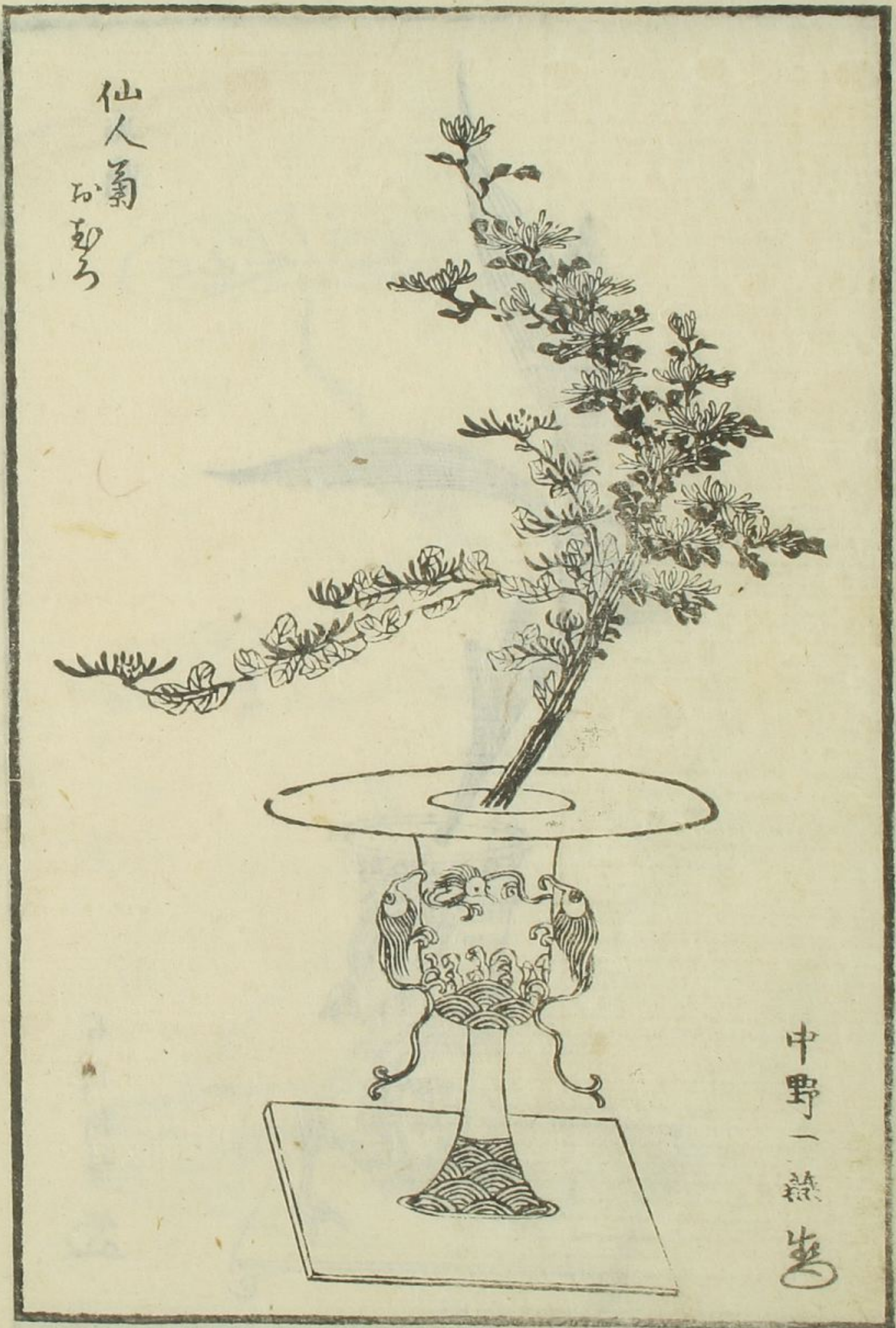
松雲齋一峯石



芍薬

花器
道斎作

真松齋
佐藤一旭



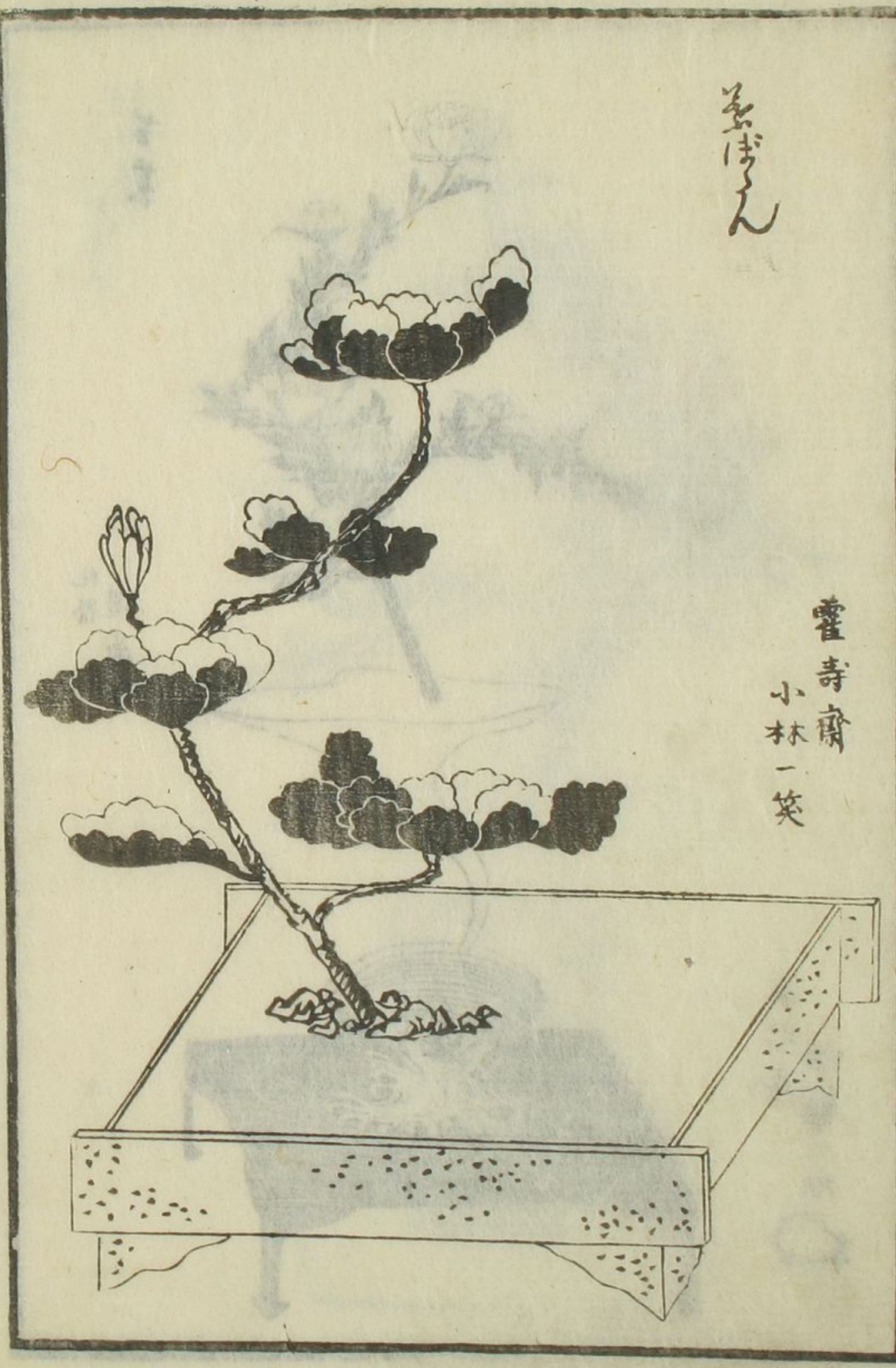
仙人菊
白切

中野一藏

花器
卷之三

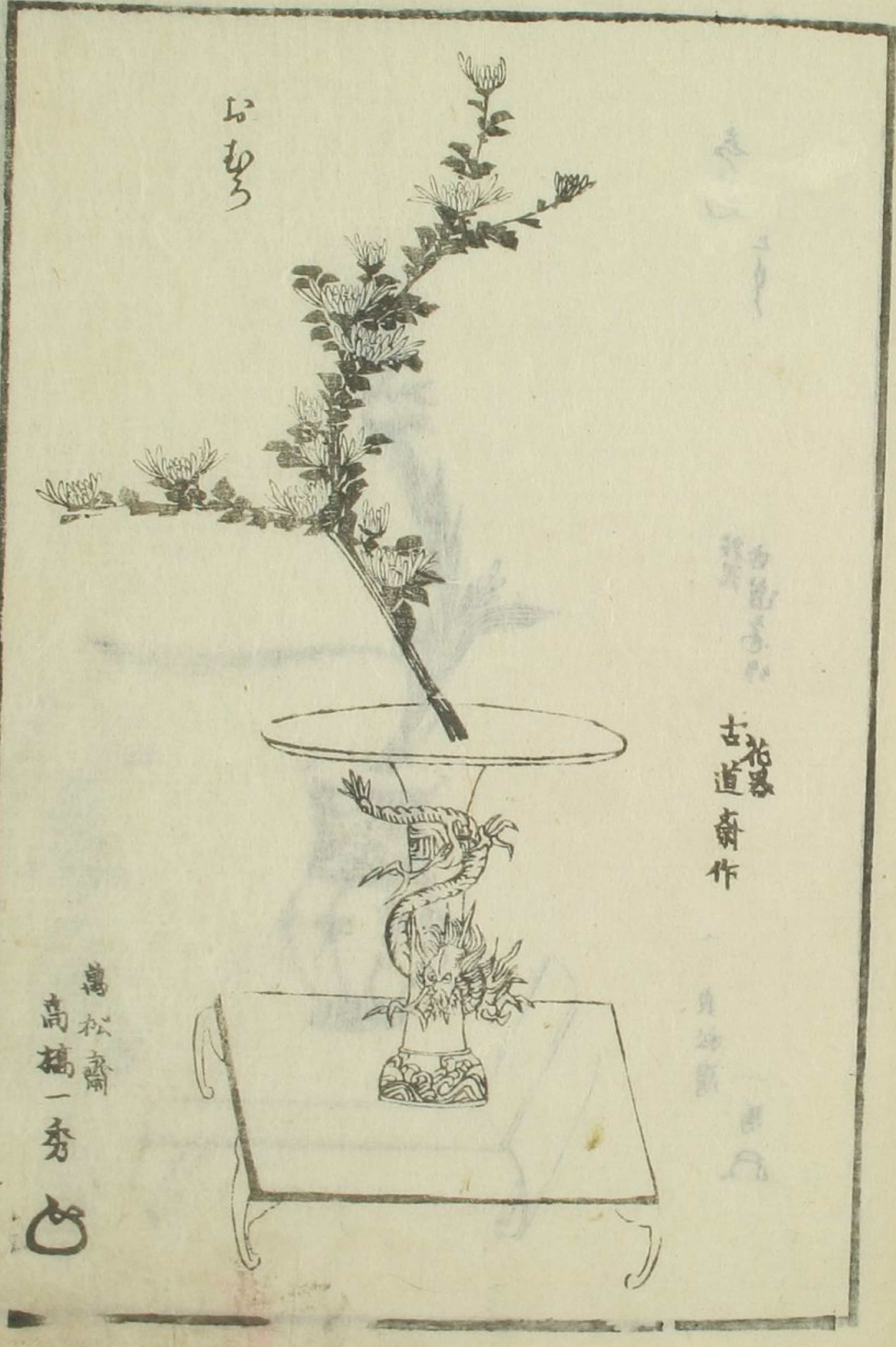
真松齋

玉ぼん



霍寺齋
小林一英

白むら



花器
古道齋作

萬松齋
高橋一秀

江戶名物



花の書 卷之三



高
三

狂
古
道
子
竹

貞
松
齋
一
馬

P
541
3

挿荃衣之香

三

世に中なる書あり

いふ所を

まじりて

よむべし

其の香を

神

神

松川深谷書

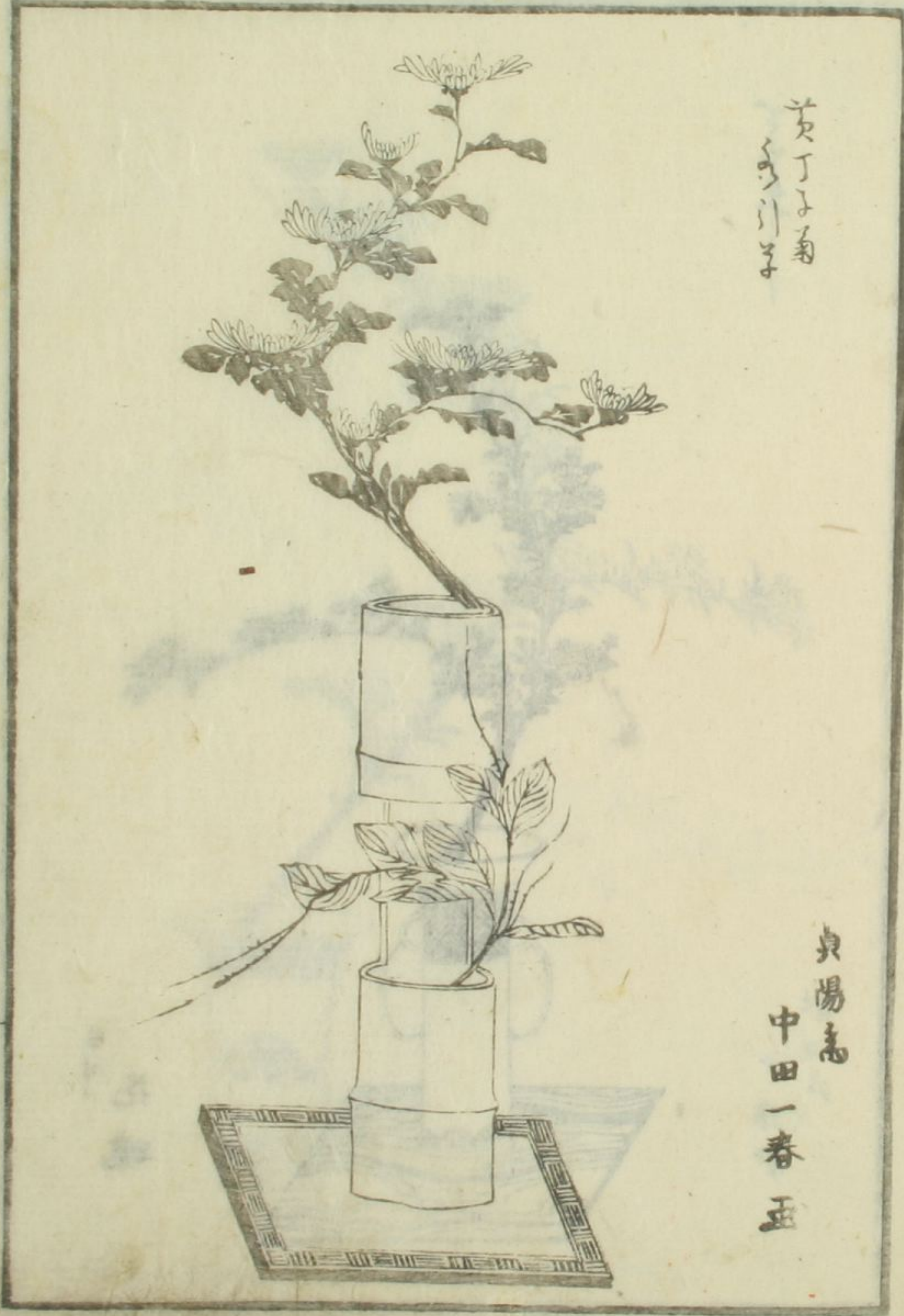
印

印

書

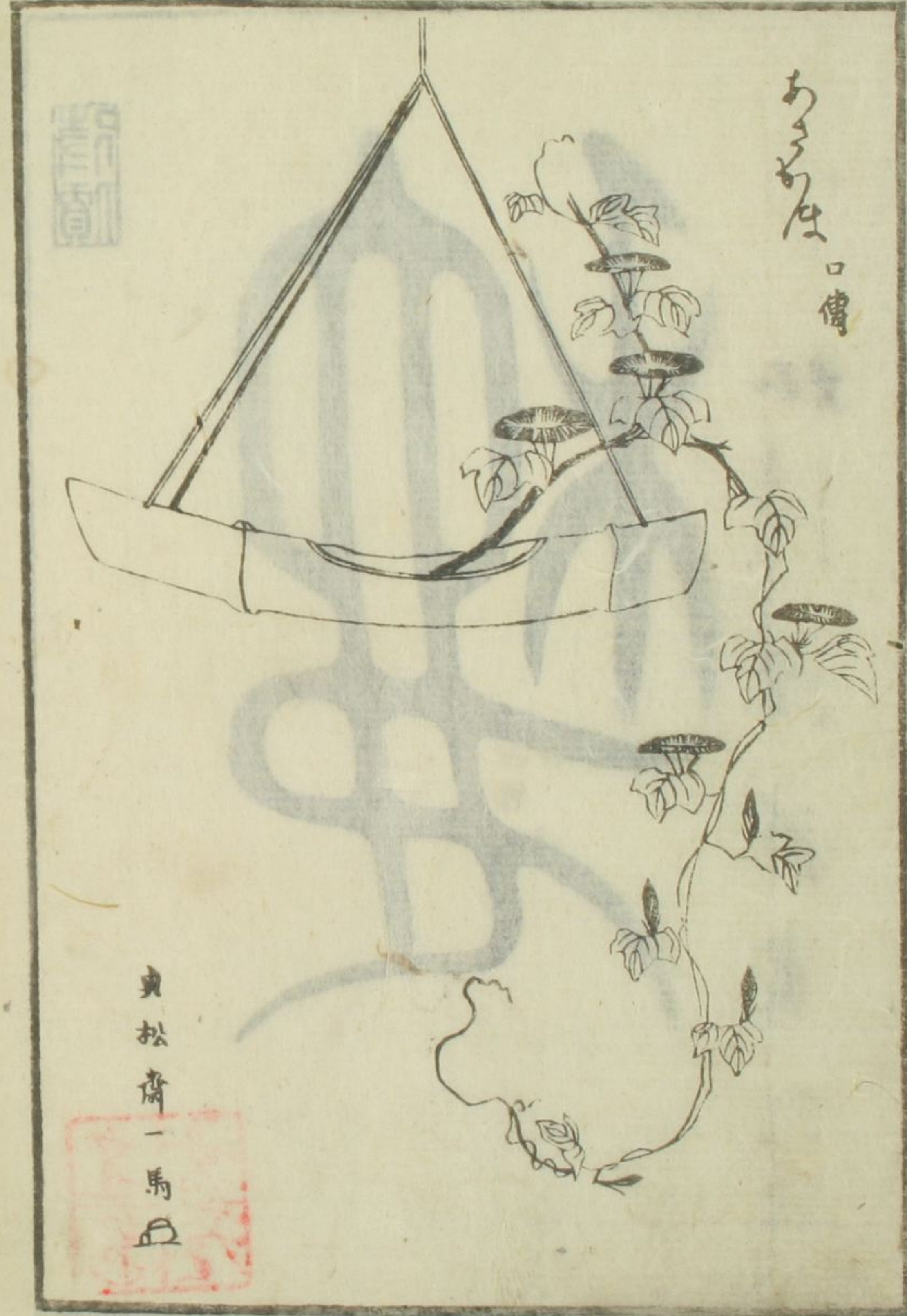
松川深谷書

大



黄丁子菊
中田一春

貞陽志
中田一春



あまのな
口傳

貞陽志

貞松齋一馬



表の巻
卷之三

三

花の香 卷之三



小き

増田氏
歌集

花の香 卷之三



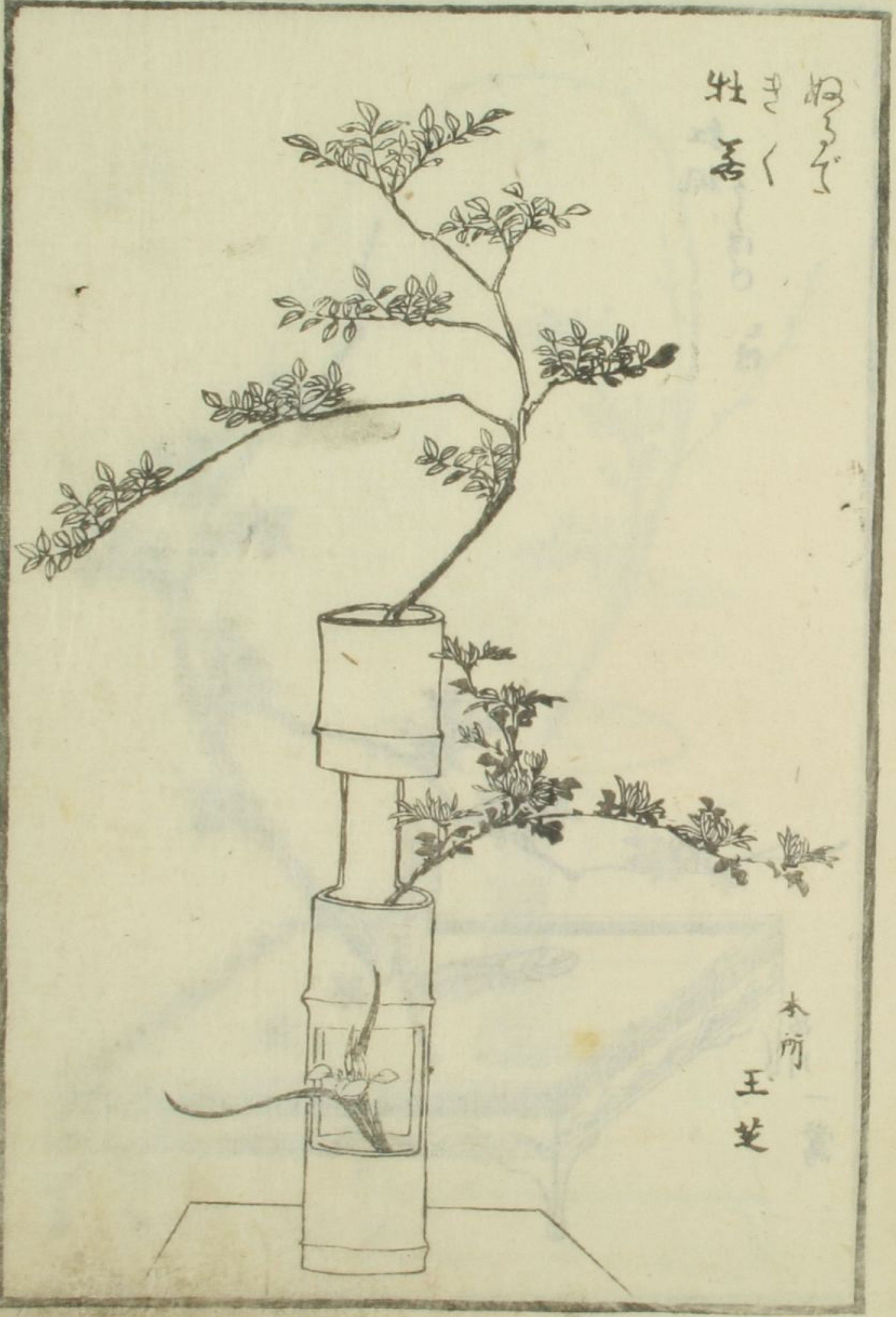
小き

呂川
花曉

花の香 卷之三

花の香 卷之三

花の香 卷之三



牡丹
花

本所
玉芝

火四

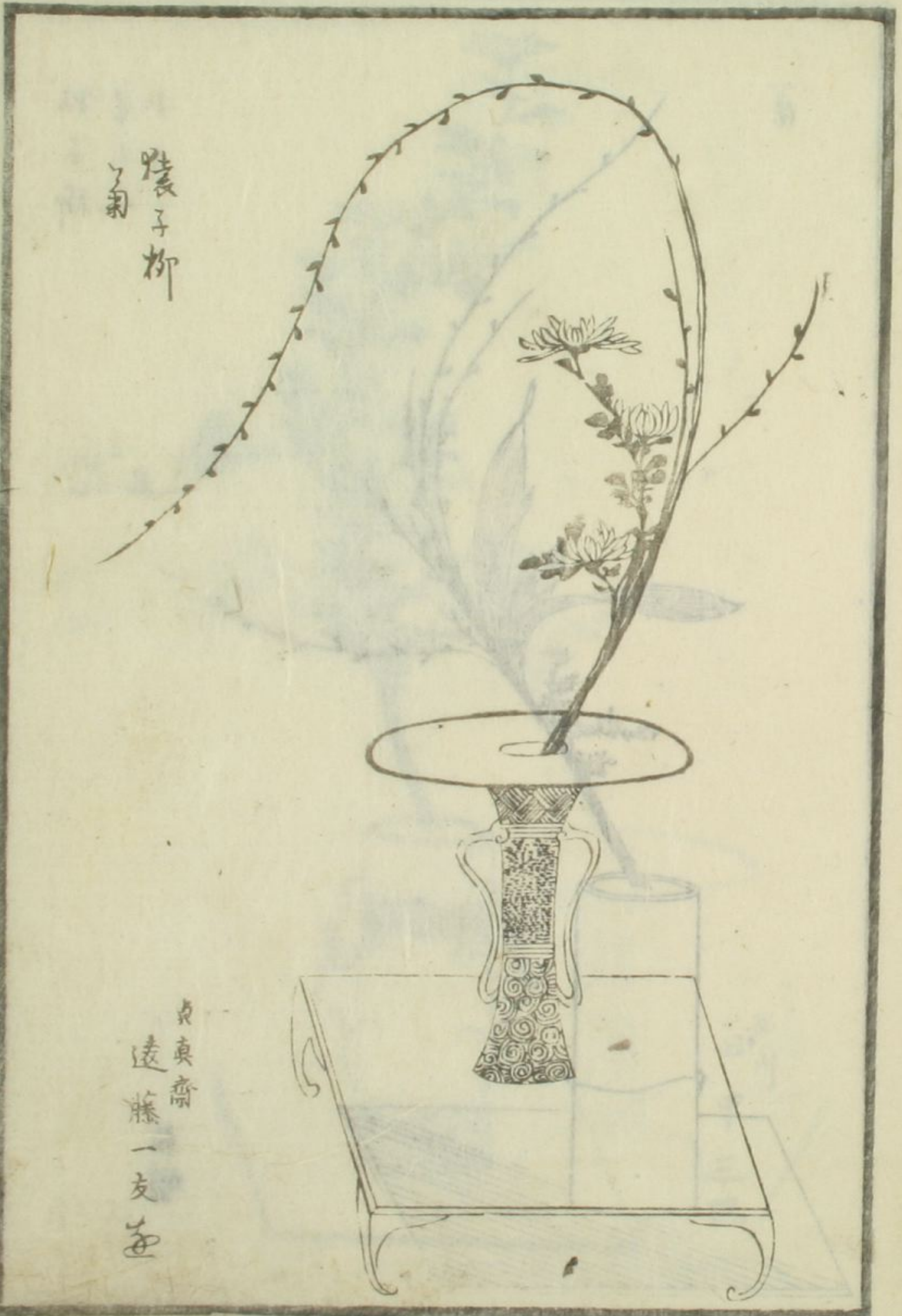
花の香 卷之三



紫苑

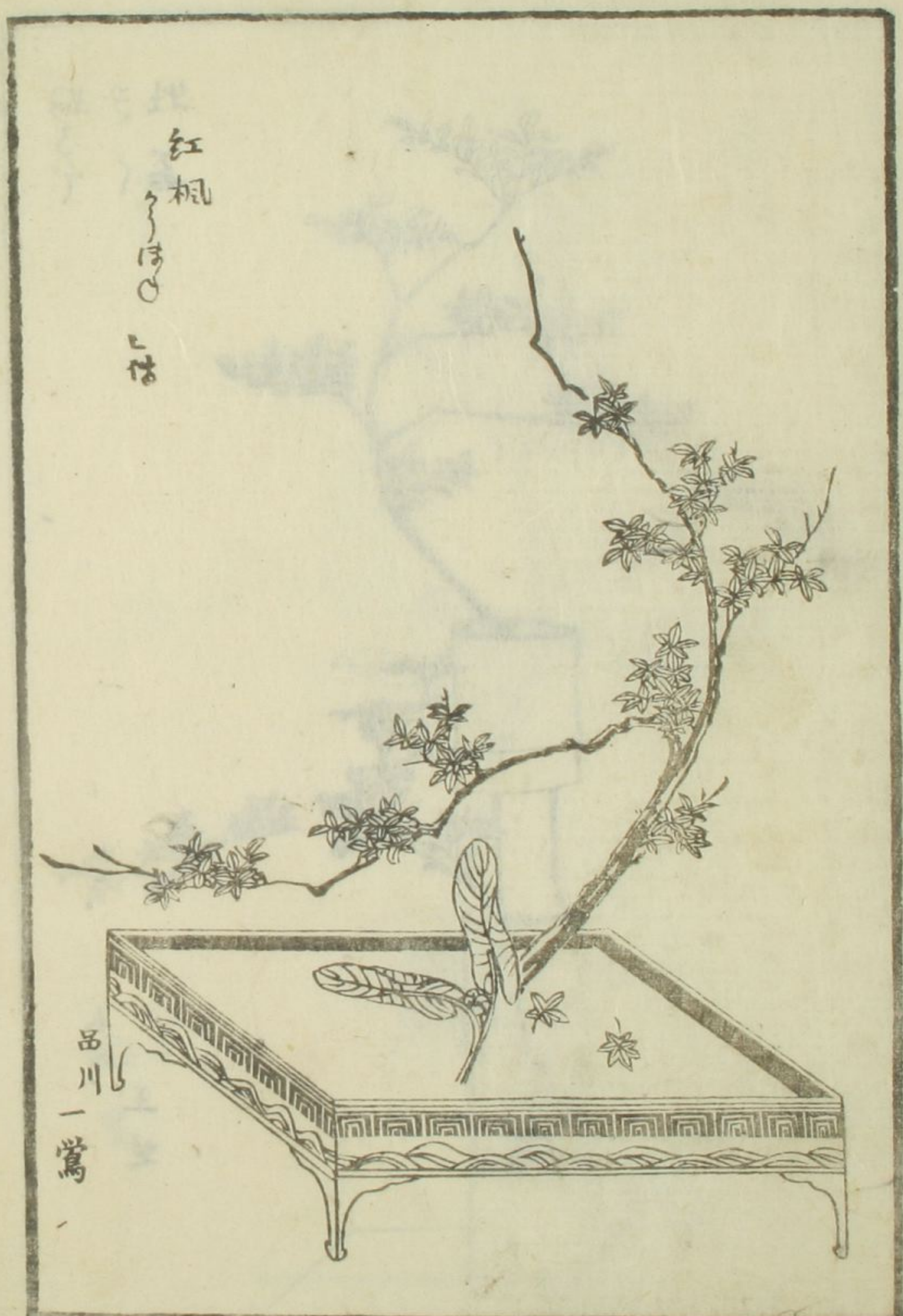
江川
彌慶

和



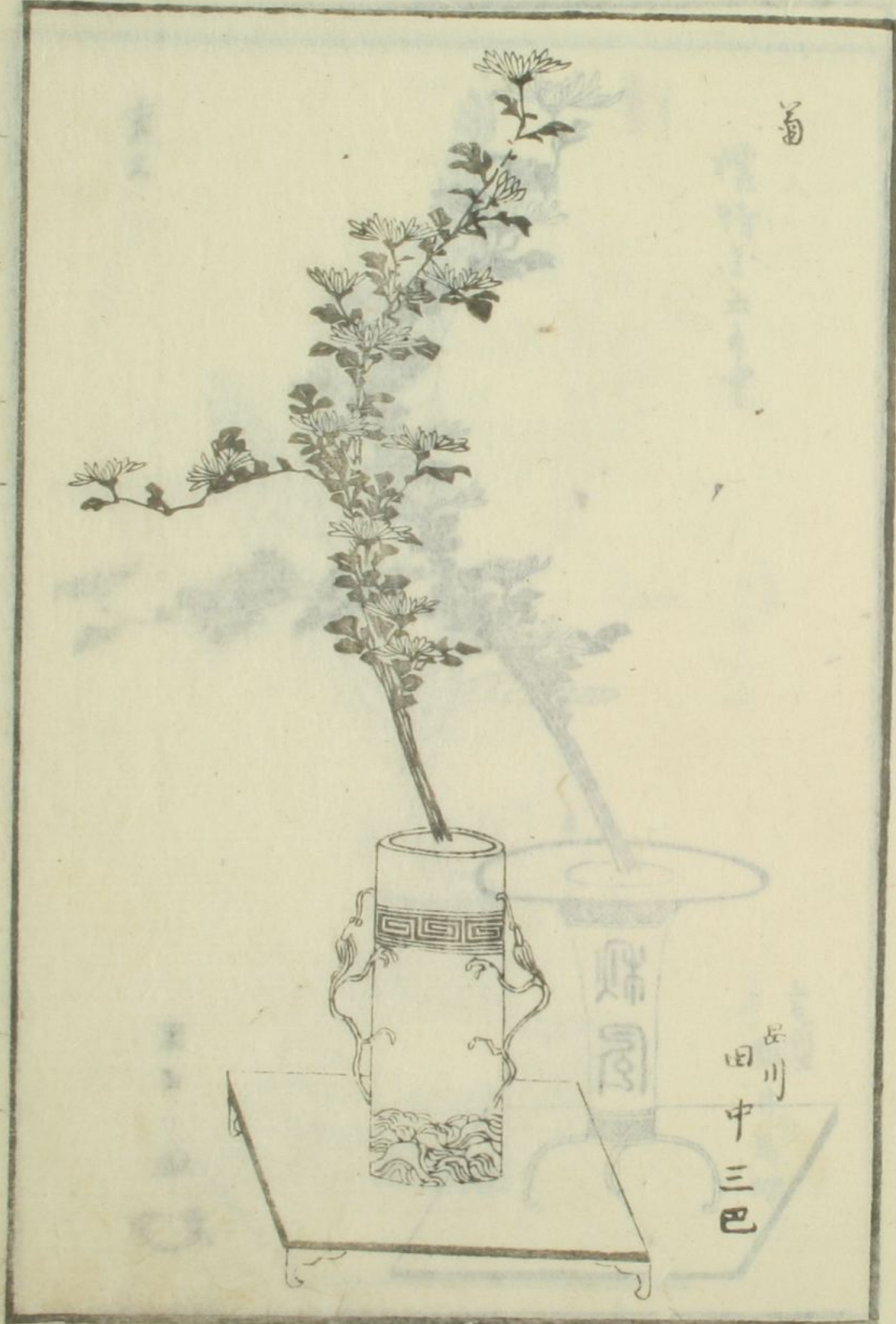
遠藤子柳
之菊

貞真齋
遠藤一友画



紅楓
之菊

呂川
一鶯



菊

田中三巴



小枝 柳

百蝶



檀特意五の草

上毛相生
新井馬蝶



去久

黒目一造
和

秋海棠



上毛羽生
岩本馬道

菊
二十一條



花器
古道高作

七川氏
水柳齋一我

長力香 卷之三

小菊



中山一仲

大凡

五

長力香 卷之三



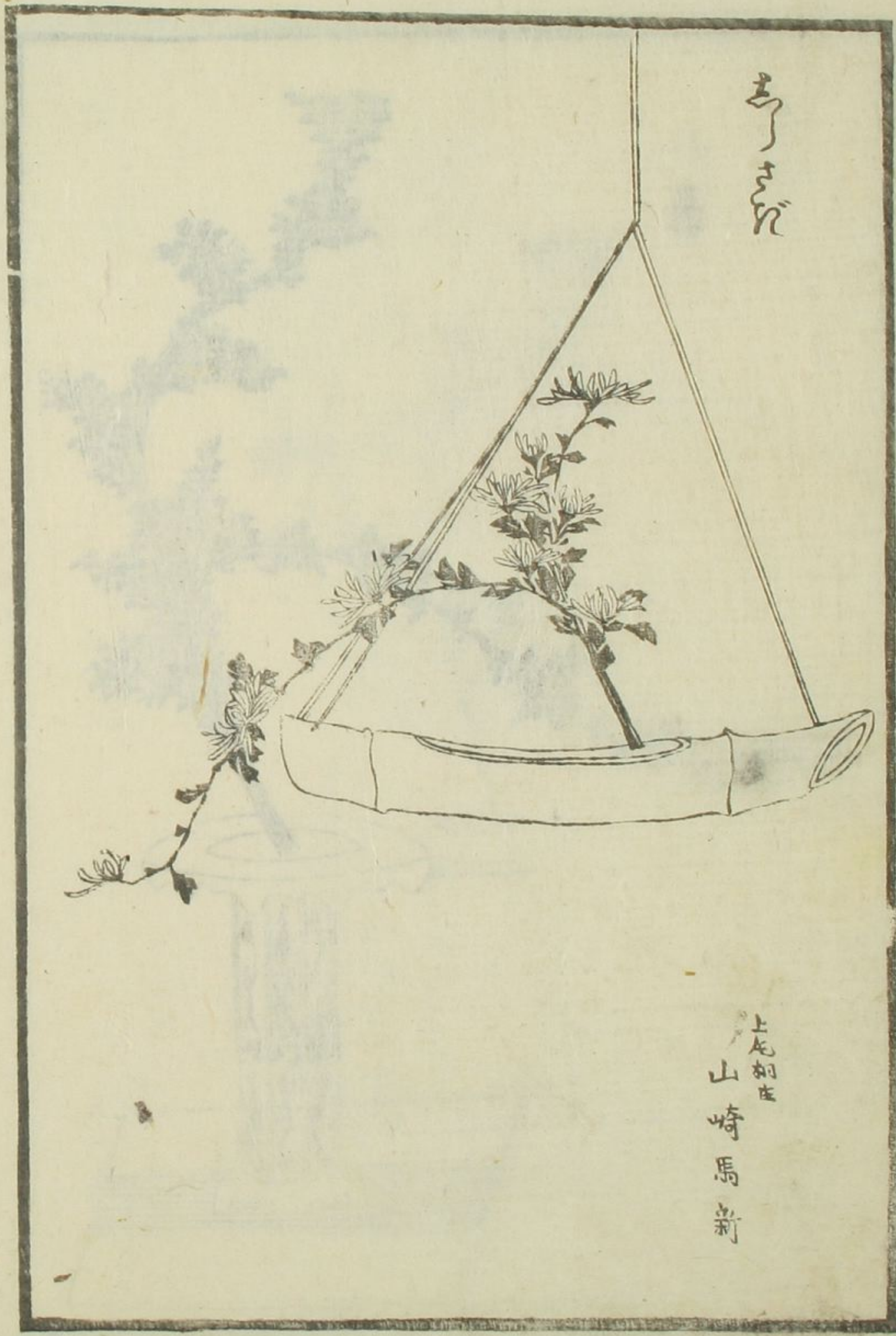
利州
大山庭翁

未ノ



貞壽齋
小山一栄

子
の
月



あしきげ

上七和庄
山崎馬新

一
十
九



阿
大
通

庄内
相良
夔足



岩
女
和
蝶

衣の香
卷之三

和
十

大正八年九月



大正八年

霍秀扇
女坂田一磨

新築一文白



大菊
之二十七端

貞秋齋
渡辺一見

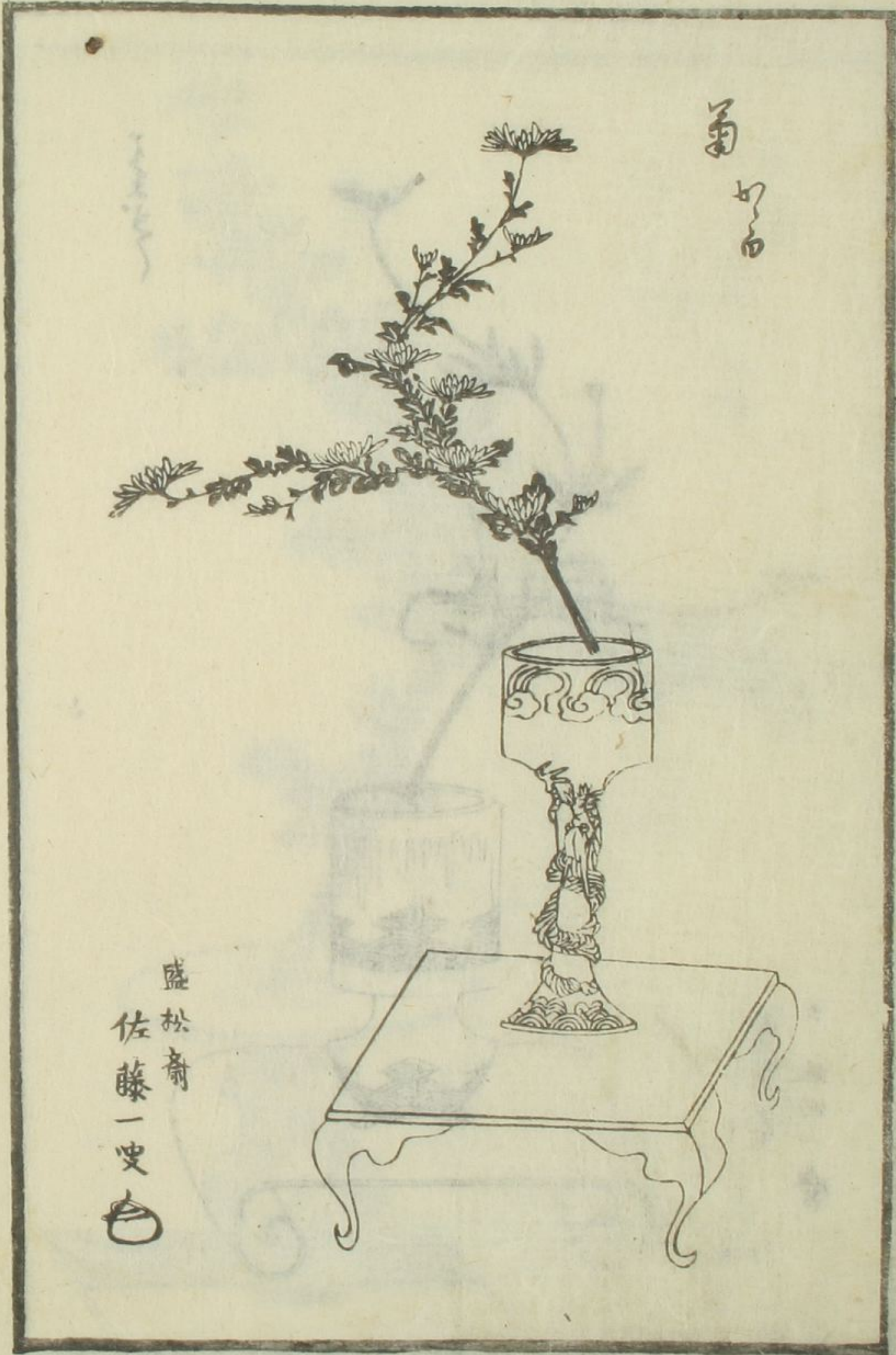
大正八年九月

大正八年



大菊
了系

酒井壽光



菊
如白

盛松齋
佐藤一史

大菊
卷之三



貞巖齋
西一麗

大
一
日

大菊
卷之三



貞民齋
清水一樂

大菊
卷之三

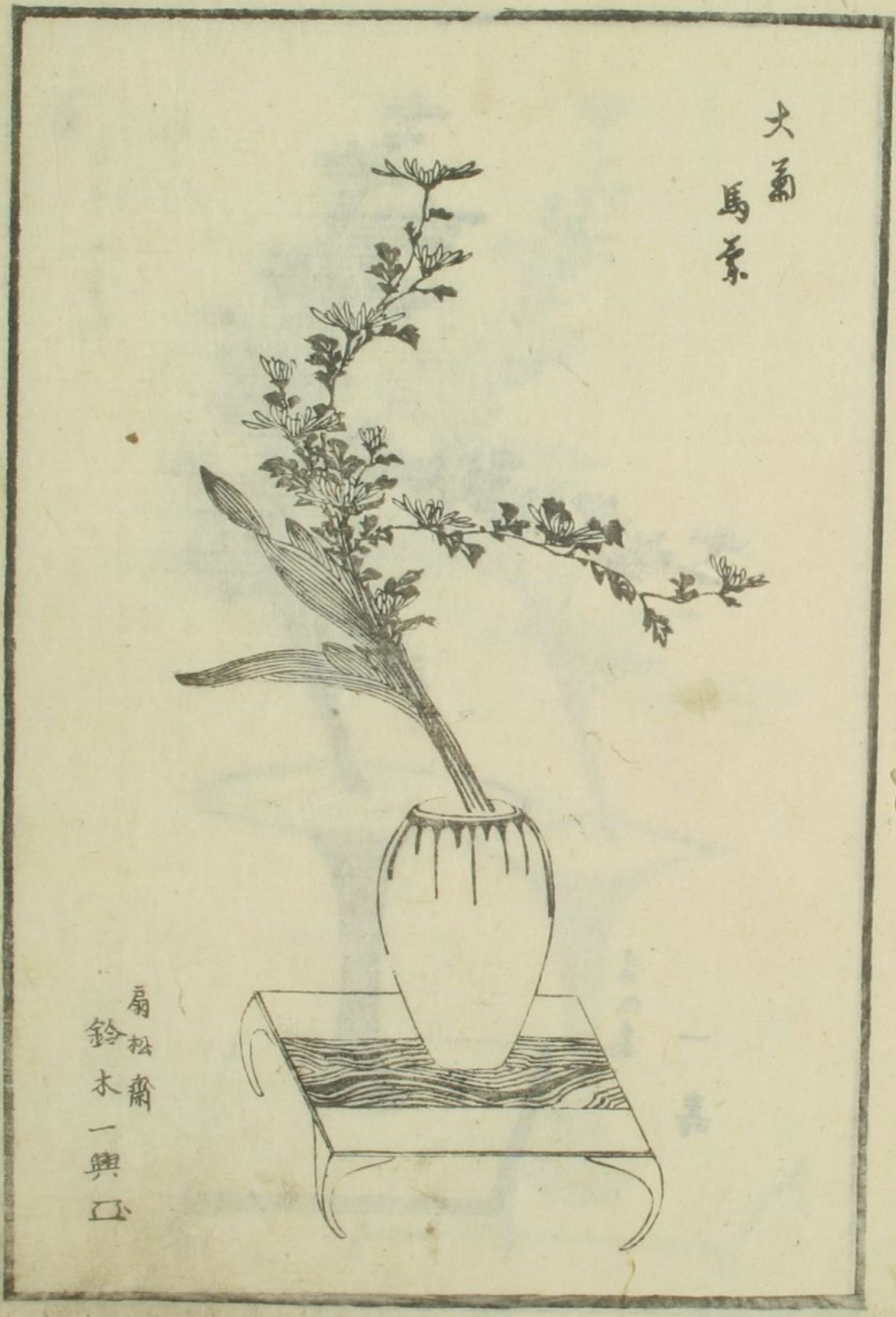
大
一
日

菊
二十七種



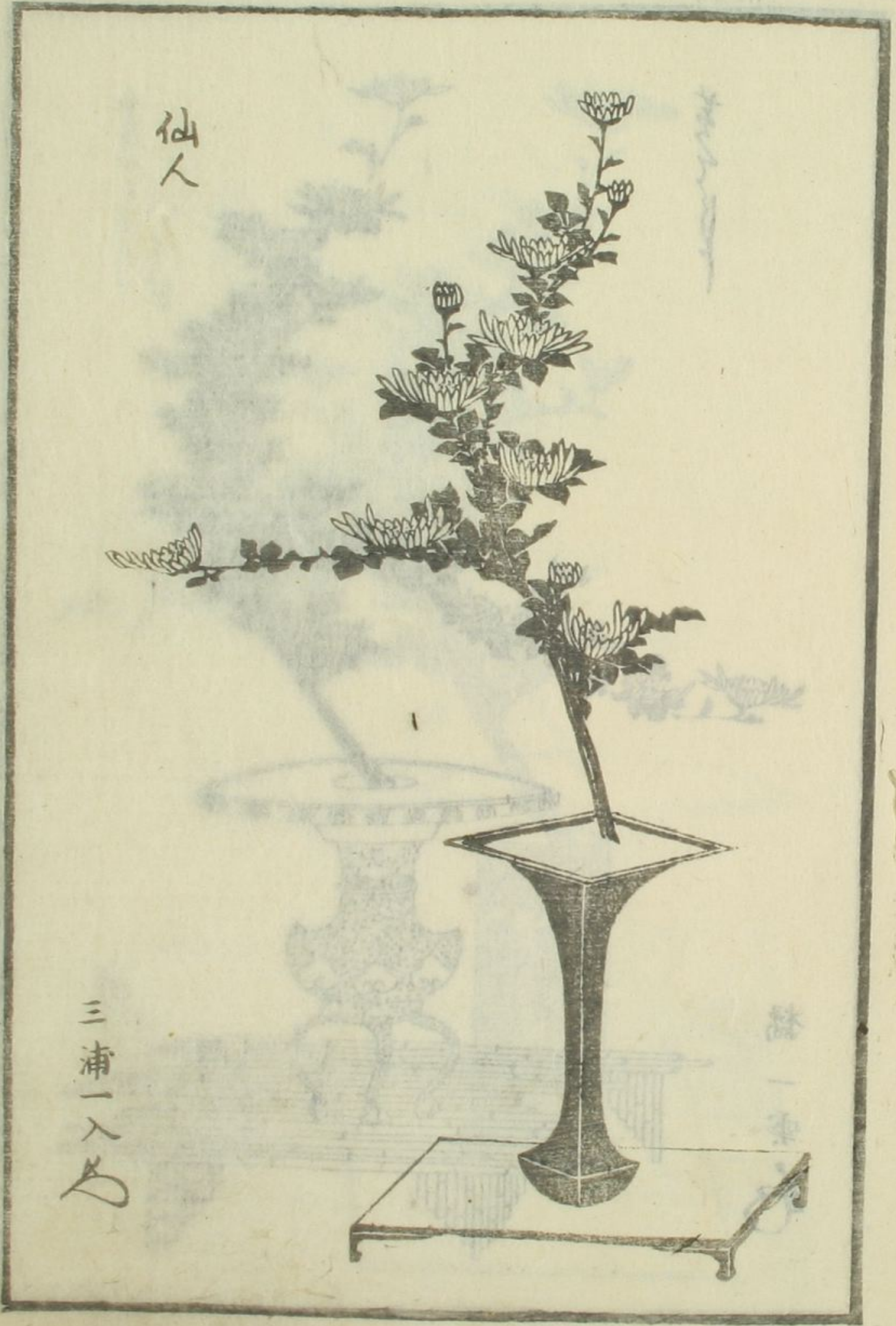
貞晚齋
関一登

大菊
馬茶



扇松齋
鈴木一興

花の香 卷之三



仙人

三浦一人

火下

花の香 卷之三



菊
之十一

吉松
一壽

八十一

大川
卷之三

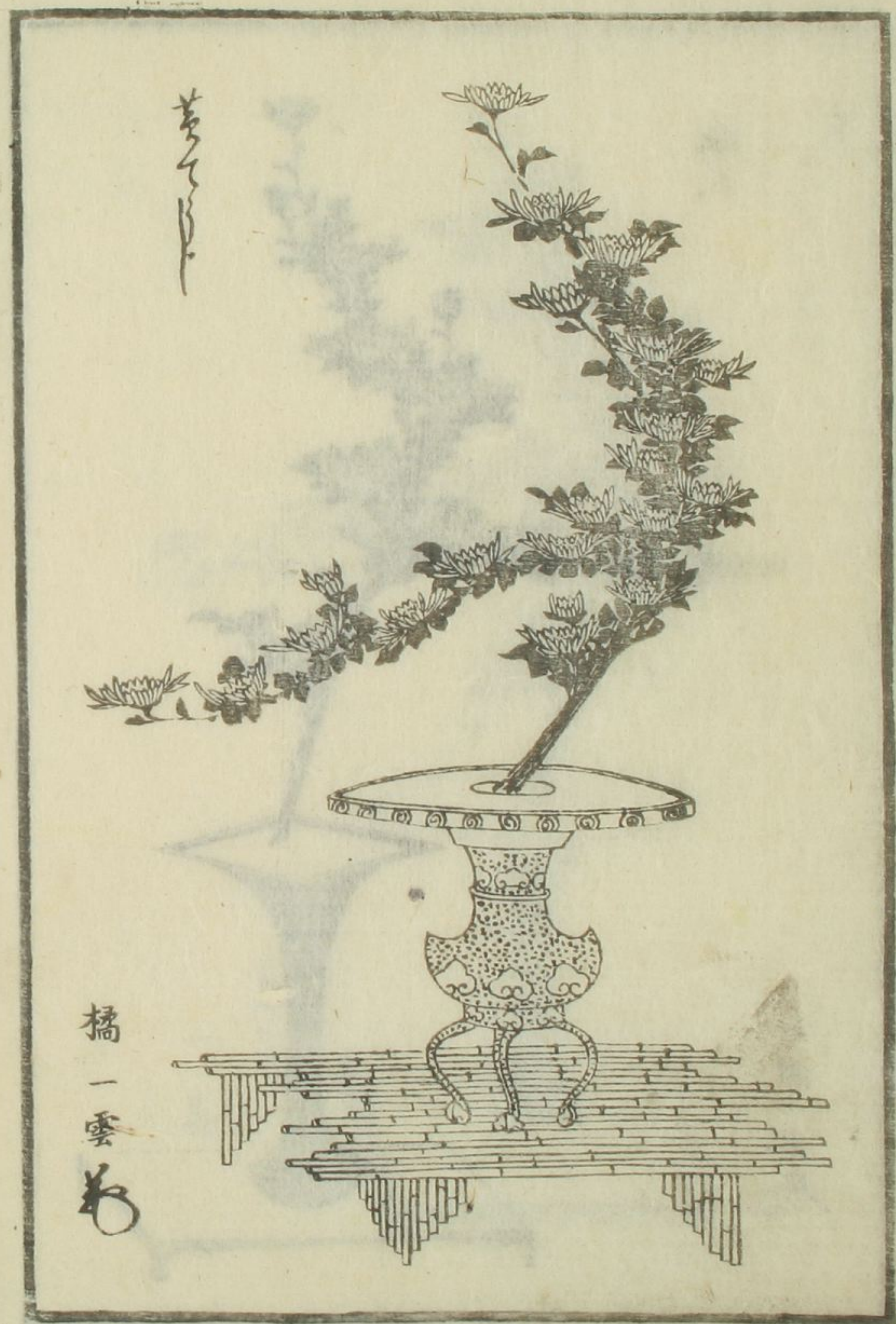
美
了
下



石川
桃義

大川
卷之三

美
了
下



橘
一
雲
花

大川
卷之三

大川
卷之三



ぎん

石川一九〇



仙の月人

柏木一露五

新の香 卷之三

利十

火

火

黄丁子
かき
まん
えん



貞松齋
米一馬
五

花の書



P
541
4

梅花下後毛丸

四

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

四冊之内

維時

天保五

癸

午天

三月

吉日

求之

日野石手

仁藤吉平



松川深江書



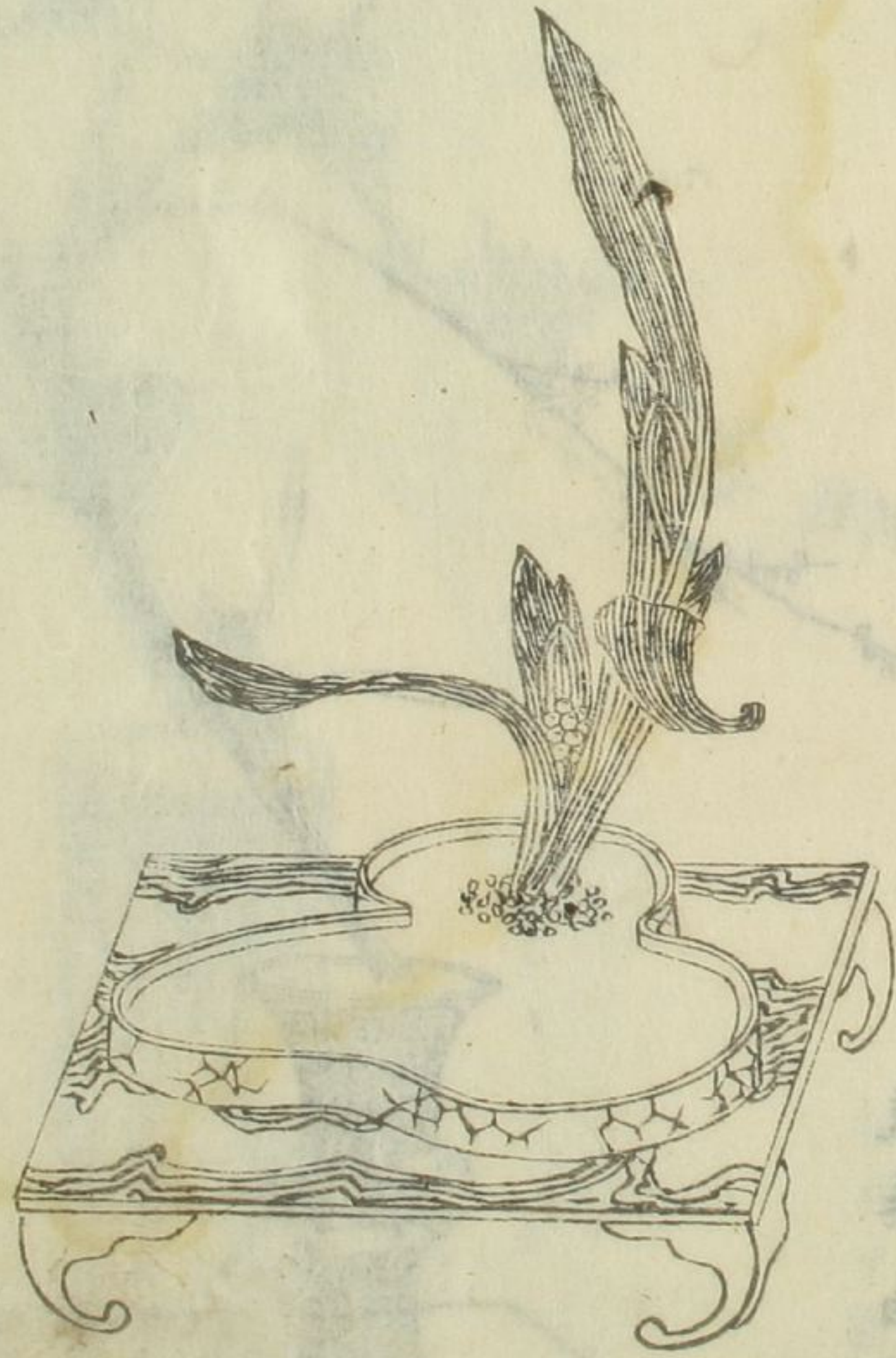
松川深江書

柳
おのし
口傳



貞陽齋
中田一春
玉

おのし
口傳



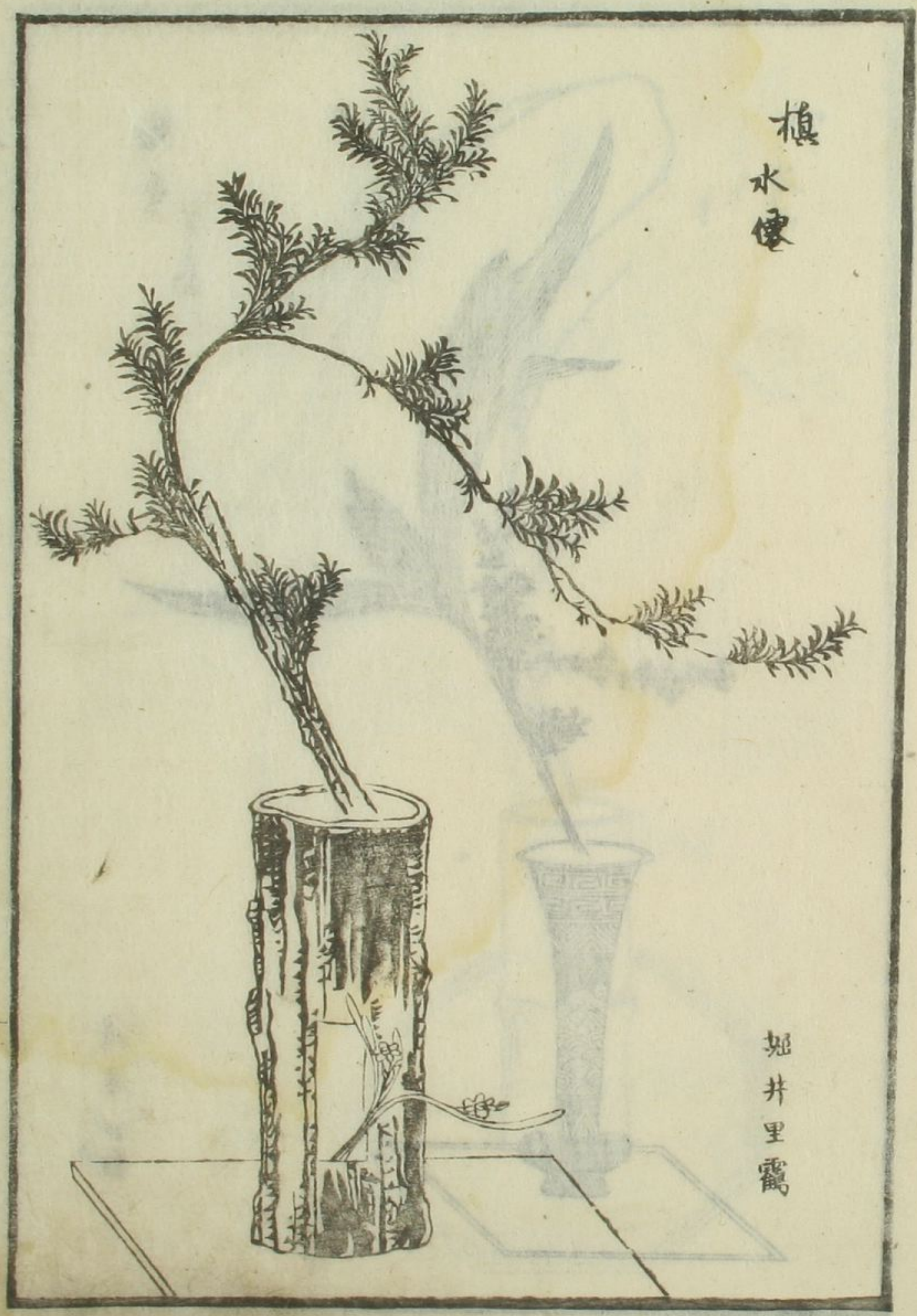
石川氏女
水柳齋一我

世に
まじり

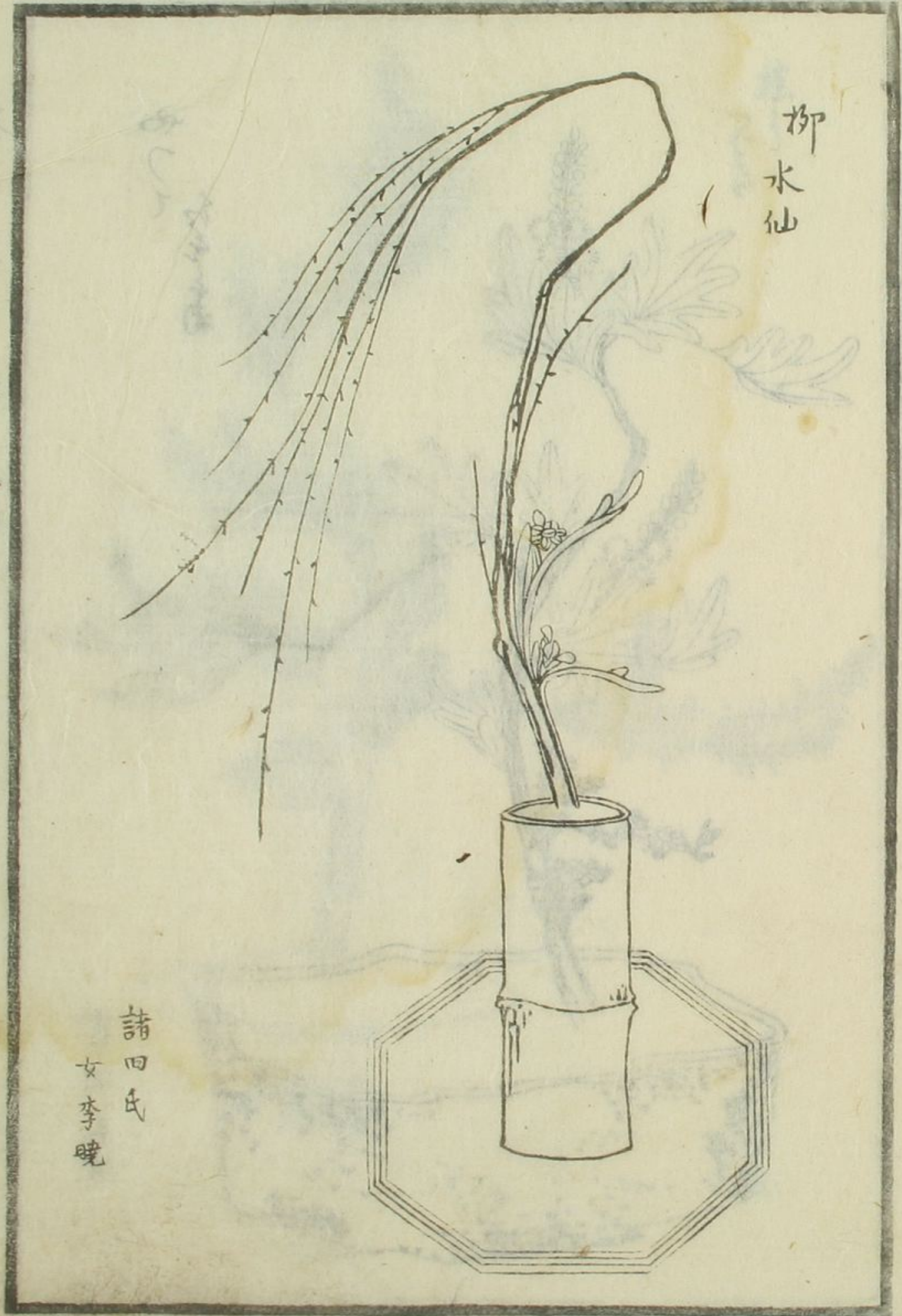


遠藤馬王

植
水便

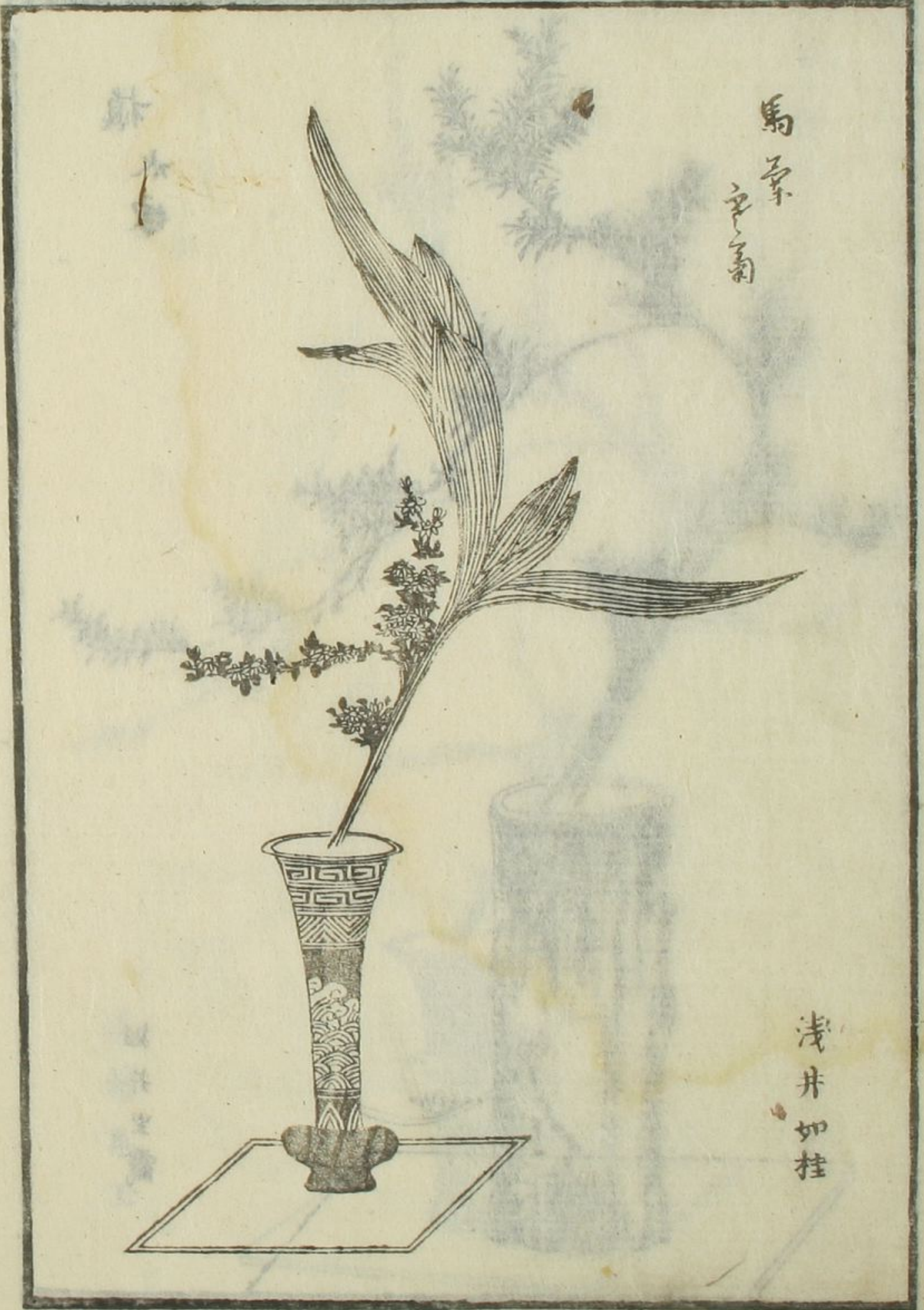


堀井里露



柳水仙

諸四氏
女李曉



馬榮
辛菊

淺井如桂



桂
子

中山桂枝



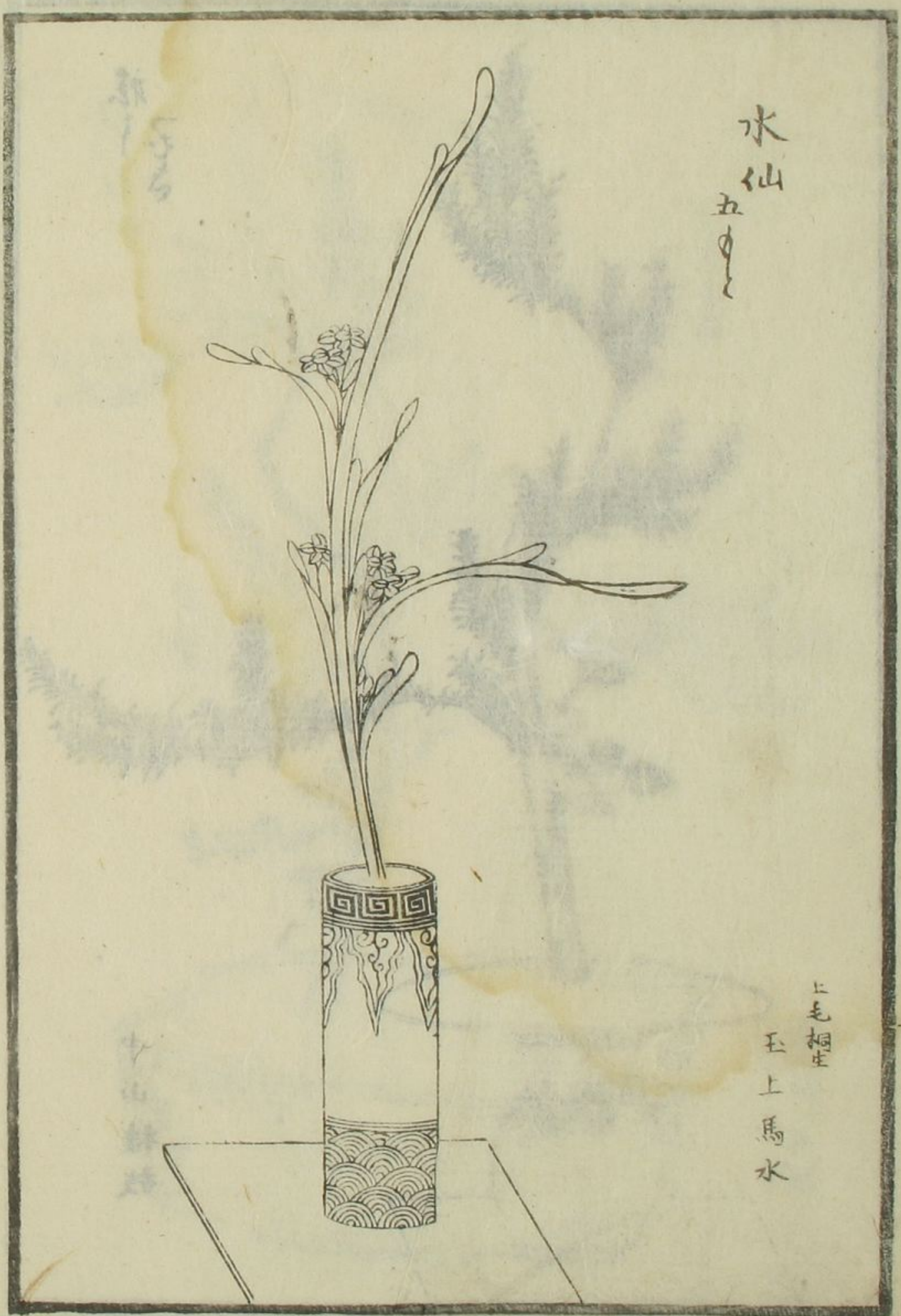
かつて
紅毛の菊

霍岡馬源



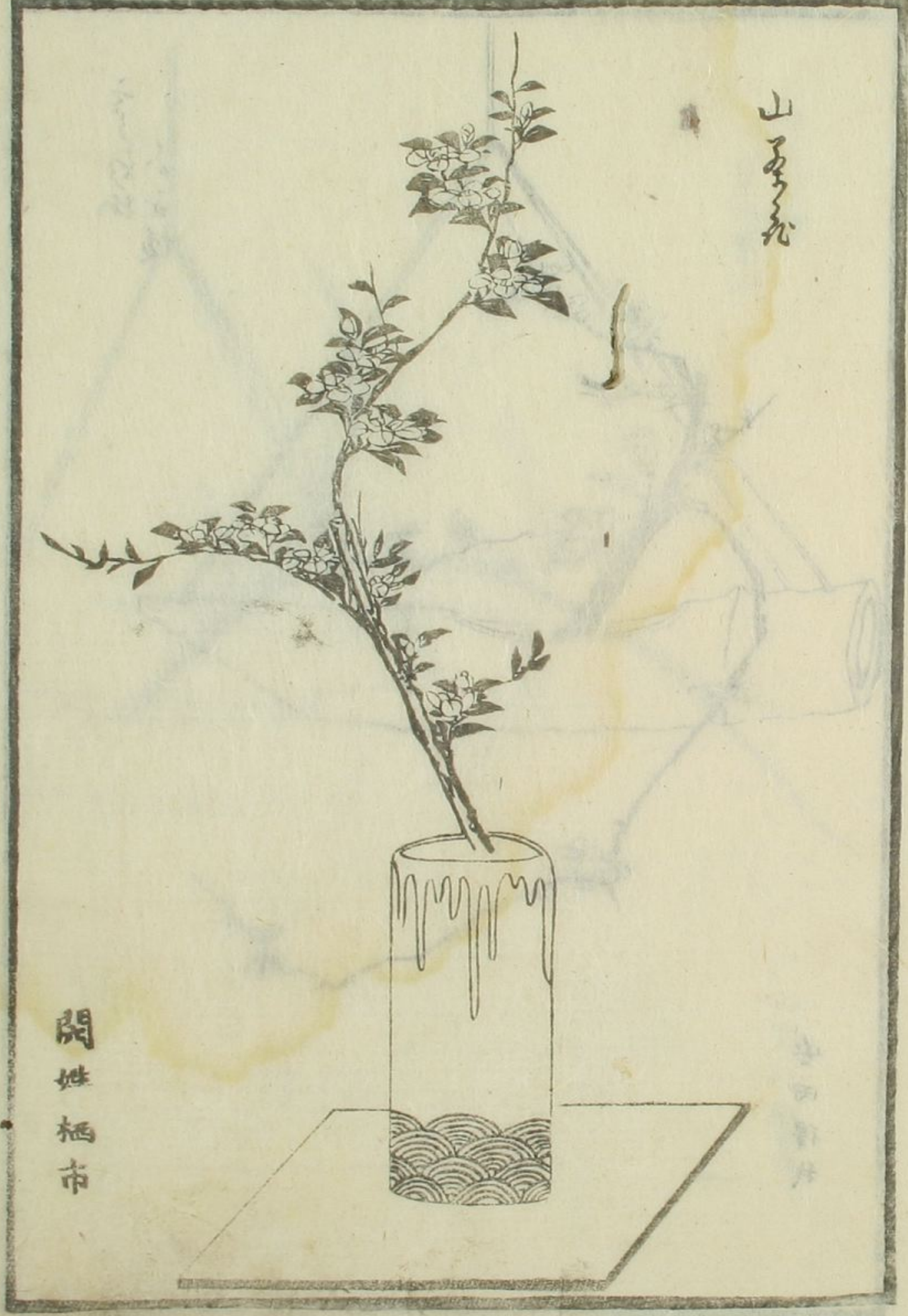
らん
らん
仙

黒田帆曉



水仙
五

上毛桐生
玉上馬水



山
花

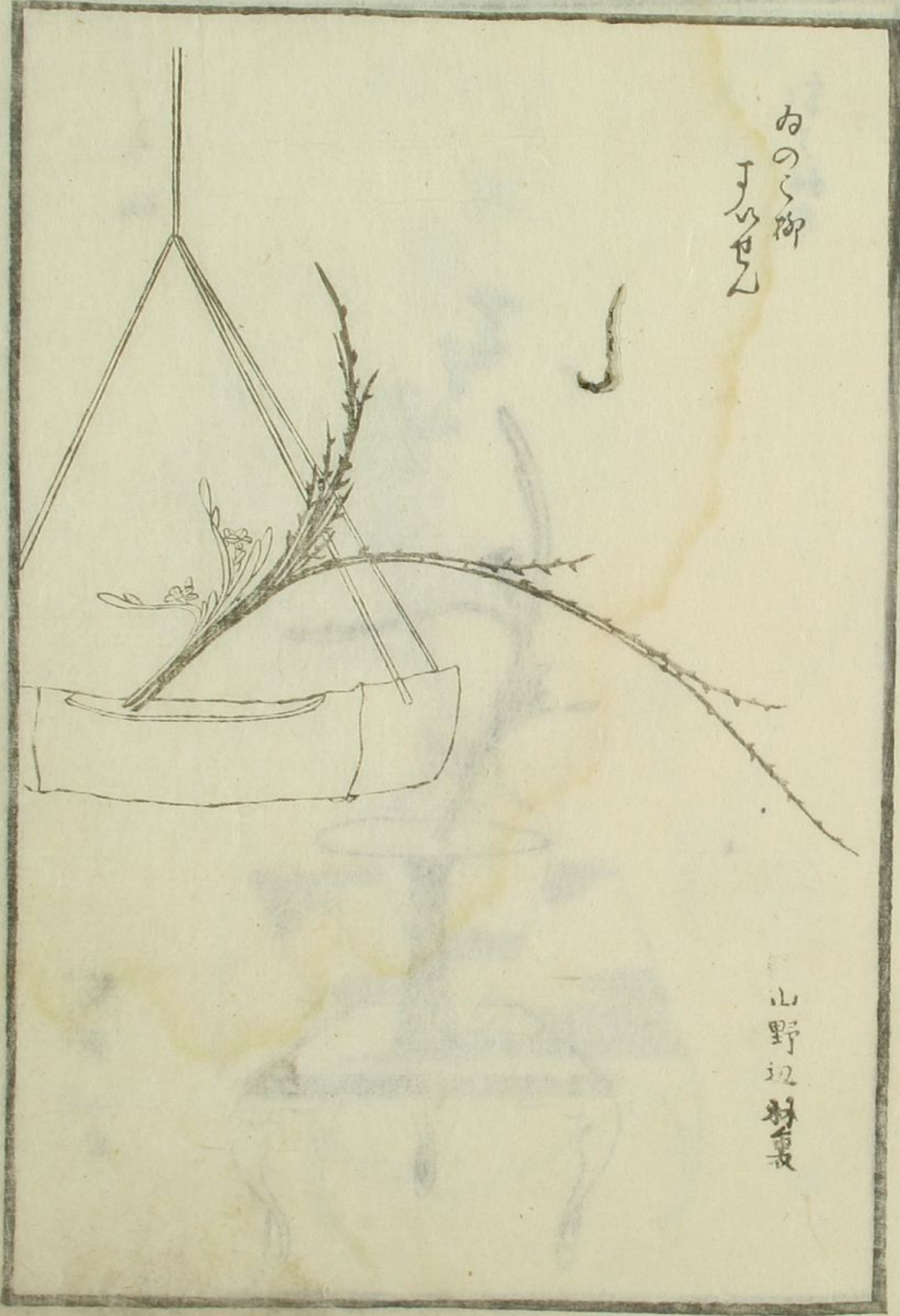
閑
姓
栴
市



南
天
花

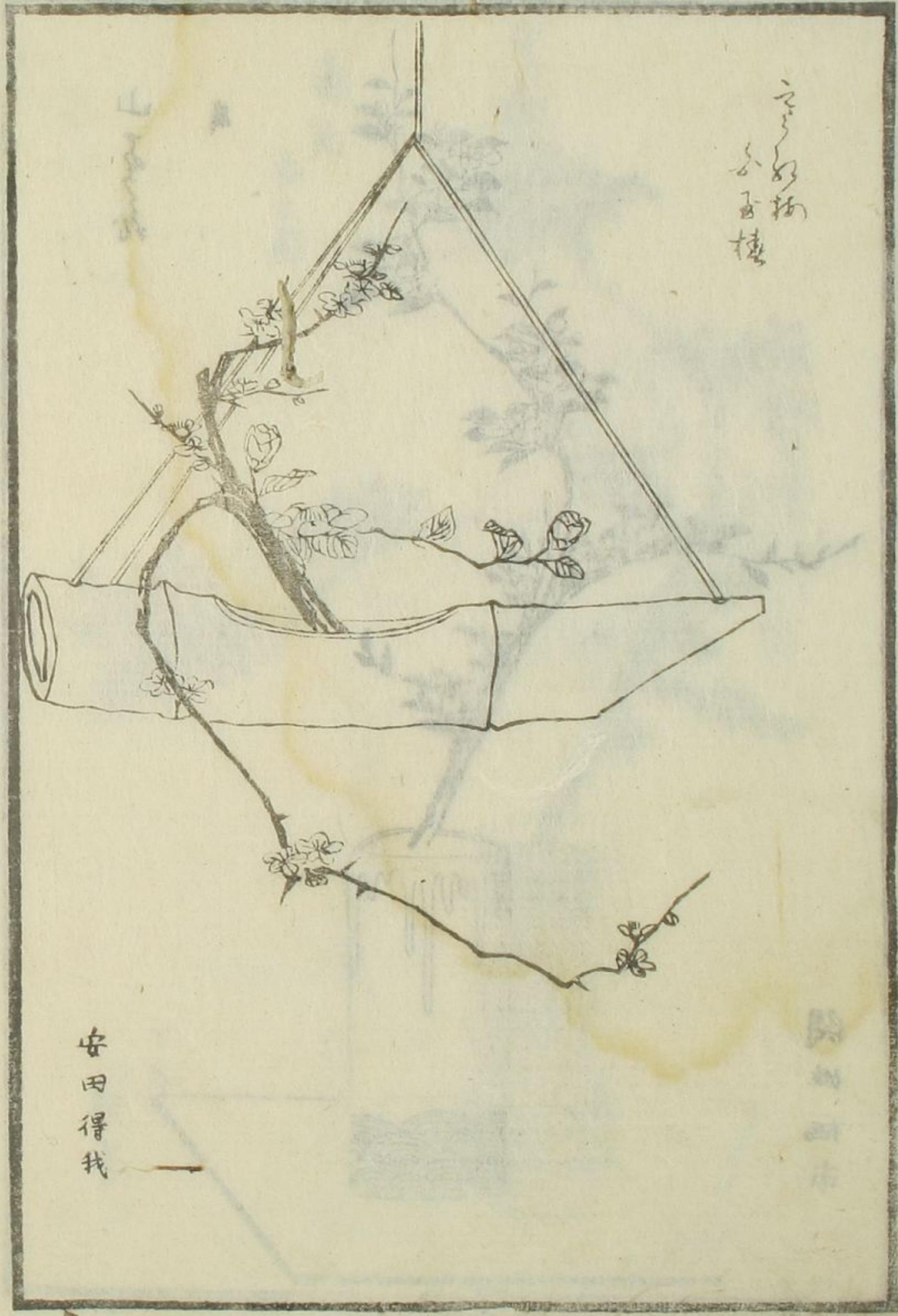
下
谷
松
平

花の香 巻之四



おのゝ御
丁の巻

山野辺材表



おのゝ御
ふす巻

安田得我

花の香 巻之四



はくま

品川
露

花の香

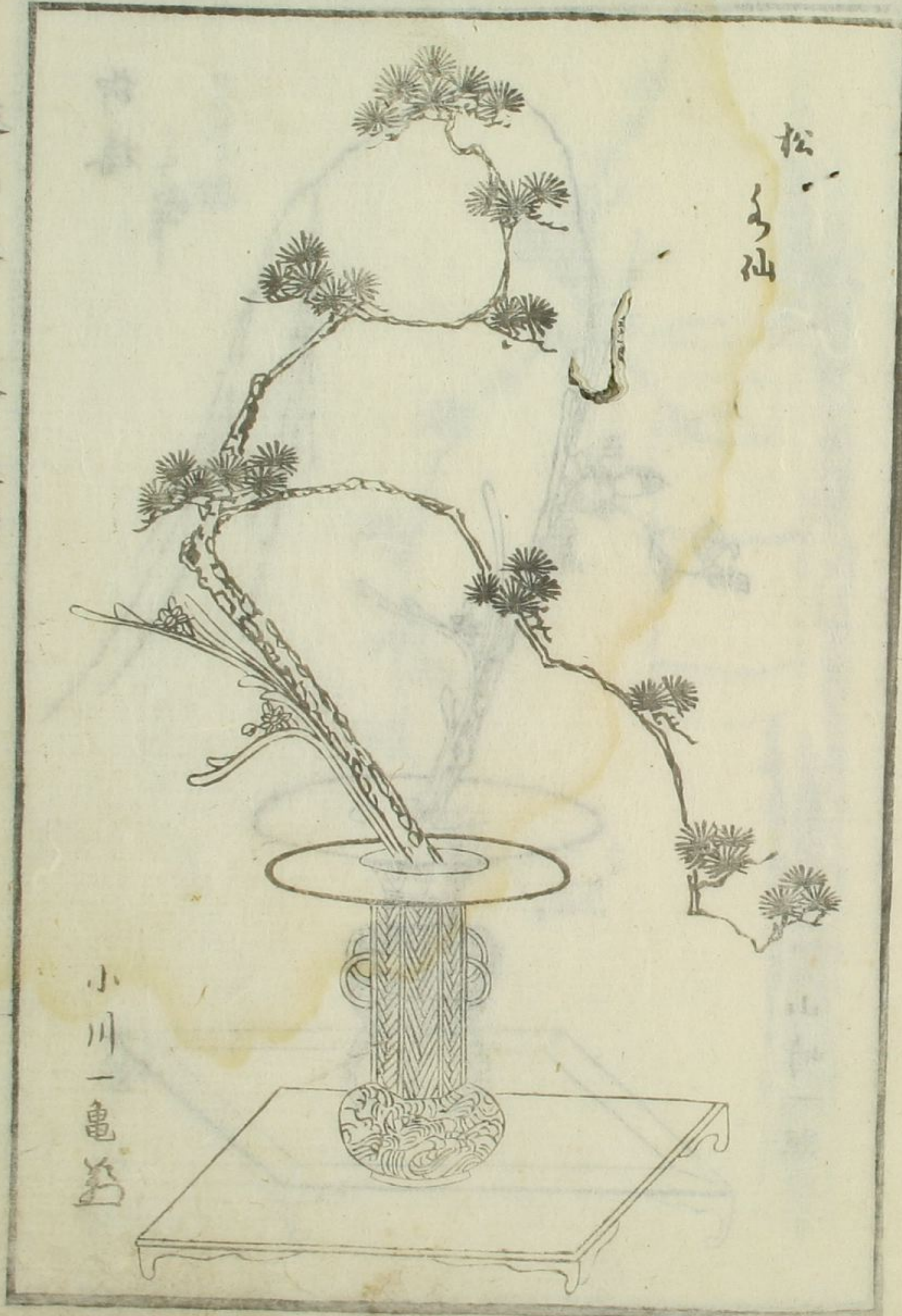


山

萩原山里

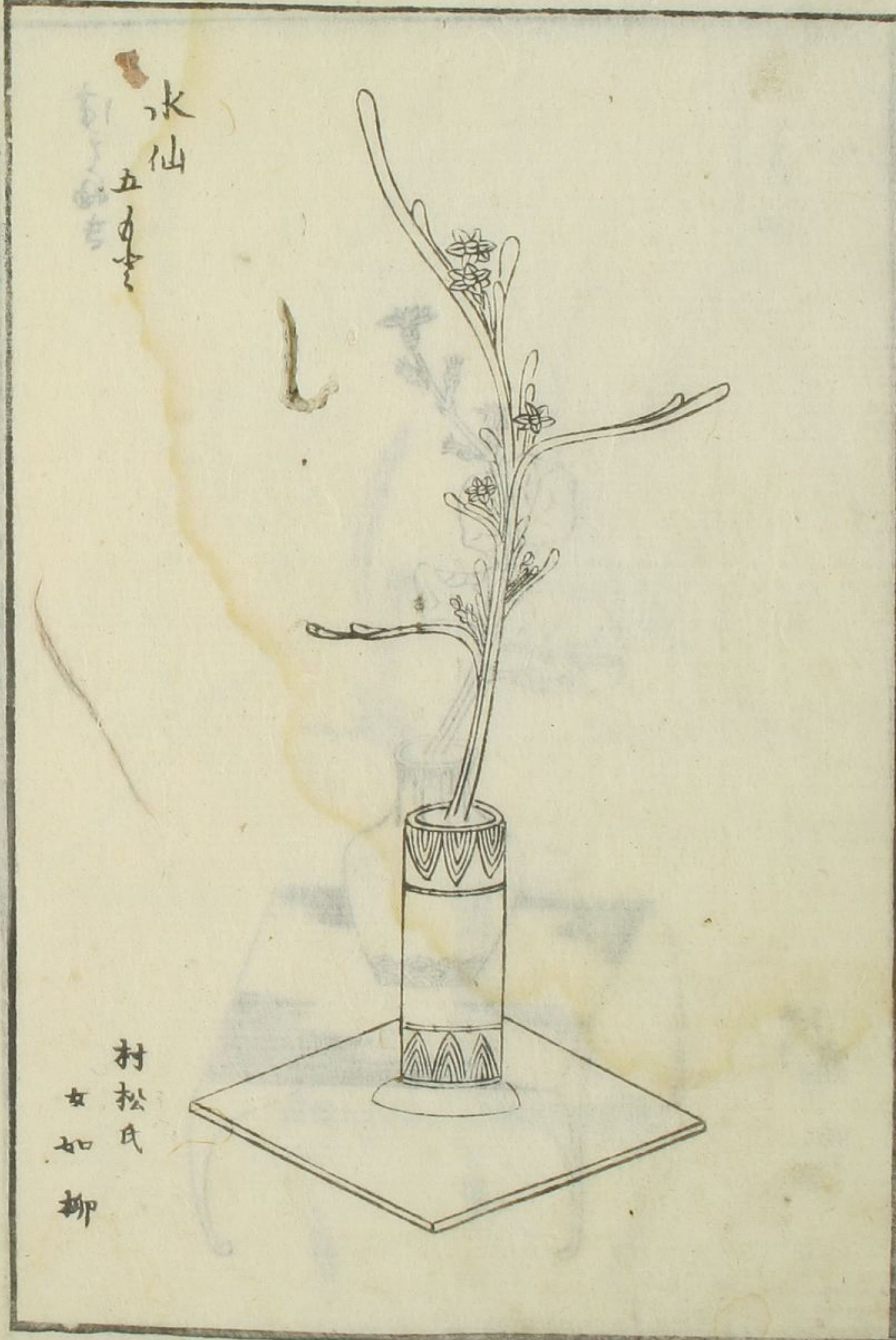
花の香

松の仙
五の松



松
の
仙

小川一亀翁



水仙
五の松

村松氏
女如柳

松の仙
五の松

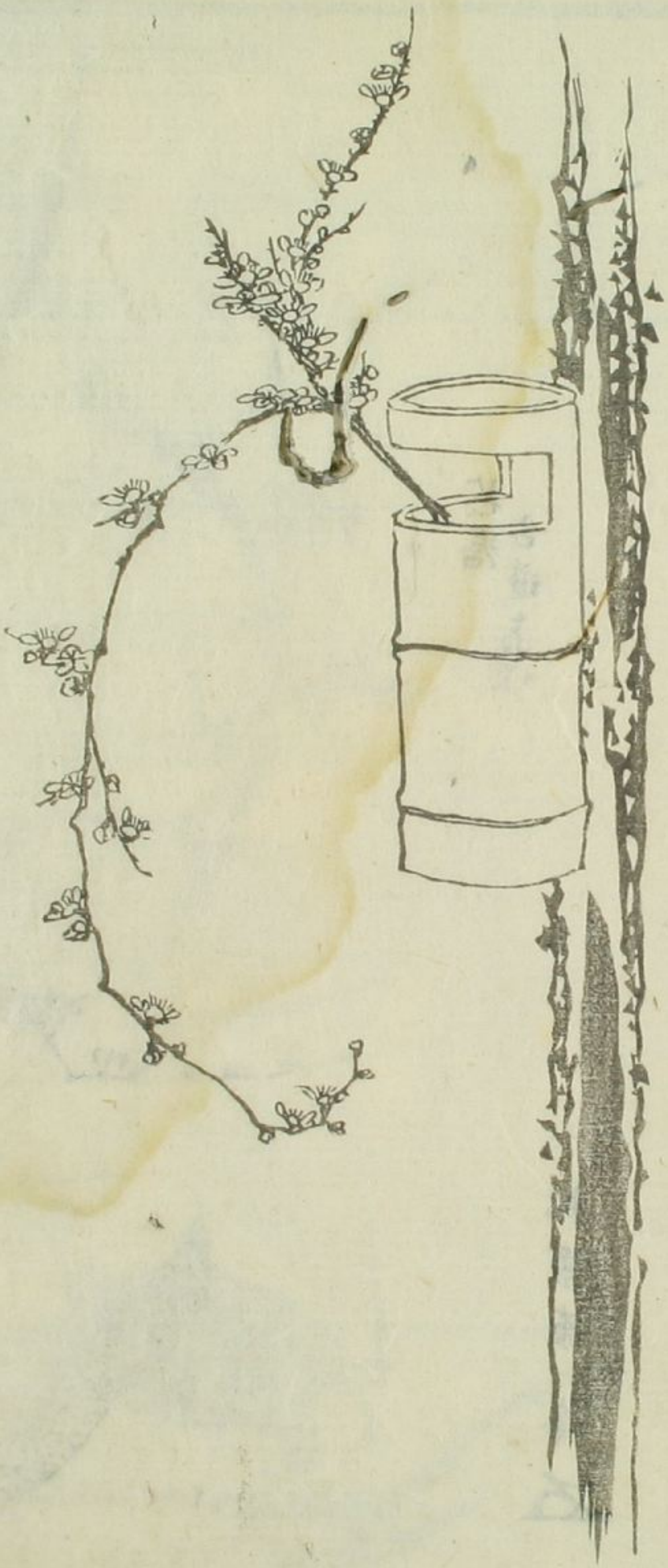
村松氏
女如柳

柳椿
之解



山崎一照

早咲梅



三浦一入

衣の香 魯と名 口傳



古器 古道高作

松雲齋一峯 五

衣の香 魯と名 口傳



北器 古道高作

中野一嶽 五

知の果

無三茶



游五将

漢法一馬公



松の香 巻四 四

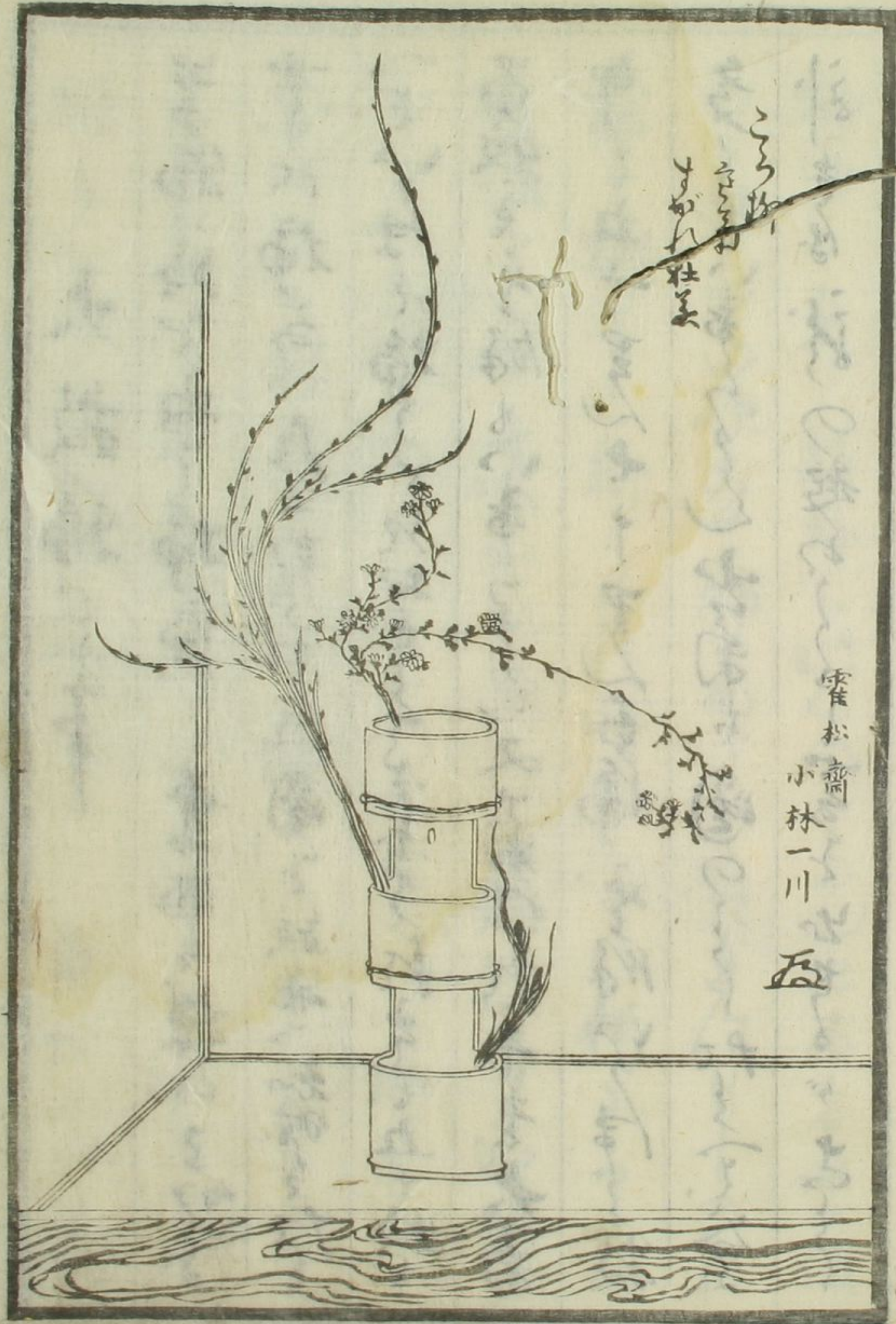


松の香

扇松齋
鈴木一興

松の香 巻四 四

松の香

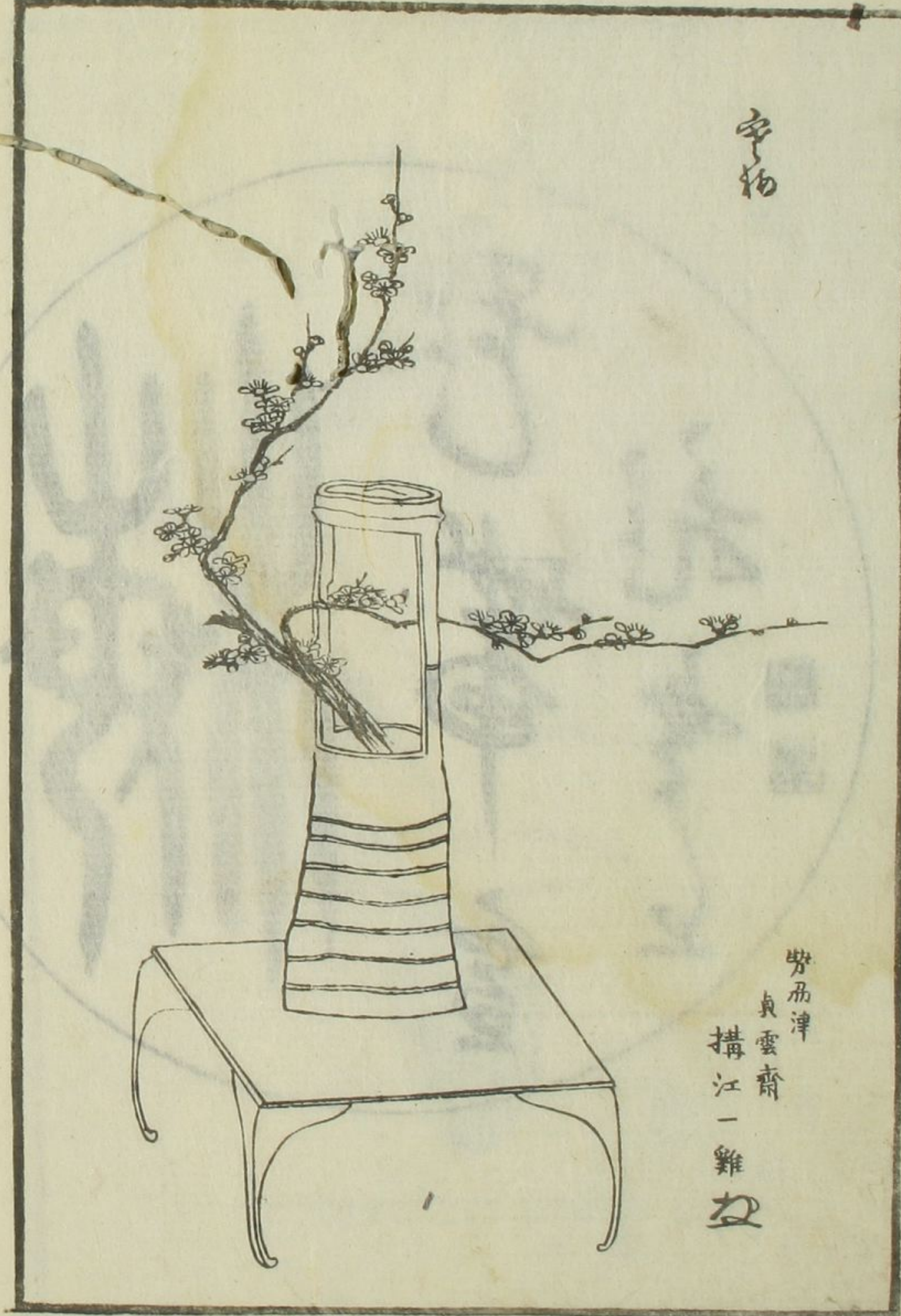


花
枝

霍松齋
小林一川
五

花
枝

五



花
枝

勞而津
貞雲齋
構江一難
五

花
枝

五

大板挿入事

子物に似て收へ挿入せし葉あを株の口の
やうに挿入するなむとて人國を旅して知時とた
ていはれ挿入せしおのこも葉より新くは五十粒
百粒もぞ解る事とて又も葉は数を数え大菊
句と五十粒と七十粒と百粒と解りし事とて
多しといふ事とてしと菊の園のこたへて
計き入し法の起りてしと書と出せりと書

挿入しとて板挿入しはたまひに但し右の方口付
ありておのす板はすなりとてしと書とてしと書
或は板よりし挿入し葉ももに何よりしと書
此法よりして多く知ぬ事勿論板挿入の事
外ぬものなりとて書りし人等より挿入は
常代に推ししとて保繪りしとてしと書とて
しとてしとてしとてしとてしとてしとてしと
時よりおのす知なりとてしと書とてしと書



大菊
六十五号

関根一松



小菊
松坤

柏木一露

の仙五十七



中野一松

大正

物
立
松



萬松齋
高橋一秀



五十一之牧
しんらに

貞松齋
米一馬五

為

萬物應時而有流行之
變化也插蒼之風體古
今不一流，派，不同
或可看野山水池之草
木千種萬般造化自然

之差也能察其風姿之
大抵則知自然之風體
當自得焉頃日瓶茗流
成明者數十百家互相
爭論未識其是非各嘉

尚此道之盛而可學自
家之蒼方勿必諍他矣
古來吾遠州家之風體
者茶席之挿蒼而不敢
為巧於外粧近一變以

看艷色風情為美也應
時當如是焉然亦不可
違草木之性而加私意
是則瓶荃者流之所可
必守也花道之行于世

尚矣方今愈昌豈不可
喜尚哉時寬政十一歲
次巳未冬東都貞松齋
一馬溪龍寬篤跋挿荃
衣香並書



此本書博のりて作れりて其板也
 之むとすうふいさう、
 之ぬ房中後おらそ
 之ぬ時り作らえり作らえり人この邊を
 之ぬ
 貞松高馬藏板
 寛政庚申の正月

東陽画工 俵屋宗理筆



享和改元^{辛酉}年秋八月發行

大阪

江戸

心齋橋筋順慶町
 本銀町二丁目
 柏原屋清右衛門
 下谷御成小路
 須原屋善五郎
 日本橋通二丁目
 足利屋勘七
 小林新兵衛

蓮

白子

池
主
人
氏

早稲田大学図書館

011688995045